クボタトラクタ

取扱説明書

GL 200・220・240 260・268・280 300・320・338 368・418

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

 注意マーク

 火気厳禁

 ディーゼル軽油

 燃料（残量）

 グロー

 バッテリ充電異常

 エンジンオイル圧力異常

エンジン停止

 エンジン水温

 ホーン

 方向指示器

 ヘッドライト（下向）

 ヘッドライト（上向）

 作業灯

 シャトル（前後進切換）

 アクセル高

 アクセル低

 倍速ターン

 水平制御

 自動耕深制御

 後進時作業機上昇

 ３点リンク（上げ）

 ３点リンク（下げ）

 ワイパ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

T0070-1920-1

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，型式仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめの上，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はGL240を基本とし，GL240と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 大きさ別によって……………………………………「200仕様」「220仕様」「240(J)仕様」
  「260(K)仕様」「280(J)(K)仕様」
  「300(E)仕様」「320(E)仕様」
  (小型特殊自動車)
  「268仕様」「338仕様」「368仕様」
  「418仕様」(大型特殊自動車)
- パワーステアリング付き…………………………「S仕様」
- モンローマチック付き……………………………「M仕様」
- モンローマチックオート付き……………………「MA仕様」
- ノンクラッチトランスミッション付き(F)………「Uシフト仕様」
- AD(オートディスクブレーキ)付 …………………「BS仕様」
- Eスペシャル…………………………………………「ES仕様」
- 安全キャブ付(ヒータ付)…………………………「Q_1仕様」
- 安全キャブ付(クーラ・ヒータ付〈小型特殊自動車〉
  エアコン付〈大型特殊自動車〉)…「Q_3仕様」

目　次

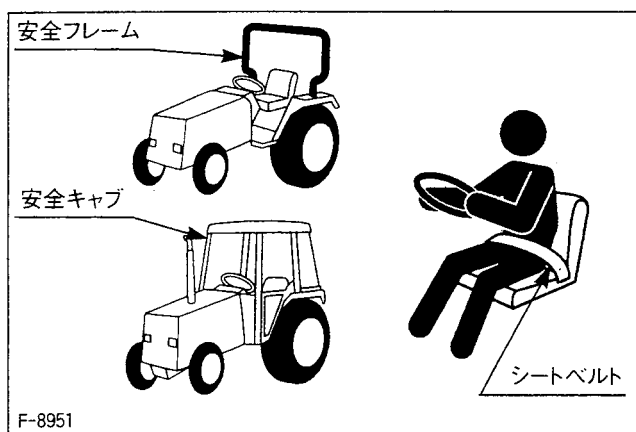
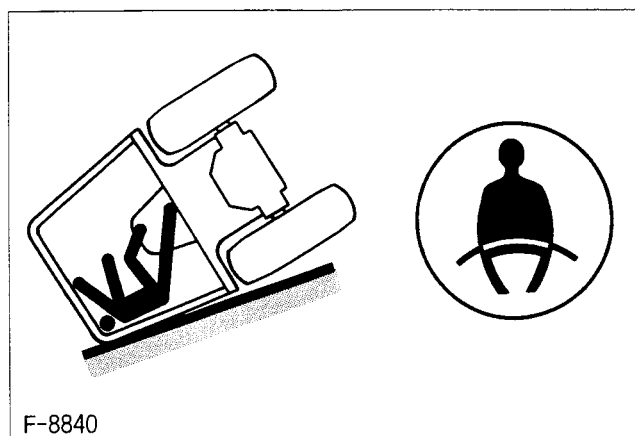
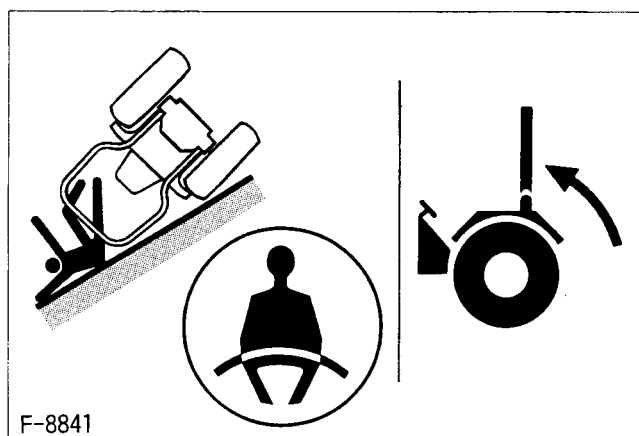
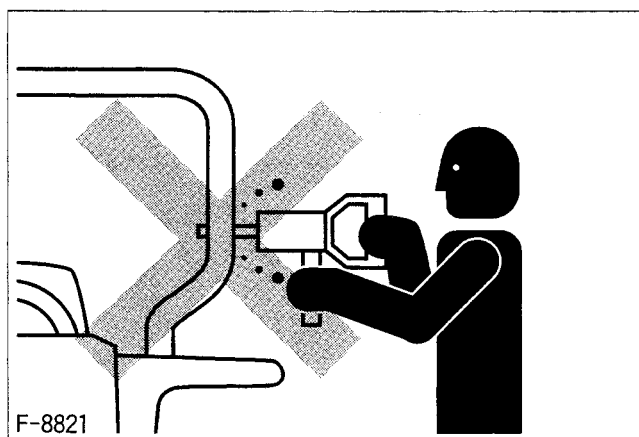
安全キャブの取扱い方法は、本書の巻末に掲載してあります。

▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全キャブ，安全フレームについて

安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

(1)運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。

(2)安全フレームを取外して運転しないでください。
(3)納屋の出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
(4)安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
(5)安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

(6)安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

安全に作業するために

2．運転前に

(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

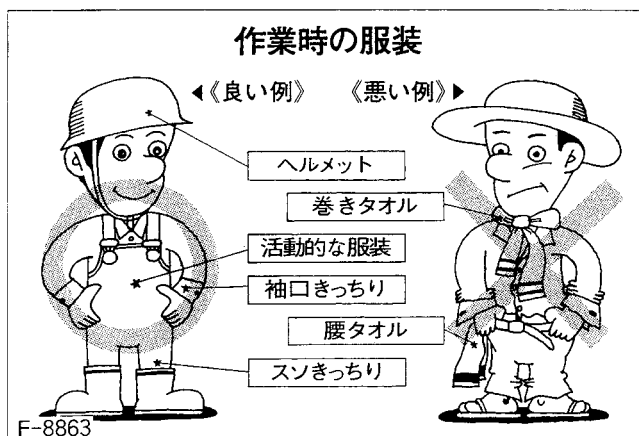
(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

F-8822

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。

F-8863

(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は **“トラクタの簡単な手入れと処置”** の章参照)

(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

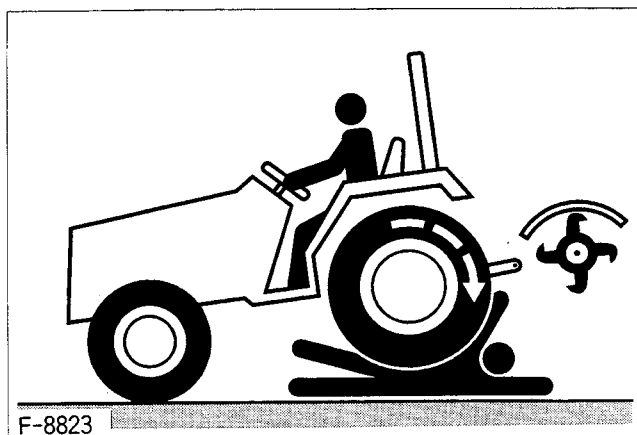
3．始動時に

(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが **“中立”** かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

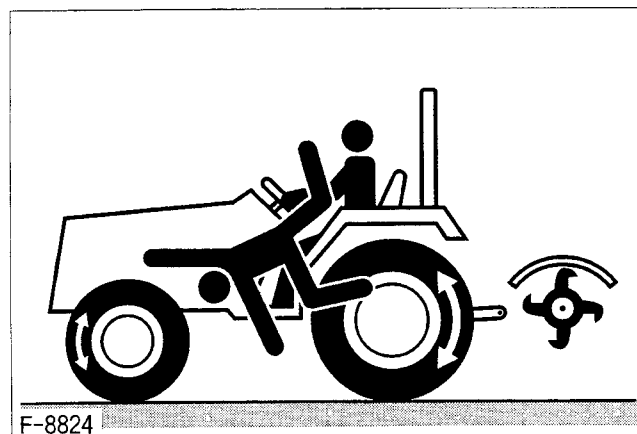
(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

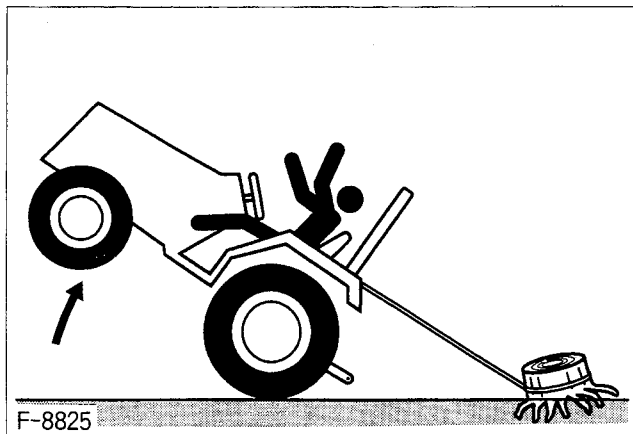
F-8861

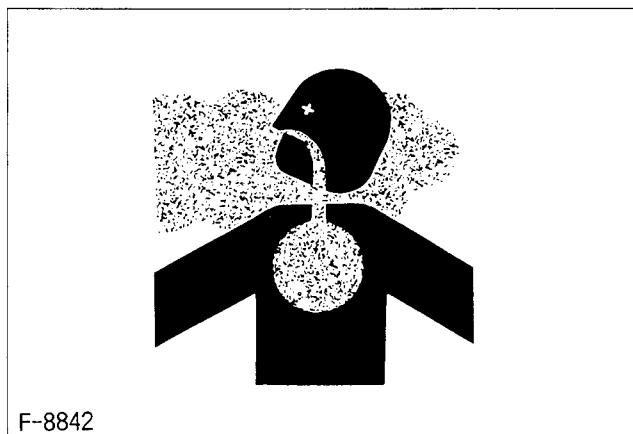
(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

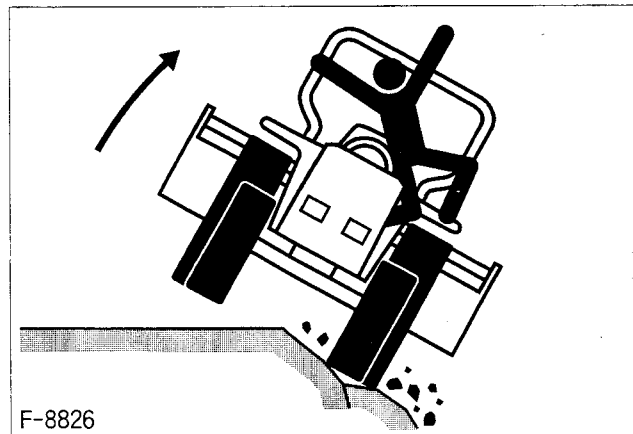
F-8823

4．運転時に

(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。

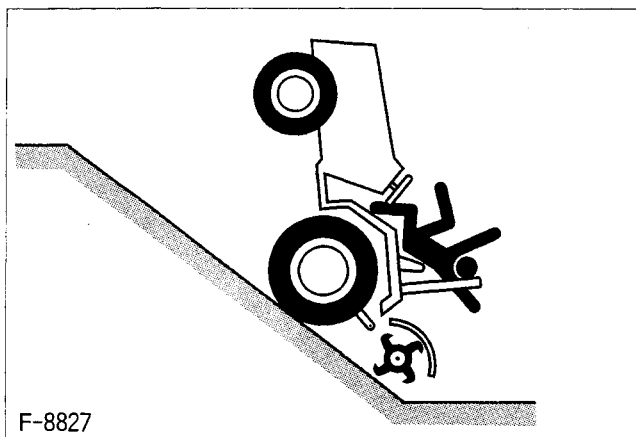
F-8824

(2)けん引作業には，けん引ヒッチ(別売)を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。

F-8825

(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。

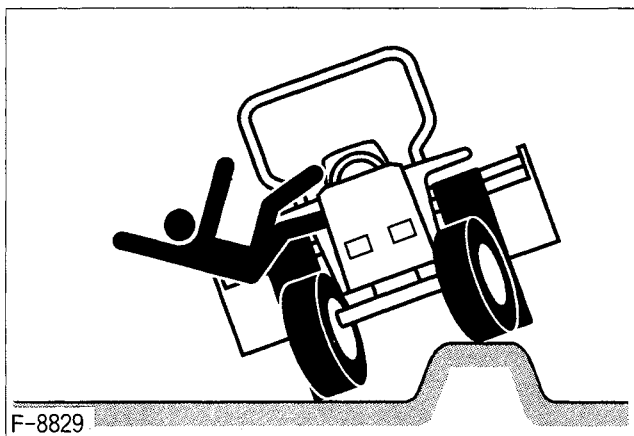
F-8842

(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。

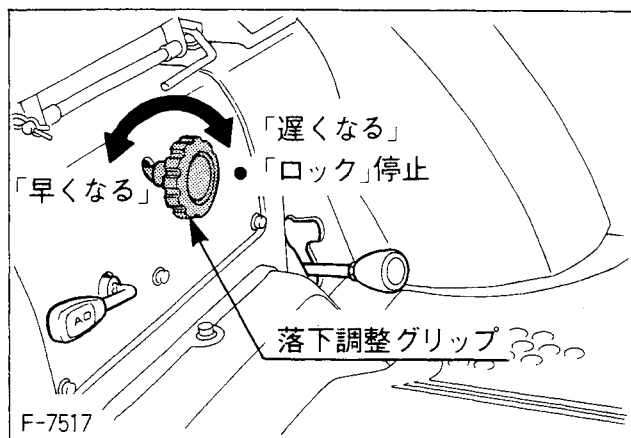
F-8826

安全に作業するために

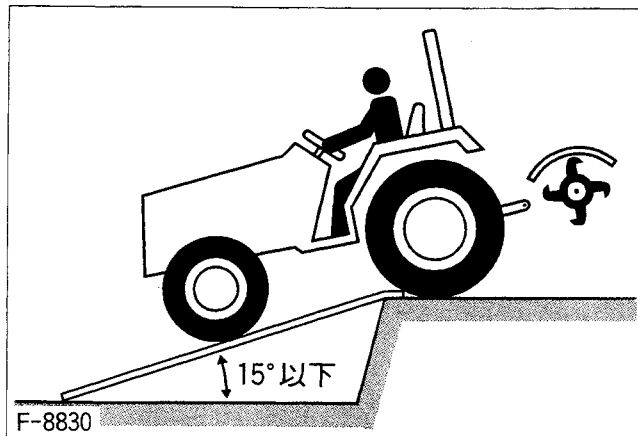
(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

F-8827

(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

F-8829

(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。

F-7517

(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

F-8830

傾斜が15°以下になる長さのものを使用する。

(10)急な坂道・車両への積込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

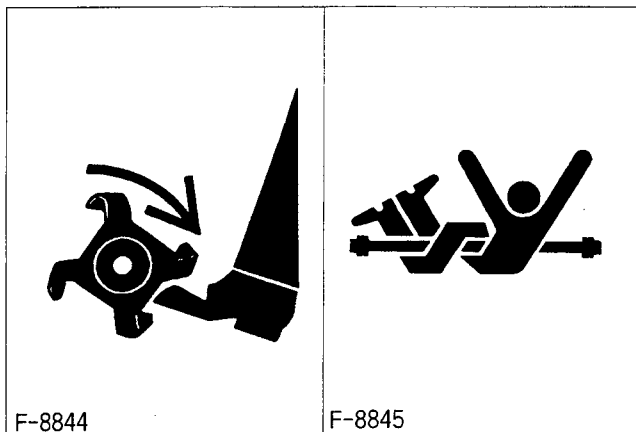
(11)倍速ターンはほ場以外では **“切り”** にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。

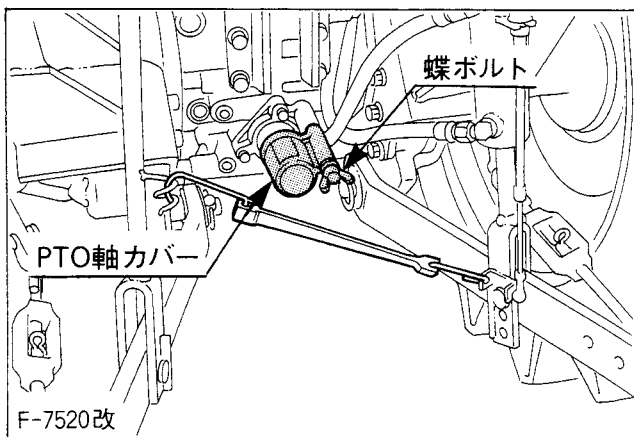
F-8862

5．作業機使用時に

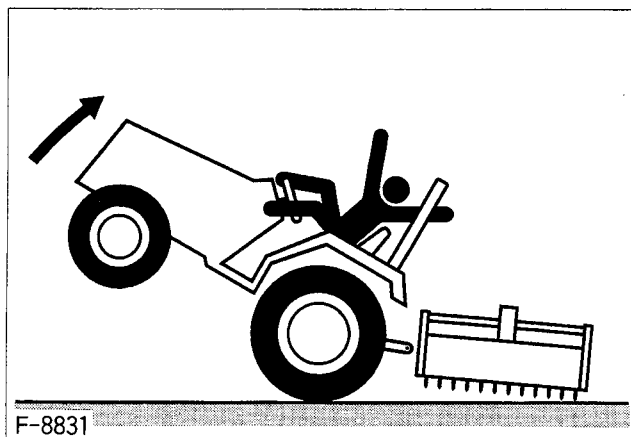
(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

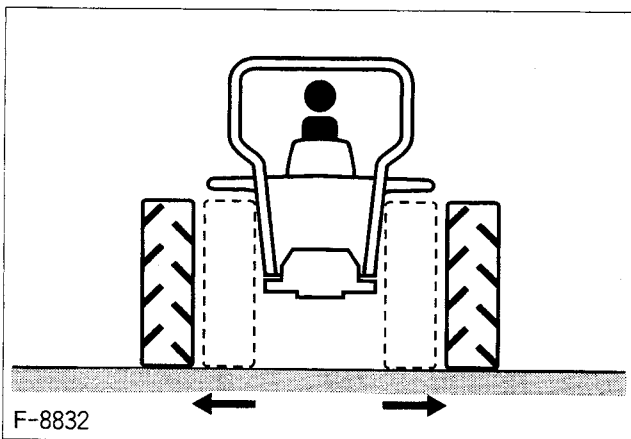
F-8844　F-8845

(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップ(ＰＴＯ軸カバー)を装着しておいてください。

F-7520改

(4)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

(5)３点リンク用作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。

F-8831

(6)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

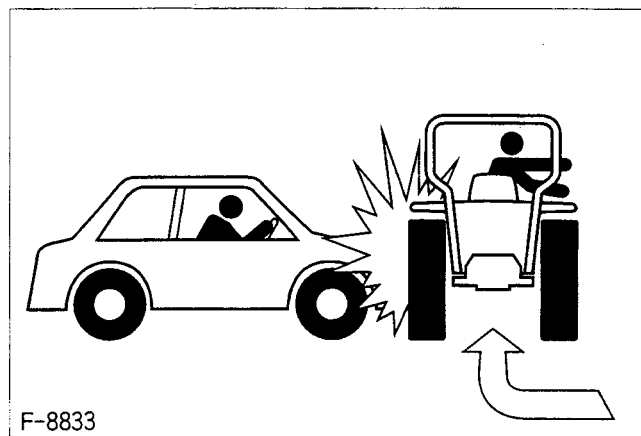
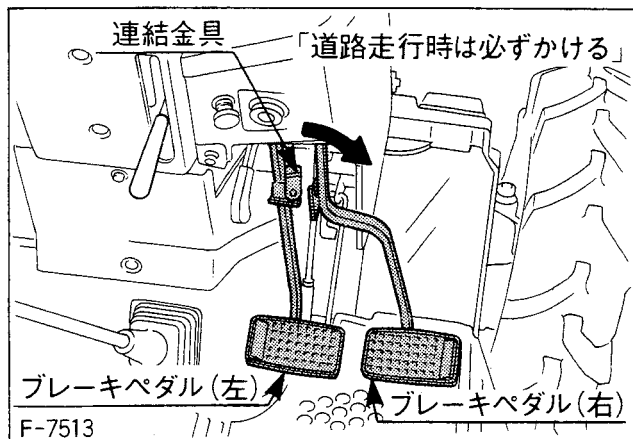
(7)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。

F-8832

安全に作業するために

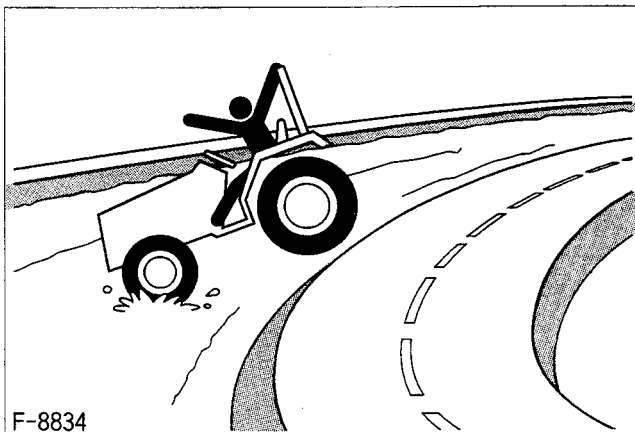
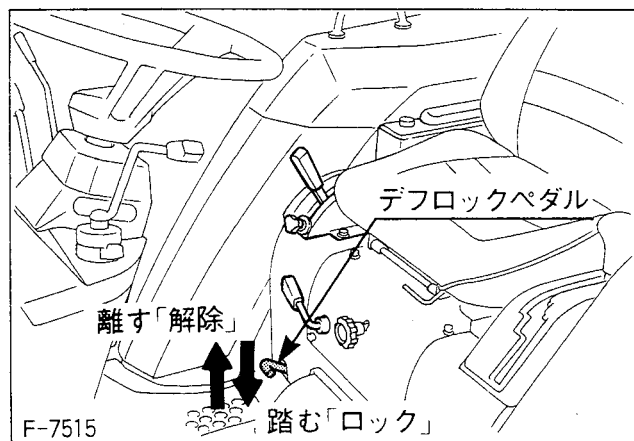
6．道路走行時に

(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。

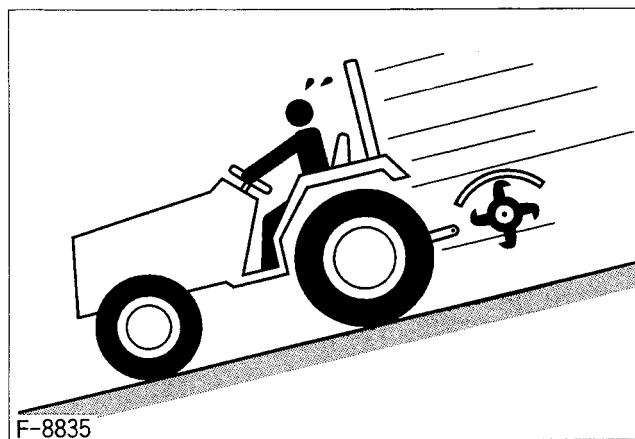
F-7513

F-8833

(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。

F-7515

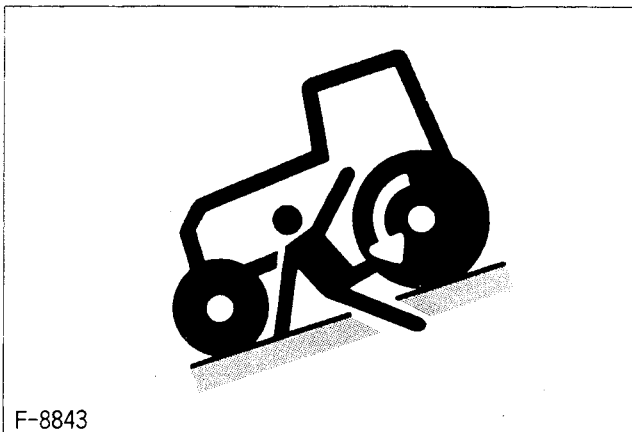
F-8834

(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。

F-8835

(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
ナンバプレートを付け，車検証（大型特殊自動車のみ）と運転免許証は携行してください。

7．駐車，格納時に

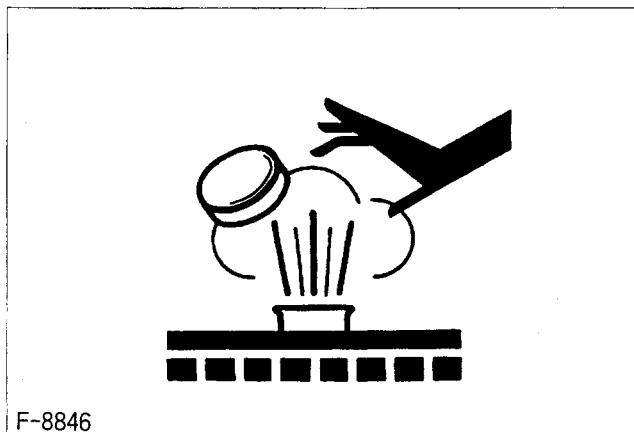
(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，変速レバーを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。

F-8843

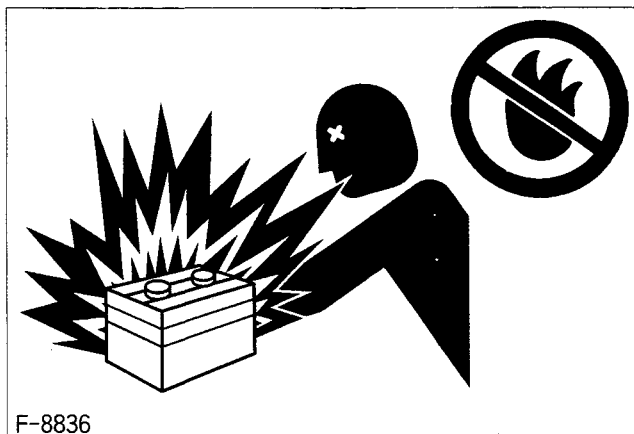
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災の恐れがあります。

(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。火災の原因になります。

8．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

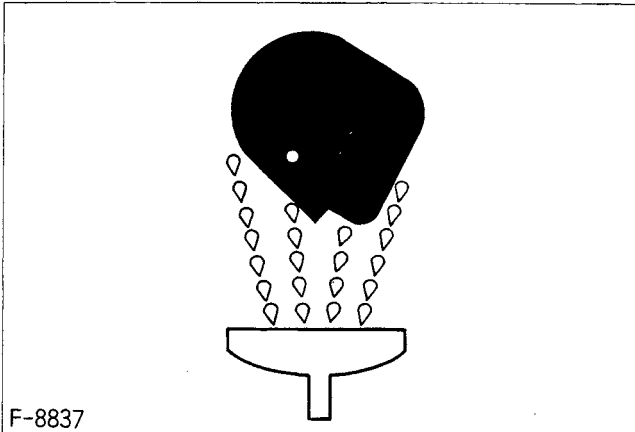
(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。

F-8846

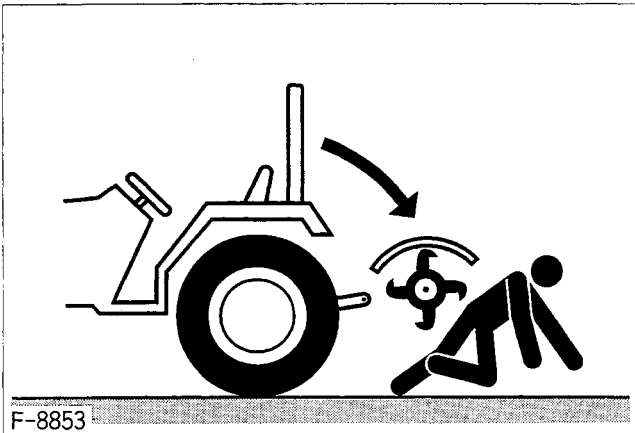
(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。

F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの運転の章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

安全に作業するために

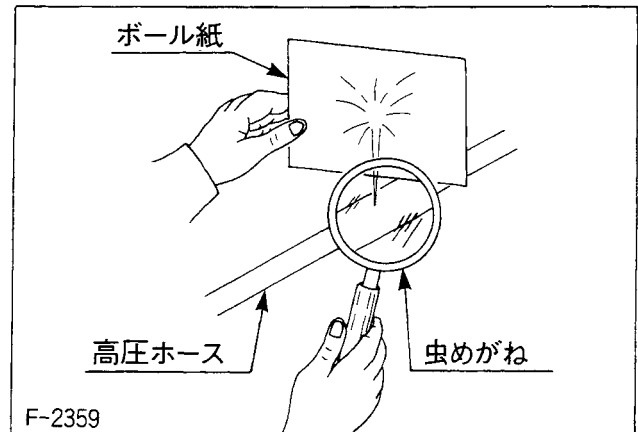
(5)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

(6)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

F-8837

(7) 3点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

F-8853

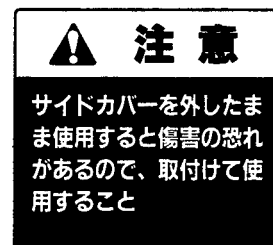
(8)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(9)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

F-8847

F-2359

9. ▲表示ラベルと貼付け位置

①品番　T0180-4954-1

②品番　T0180-4956-1

④品番　T0180-4955-1

⑤品番　T0180-4958-1

③品番　T0180-4957-1

⑥品番　T0180-4965-2

安全に作業するために

①品番　T0180-4954-1

②品番　T0180-4956-1

④品番　T0180-4955-1

⑤品番　T0180-4958-1

③品番　T0180-4957-1

⑥品番　T0180-4965-2

GL368・418 仕様

GL368・418 仕様

①品番　T0180-4904-1

⚠ 警　告

転倒による死傷事故をふせぐためにけん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

②品番　T0180-4959-1

⚠ 警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
- ＰＴＯ軸の回転中は近づかないこと
- 使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

③品番　T0070-4901-2

⚠ 警　告

転倒、転落による死傷事故 軽減のために:
- 納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
- 安全フレームを折った状態では、シートベルトを着用しないこと。

④品番　T0180-4931-1

注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

運転時
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- ３点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

安全に作業するために

①品番　T0180-4902-2

②(BS仕様のみ)
品番　T0170-1780-1

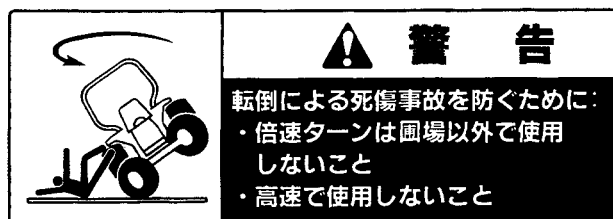
ＡＤ切換えレバーの取扱い

①切換え操作するときは、前輪を直進状態にして下さい
②「入」にするときは、倍速ターンも「入」にして下さい
③下記変速レバー位置では、「入」にできません

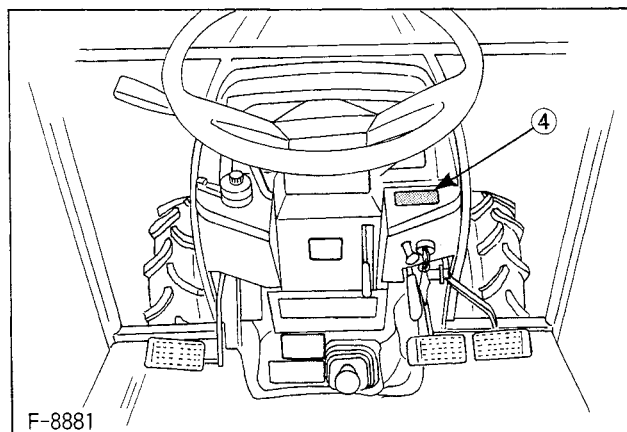
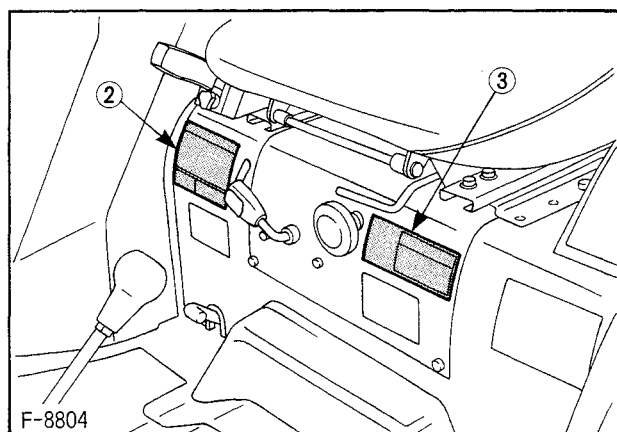
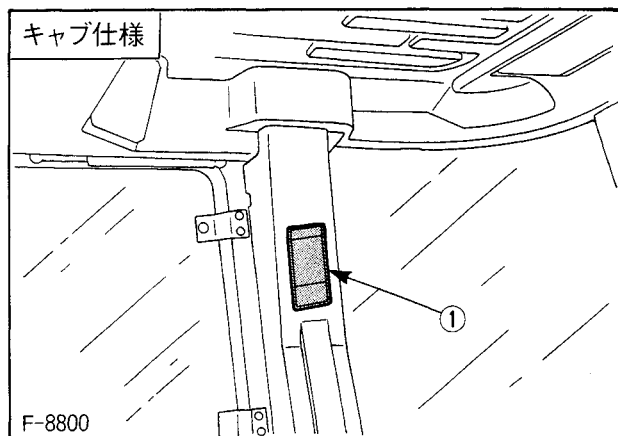
	主変速	副変速	クリープ
マニュアルシフト仕様	——	H	H
Uシフト仕様	5～8	——	H

▲注意　あぜ上がり時、道路走行時は必ず「切」にすること

③品番　T0180-4905-1

転倒による死傷事故を防ぐために:
・倍速ターンは圃場以外で使用しないこと
・高速で使用しないこと

④品番　T0180-4966-1

▲注 意

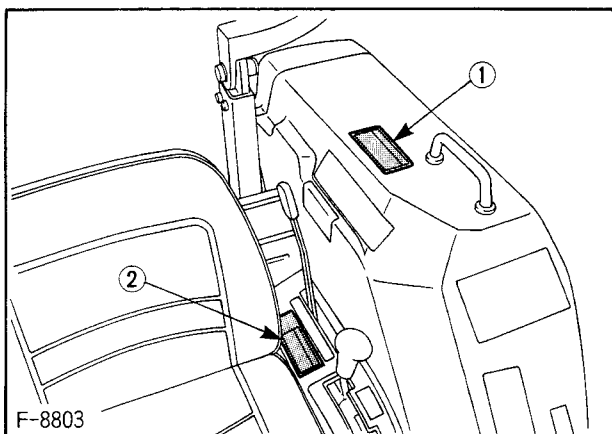
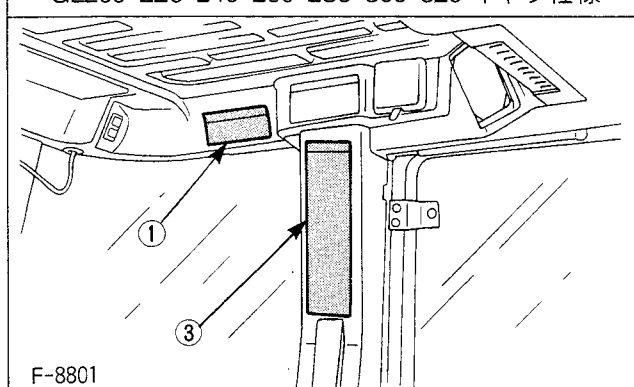
ポンパは、ほ場内作業にのみ使用すること。作業時以外は、作業機上げ下げを油圧レバーで行うこと

①(Uシフト仕様のみ)
品番　T0180-6497-1

⚠ 注　意

低温始動時Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと
遅れて動き出しキケンです
傾斜面でのUシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走する恐れ
があるので、低速で走行し、途中変速しないこと

②(Uシフト仕様のみ)
品番　T0180-4906-1

⚠ 警　告

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため
必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速キヤを入れていてもエンジンを
とめるとエンジンブレーキはききません

③品番　T0180-4907-1

⚠ 注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

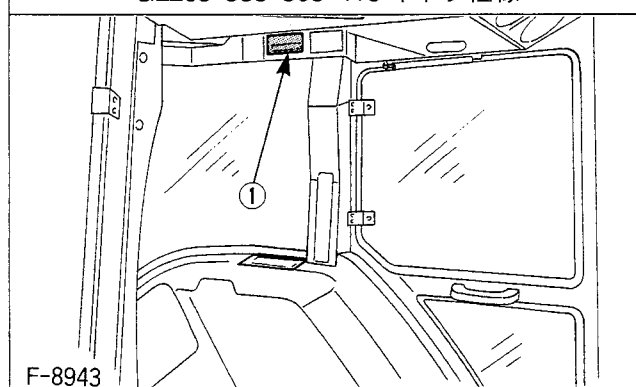
始動時
・シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

GL200·220·240·260·280·300·320 キャブ仕様

GL268·338·368·418 キャブ仕様

▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

①品番　T0180-4931-1

▲ 注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

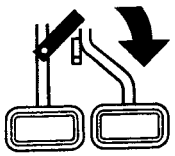
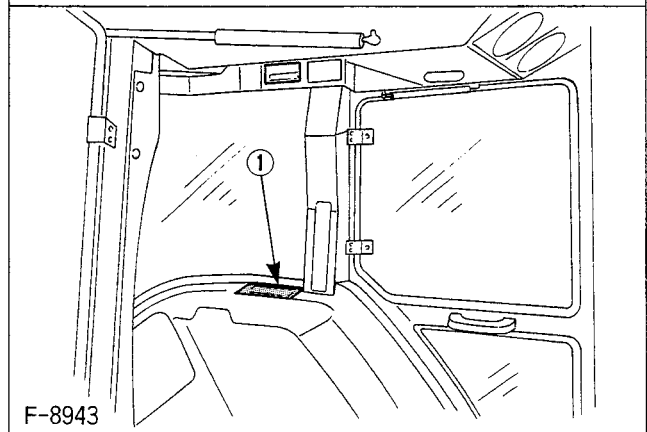
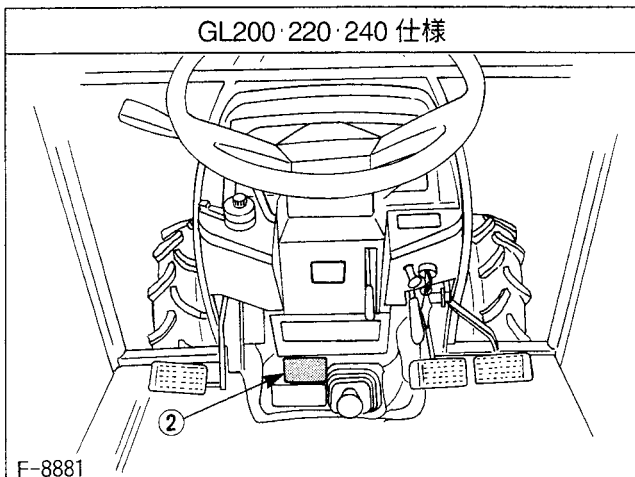
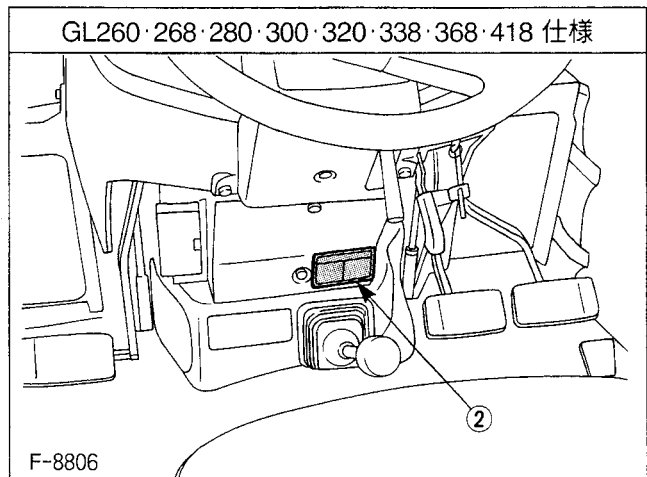
始動時
・シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

運転時
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・３点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

②品番　T0180-4903-2

GL338·368·418 キャブ仕様

GL200·220·240 仕様

GL260·268·280·300·320·338·368·418 仕様

10. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買いあげいただいた購入先に，それぞれ「ご相談窓口」を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　(1)本機名称と車台番号
　　　　(2)エンジン名称とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

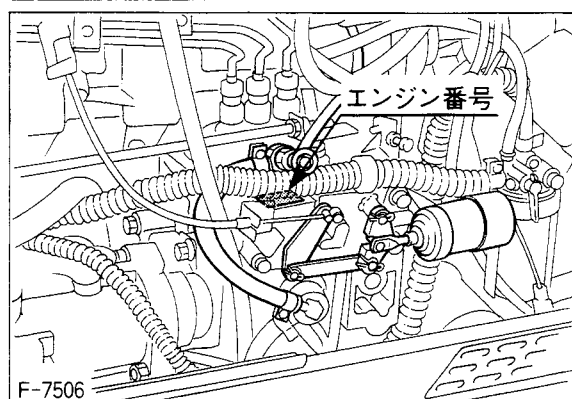
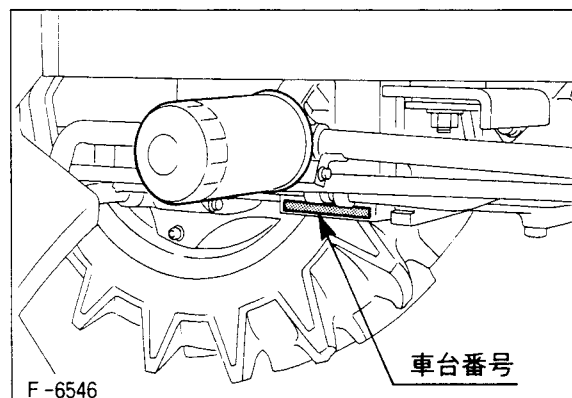
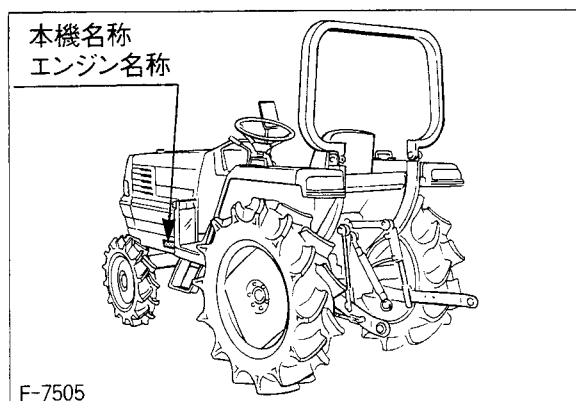
なお，部品のご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

 警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

F-7505

F -6546

F-7506

農　機　型　式　名	型式検査(国検)合格番号
クボタGL260	93033
クボタGL280	93034
クボタGL300	93035
クボタGL320	93036
クボタGL268	93037
クボタGL338	93038
クボタGL368	94062
クボタGL418	94063
クボタGSF23(安全フレーム)	93010
クボタGSF27(安全フレーム)	94082
クボタGSF280(安全フレーム)	94083
クボタGSF32(安全フレーム)	93045
クボタGSF418(安全フレーム)	94068
クボタGSQ240(安全キャブ)	93042
クボタGSQ260(安全キャブ)	93008
クボタGSQ320(安全キャブ)	93009
クボタGSQ338(安全キャブ)	93043
クボタGSQ418(安全キャブ)	94067

農　機　型　式　名	安全鑑定適合番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
クボタGL200	18011	クボタGLAD	農1828号，改造型
クボタGL220	18012	クボタGLBD	農1829号，改造型
クボタGL240	18013，改造型	クボタGLBD	農1829号，改造型
クボタGL260	18014	クボタGLDD	農1831号，改造型
クボタGL280	18015	クボタGLDD	農1831号，改造型
クボタGL280Q(キャブ付)	18015	クボタGLID	農1918号，改造型
クボタGL300	18016	クボタGLED	農1832号，改造型
クボタGL300E	19123	クボタGLDD	農1831号，改造型
クボタGL320	18017	クボタGLED	農1832号，改造型
クボタGL320E	19124	クボタGLDD	農1831号，改造型

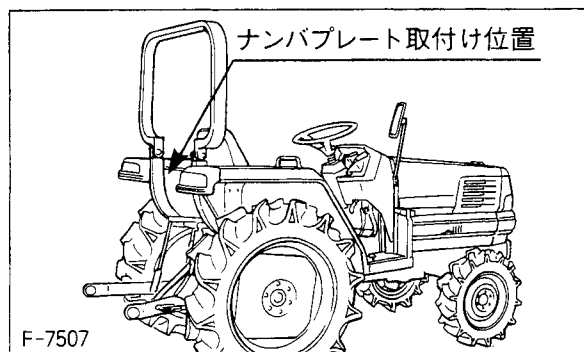
農　機　型　式　名	安全鑑定適合番号	大型特殊自動車車両型式名	新型自動車登録番号
クボタGL268	—	クボタGLHD	新型自動車第91741号
クボタGL338	—	クボタGLJD	新型自動車第91742号
クボタGL368	—	クボタGLHA	新型自動車第91984号
クボタGL418	—	クボタGLHB	新型自動車第91985号

●検査成績表は72～84ページをご覧ください。
（安全キャブ検査成績表はキャブ付取扱説明書18～22ページをご覧ください。）

小型・大型特殊自動車としての取扱い

小型特殊自動車について

■届出

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。
（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。）

■運転免許

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最　高　速　度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

上記の条件を満足する構造を有する自動車で，このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので，次のようなことには特にご留意ください。

(1)認定を受けたエンジン以外は，搭載して運行することはできません。
(2)認定時の構造を変更（大径車輪やフロントローダなどを装着）した状態では，運行することはできません。
(3)エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。

重　要

＊ロータリ，フロントローダなどの作業機を装着して公道を走行することは，「道路運送車両法」で禁止されており，走行できません。
＊作業灯は，「道路運送車両の保安基準」第42条（灯火の色等の制限）において，「走行中に使用しない灯火」とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

大型特殊自動車について
【GL268・338・368・418仕様】

GL268・338・368・418仕様は，大型特殊自動車として認可されておりますから，次の手続きが必要です。

■登録

大型特殊自動車として登録申請し，ナンバプレートの交付及び封印の取付けを受けなければなりません。
(ナンバプレート取付け位置は前ページ参照)

■自動車保険

大型特殊自動車の運行には，自動車損害賠償責任保険が必要です。

■運転免許

公道を走行する場合は，必ず大型特殊自動車の運転免許証と自動車検査証を所持してください。

■整備

このトラクタを運転する場合，1日1回運転の前に点検をしなければなりません。又，6カ月ごとに点検整備することが必要です。なお詳しいことは，お買いあげいただきました購入先におたずねください。

■車検

自動車検査証の有効期間は2年間です。有効期限が切れるまでに車検を受けなければなりません。

■輪距

公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は「道路運送車両の保安基準」違反になり，公道を走行することができません。

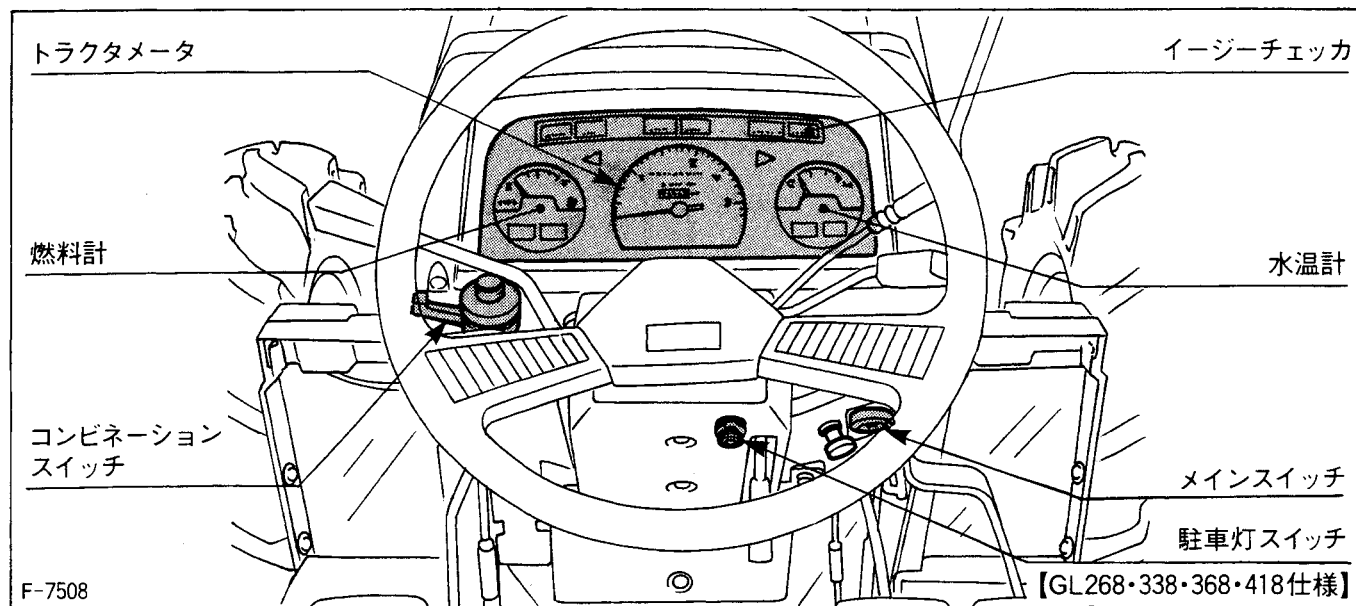
	型　式	タイヤの呼び	輪距(mm)
前　輪	GL268	7-16-4PR(AG)	1080
後　輪		9.5-26-4PR(AG)	1050
		11.2-24-4PR(AG)	
前　輪	GL338	8-16-4PR(AG)	1130
後　輪		11.2-28-4PR(AG)	1110
		13.6-24-4PR(AG)	
前　輪	GL368 GL418	8-16-4PR(AG)	1130
後　輪		12.4-28-4PR(AG)	1180
		13.6-26-4PR(AG)	1155

重　要

＊ロータリ，フロントローダなどの作業機を装着して公道を走行することは，「道路運送車両法」で禁止されており，走行できません。

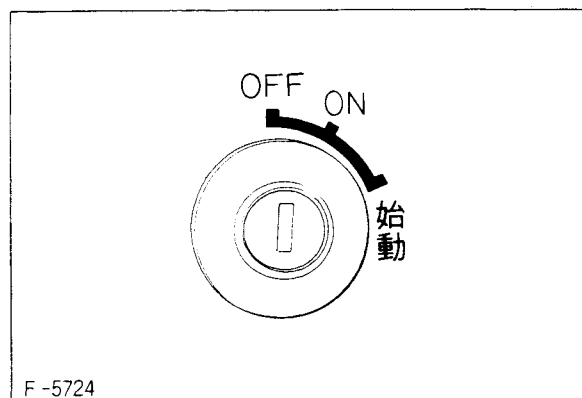
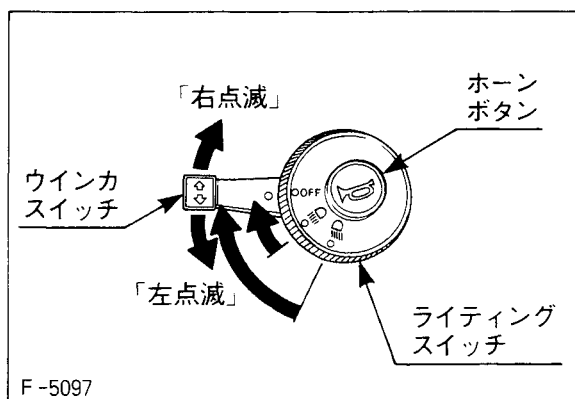
＊作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条（灯火の色等の制限）において，「走行中に使用しない灯火」とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

運転に必要な装置の取扱い

スイッチとメータの取扱い

■メインスイッチ

OFF ………エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ON …………エンジン回転中の位置。

始動…………クラッチペダルをいっぱい踏込んで，エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「ON」に戻ります。

■コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

OFF …………ヘッドランプ消灯位置。

≡D …………ヘッドランプ上向き照射位置。

≡D …………ヘッドランプ下向き照射位置。

◆ウインカスイッチ

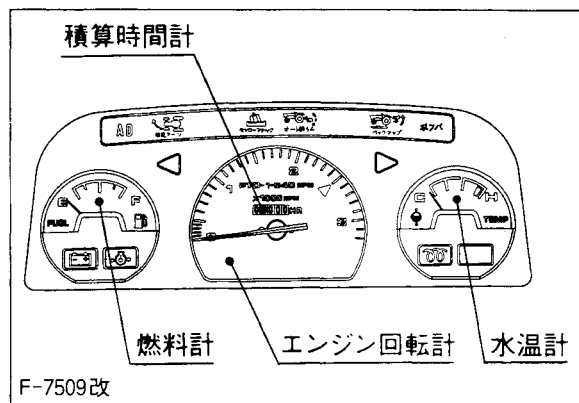
(1)スイッチを操作すると，ウインカランプ及び計器盤のパイロットランプが点滅します。

(2)右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

■トラクタメータ

F-7509改

◆積算時間計

エンジンを定格回転で使用した場合の時間を示します。
白わく内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。〔例〕0170(1)……170時間6分

◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を示します。

■燃料計

メインスイッチ「ON」のとき，燃料タンク内の残量を示します。

補 足

＊Eに近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。

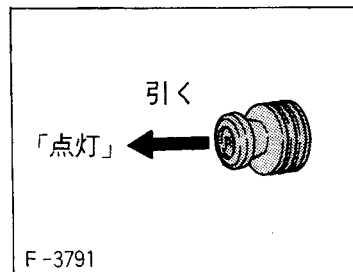
■水温計

メインスイッチが「ON」のとき冷却水温を示します。
「C」は低温，「H」は高温です。
指針が「H」(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから31ページ「◆オーバヒートしたときの処置」をご参照のうえ点検してください。

【GL268・338・368・418仕様】

■駐車灯スイッチ

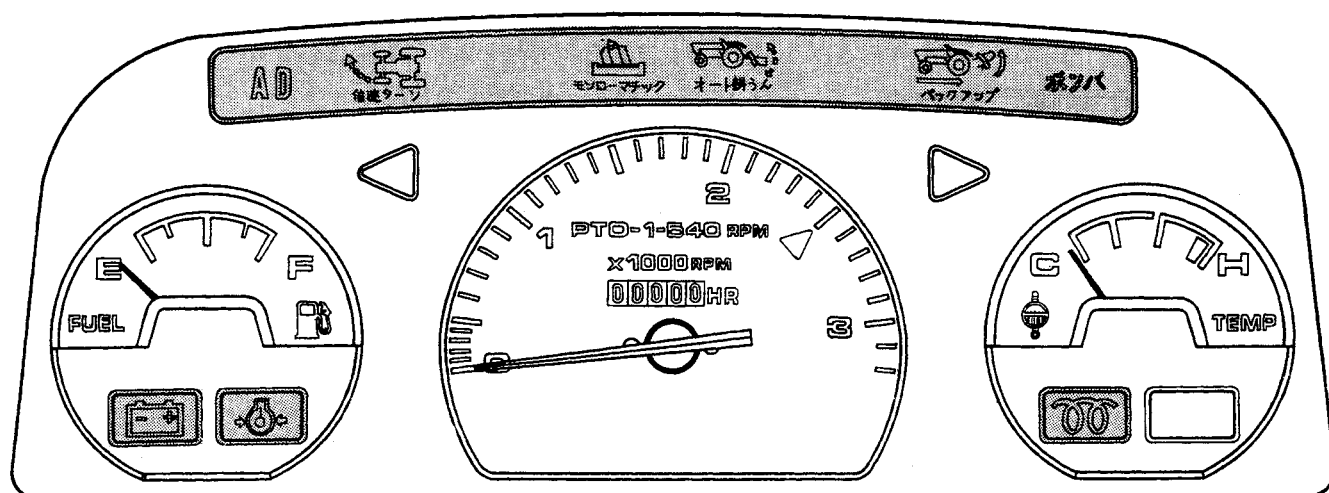
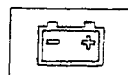
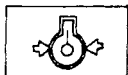
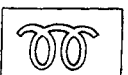
メインスイッチを「OFF」にしてスイッチを
引く……駐車灯が点灯します。
押す……駐車灯が消灯します。

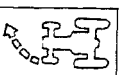
F-3791

■バックランプ

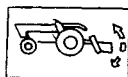
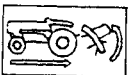
シャトルレバーを「後進」の位置に入れると，バックランプが点灯します。

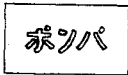
■ブレーキランプ

ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。

■イージーチェッカ

F-7509改

バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
メインスイッチを「ON」にすると点灯し，始動すると消灯します。

エンジンオイルランプ
(エンジン油圧警告灯)
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジン油圧警告灯です。メインスイッチを「ON」にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

グローランプ
メインスイッチを「ON」にすると点灯し，燃焼室内の予熱が完了すると消灯します。

ADランプ【BS仕様】
ADを「入」にすると点灯します。

倍速ターンランプ(倍速ターン表示灯)
倍速ターンに変速すると点灯します。

モンローマチックランプ【M・MA仕様】
コントローラのモンロ／3P切換えスイッチを「標準ロータリ」「2」「3」「4」(モンロ入)にすると点灯します。

オート耕うんランプ【MA仕様】
コントローラのオート切換えスイッチを「標準」「敏感」「Eオート」(オート入)にすると点灯します。
自己診断時は自己診断ランプとして使用します。

バックアップランプ【MA仕様】
コントローラのバックアップスイッチを「ON」にすると点灯します。

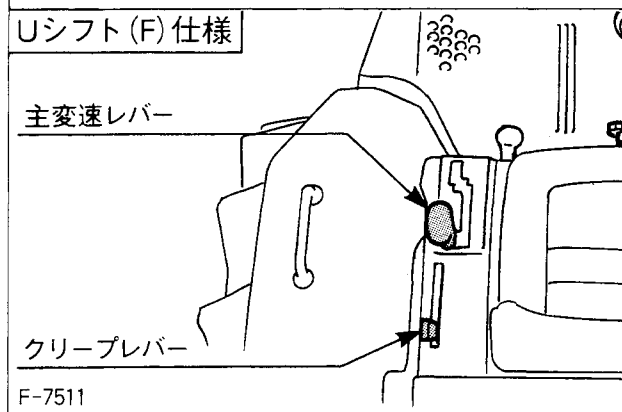
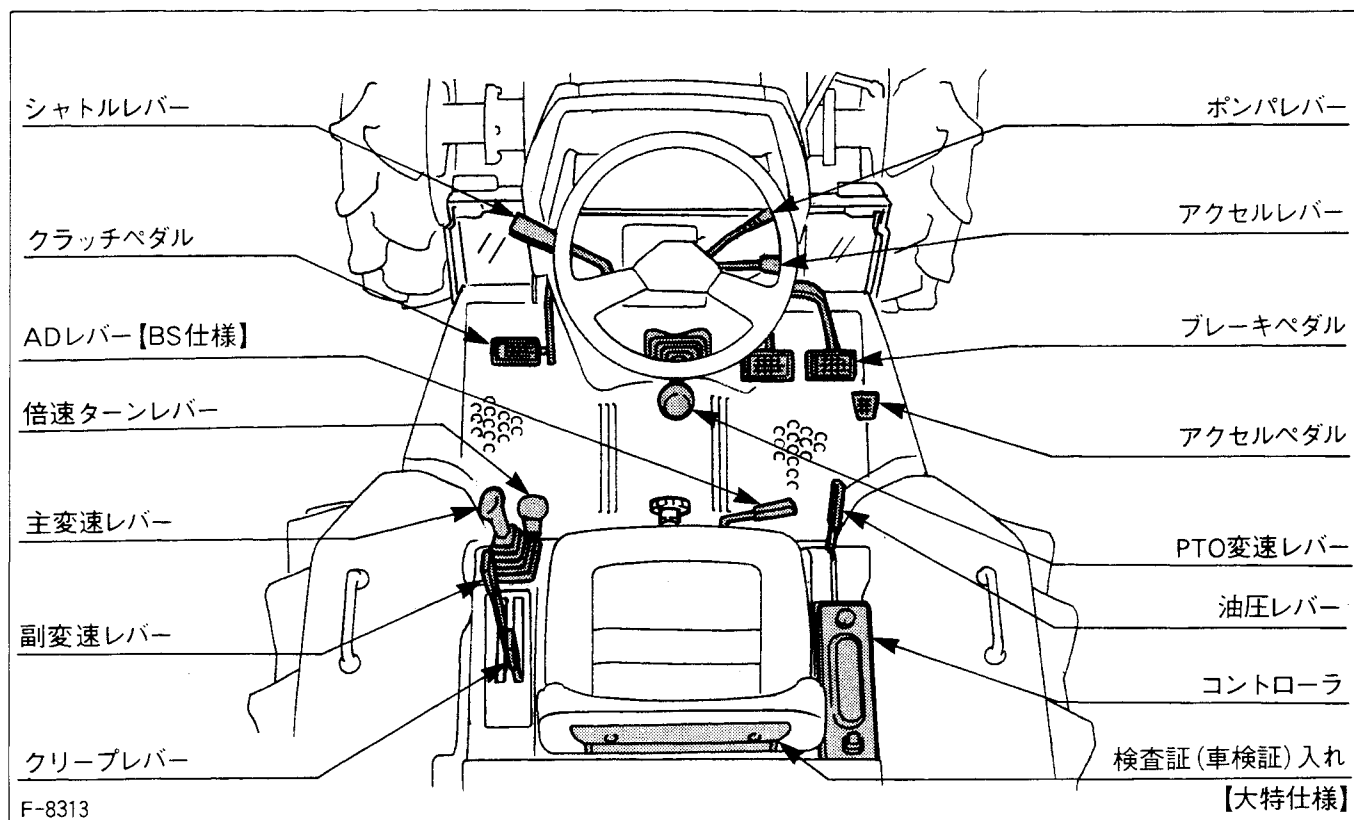
ポンパ

ポンパランプ【MA仕様】
ポンパレバーでリフトアームを上げると点灯します。
点滅しているときは，ポンパレバー又は油圧レバーで解除してください。
(17ページ参照)

重 要

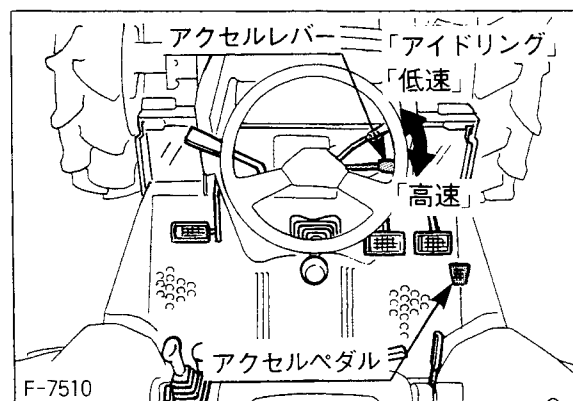
＊イージーチェッカのみで日常点検は済ませず，点検は確実に行なってください。(36ページ「仕業点検」参照)

運転装置の取扱い

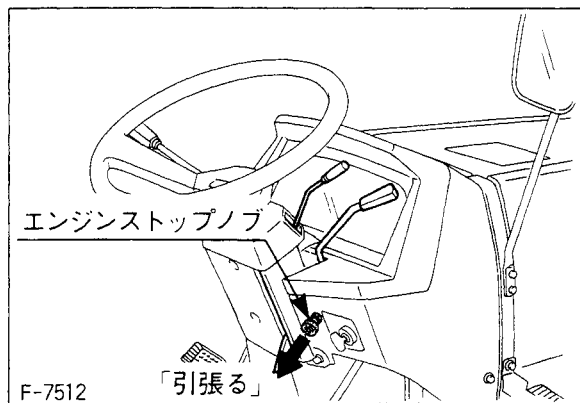
F-8313

F-7511

■アクセルレバーと アクセルペダル

アクセルレバー……主に農作業時に使用する。
アクセルペダル……主に道路走行時に使用する。
アクセルペダルは，アクセルレバーと連動しており，
ペダルを踏込む…………エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アイドリング状態。

F-7510

■エンジンストップノブ

メインスイッチを「OFF」にすると，エンジンが自動的に「停止」します。
万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい「引張る」と，エンジンが「停止」します。

F-7512

重 要

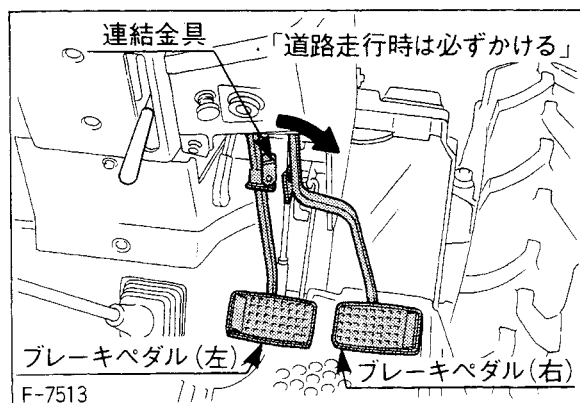
***エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。**

■ブレーキペダル

 警 告

***道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。**
道路走行中に片ブレーキを踏むと，車体が振られ転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
連結金具をかけた状態………道路走行時。
連結金具を外した状態………農作業時。

F-7513

■クラッチペダル

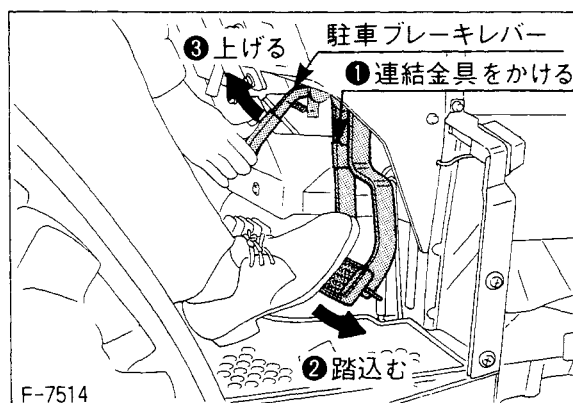
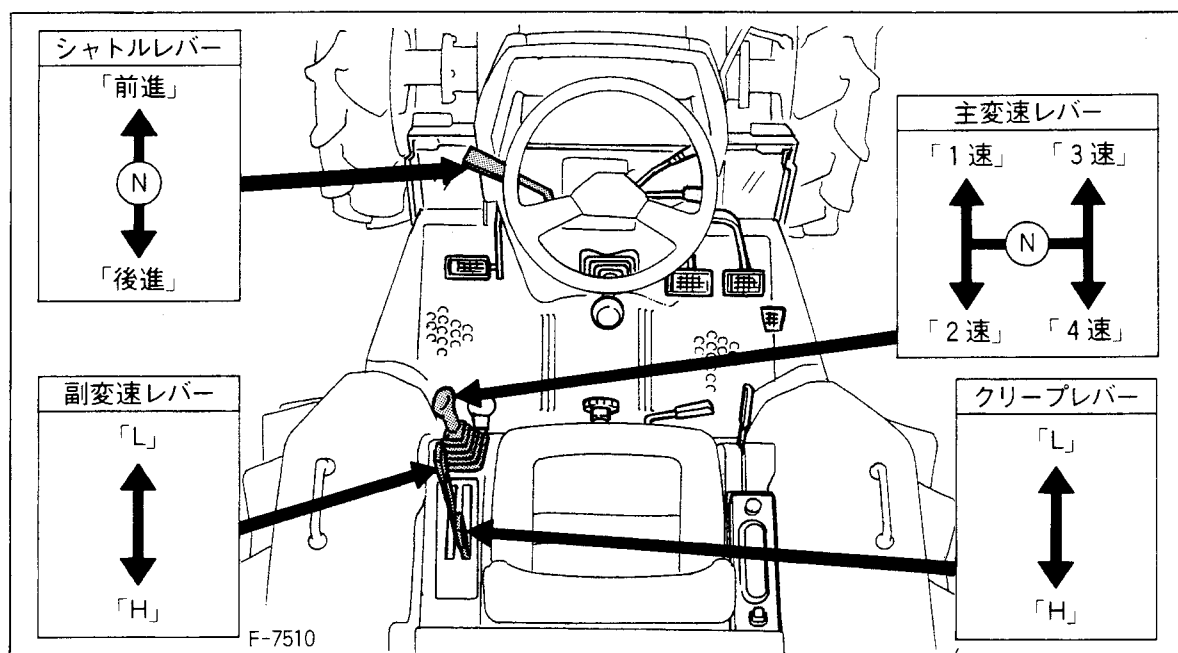
 注 意

***急にクラッチを離すと，急に飛出して危険です。ゆっくり行なってください。**

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む…………クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを上げたまま，足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

F-7514

【マニュアルシフト仕様】

4本のレバー操作を組合せることにより前進16段，後進16段の車速が得られます。

重　要

＊**操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。**

■主変速レバー

レバー1本で4段の車速が選択できます。

■副変速レバー

「**L**」位置で低速，「**H**」位置で高速が得られます。

■クリープレバー

(1)「**L**」位置で低速，「**H**」位置で高速が得られます。

(2)超低速度(クリープ速度)は，使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。
次のことに注意の上ご使用ください。

(1)**使用できる作業**

- ●ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
- ●ロータリ耕うんで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
- ●プランタによる移植作業。
- ●農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
- ●車への積み・降ろし。

(2)**使用できない作業(故障の原因になります)**

- ●湿田での沈没状態からの脱出作業。
- ●けん引・トレーラ作業。
- ●フロントローダ作業。
- ●フロントブレード作業(除雪作業)。
- ●土木作業。
- ●ほ場への出入り。

(3)**超低速度(クリープ速度)を使用するときは，必ず次のことを守ってください。**

- ●変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
- ●発進は，駐車ブレーキを必ず外してから行なってください。
- ●停止は，クラッチを必ず切ってからブレーキをかけてください。

（超低速度(クリープ速度)では車軸の回転力が大変強くなるので，ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。故障の原因になります。）

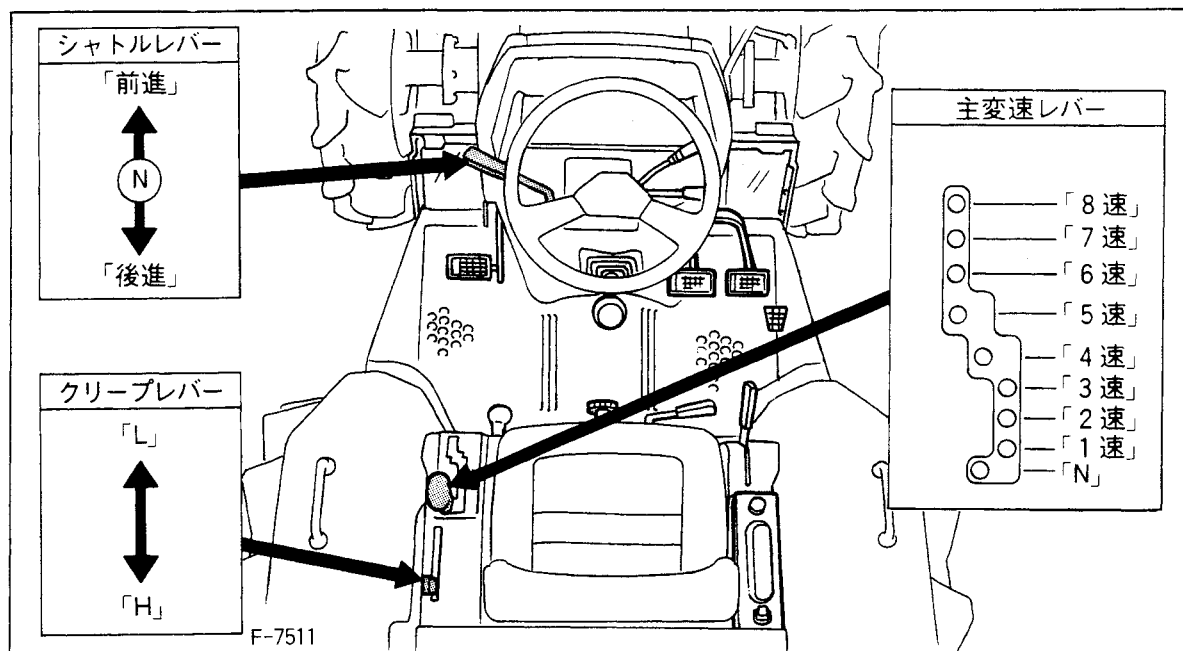
重　要

＊**クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。**

＊**また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバー又はシャトルレバーを「N」(中立)にしてから操作してください。**

■シャトルレバー

レバーを前に押して「**前進**」，手前(後)に引いて「**後進**」です。

【Uシフト(F)仕様】

3本のレバー操作を組合せることにより前進16段，後進16段の車速が得られます。

■主変速レバー

レバー1本で8段の車速が選択できます。
(29ページ「発進・走行」参照)
レバー操作は，発進および走行中に，クラッチペダルを踏まずに(ノンクラッチ)変速することができます。

■クリープレバー

「L」位置で低速，「H」位置で高速が得られます。
(9ページ「マニュアルシフト仕様」参照)

重　要

＊走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■シャトルレバー

＊シャトルレバー操作をする前にエンジン回転を下げてください。

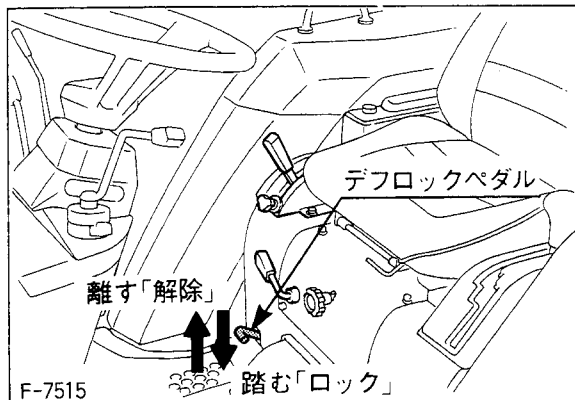
＊「前進」↔「後進」のシフト操作は，いったん「中立」位置にして停止してから操作してください。

レバーを前に押して「前進」，手前(後)に引いて「後進」です。レバー操作は，クラッチペダルを踏まなくても(ノンクラッチ)変速することができます。

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む…………ロックされる。

ペダルから足を離す……自動的に外れる。

◆デフロックの使い方

 注　意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず外してください。
道路走行時は，絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合には非常に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので，注意してください。

(1)農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。

(2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。

(3)プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。

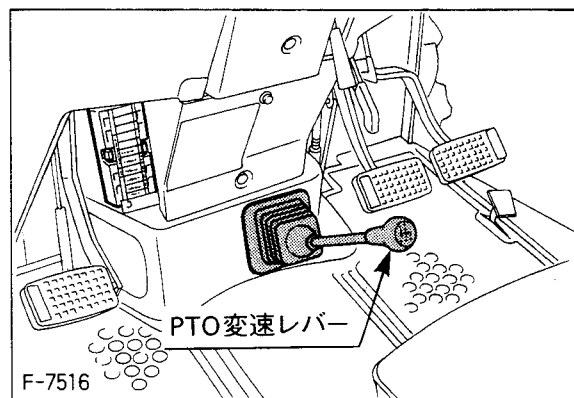
＊抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

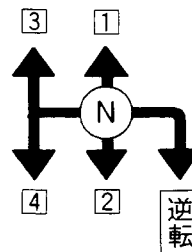
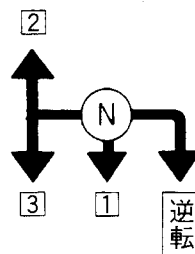
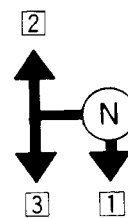
＊使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

■PTO変速レバー

 注　意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用すると非常に危険です。

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度は，機種により下記のように変速できます。

●変速シフトパターン

【GL368・418仕様以外】

【GL368・418のES仕様以外】

【GL368・418のES仕様】

◆PTO「逆転」の使い方

(1)使用できる作業機

● インプルメント一覧表(66ページ参照)のロータリに限ります。

重 要

＊インプルメント一覧表に記載以外のロータリで「逆転」を使用すると，作業機の故障の原因になります。

(2)使用できる作業

● 土寄せ作業

● 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

補 足

＊オート切換えスイッチは「切」にして油圧レバーで作業してください。

(3)使用できない作業

● 未耕地での耕うん作業

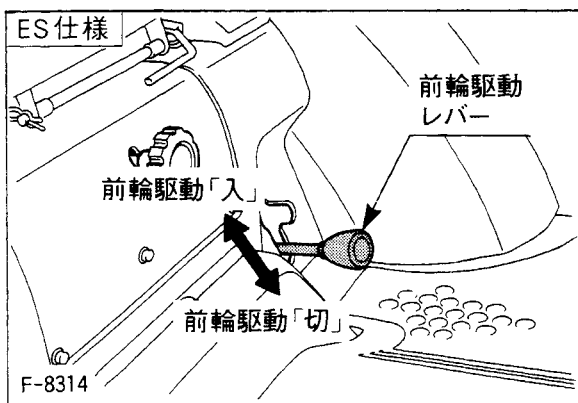
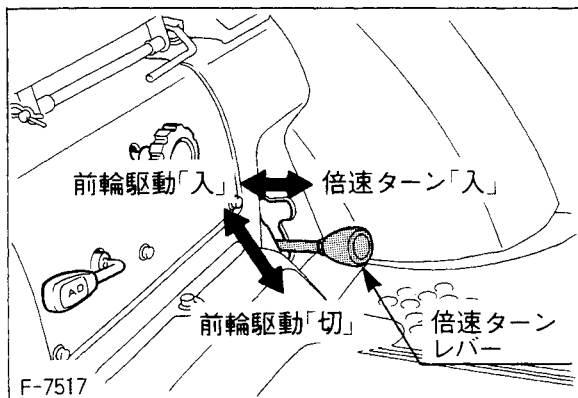
● ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■倍速ターンレバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。

倍速ターン「入」……倍速ターンが入る。

前輪駆動「入」……… 4 輪が駆動される。

前輪駆動「切」………前輪駆動が切れる。

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。

(1)傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。

(2)砂地で作業をする場合。

(3)固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

◆倍速ターンの使い方

警 告

＊倍速ターンに入れたままでほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に倍速ターンレバーを前輪駆動「入」又は前輪駆動「切」に切換えてください。

＊倍速ターンは，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

重 要

＊倍速ターンの「入」「切」は，前輪タイヤを直進の状態にしてから行なってください。

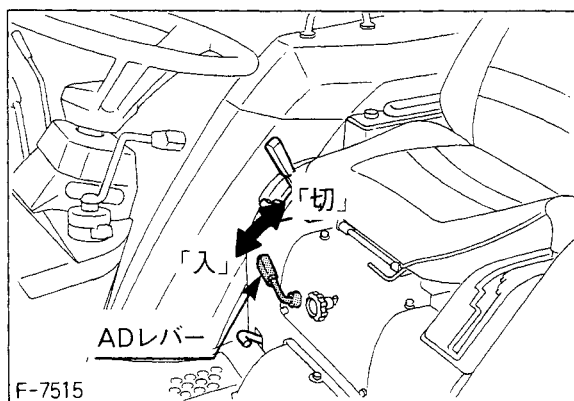
＊プラウなどの速度の速い作業には，使用しないでください。

＊フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

■AD(オートディスクブレーキ)レバー 【BS仕様】

片ブレーキの自動作動をさせるレバーです。

AD「入」………ステアリングハンドルを一杯に回すと，内側後輪に軽くブレーキがききます。

AD「切」………片ブレーキの自動作動が切れます。

◆AD(オートディスクブレーキ)の使い方

 注 意

＊AD「入」のままでほ場以外を走行すると旋回時，急に回り事故の原因になります。ほ場から出る前に必ずADレバーを「切」にしてください。

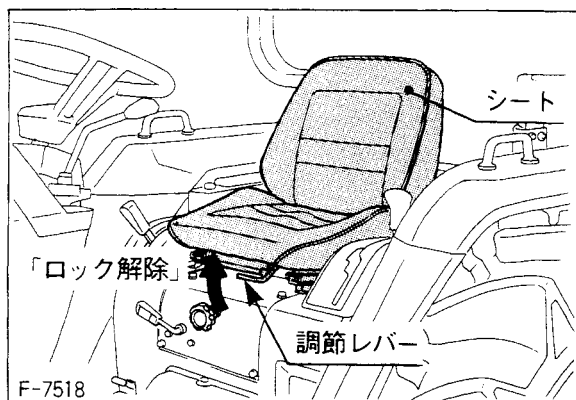
(1)隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回を小さくする操作が行なわれますが，ADはこの操作を自動的に行なうものです。
(2)ADの作動は次のようになっています。
旋回動作に入り，ステアリングハンドルを一杯に切ると，ADが連動して内側後輪に軽くブレーキがかかり，小さく，スムーズな旋回が行なえます。

重 要

＊ADレバーの「入」「切」は前輪タイヤを直進の状態にしてから行なってください。
＊ADは，二輪駆動時，四輪駆動時にも作動しますが，倍速ターンと併用すると最も効果を発揮します。
＊危険防止のため，クリープ変速，副変速がともに「H」の場合，AD「入」にならない構造になっています。
(Uシフト(F)仕様は，クリープ変速「H」で，主変速「5速」以上ではAD「入」にならない構造になっています。)
AD「入」で旋回中に，上記状態への変速をしないでください。
無理に変速レバーを操作すると故障につながります。

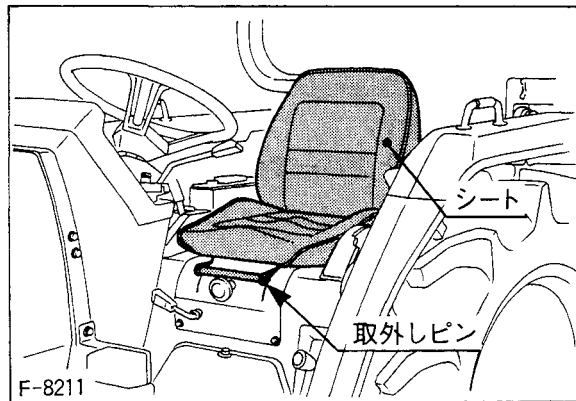
■シート

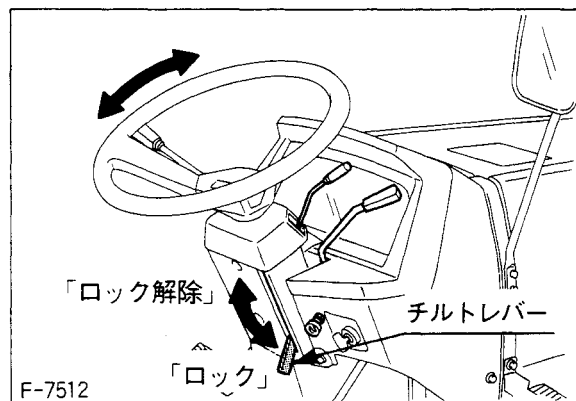
◆GL260K・280K仕様以外

(1)シート下の調節レバーのロックを「解除」すると，前後4段階に調節できます。
●取付台の穴位置を変えると，さらに前に調節できます。
(2)雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。

◆GL260K・280K仕様

(1)雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。
(2)運転席を更に低くしたいときは，シートを取外してください。

■チルトハンドル

 注 意

＊調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。
＊走行中の調節はしないでください。

チルトレバーでロックを「解除」すれば，ステアリングハンドルが任意の位置に調節できます。

■フロントグリル及びサイドカバーの外し方

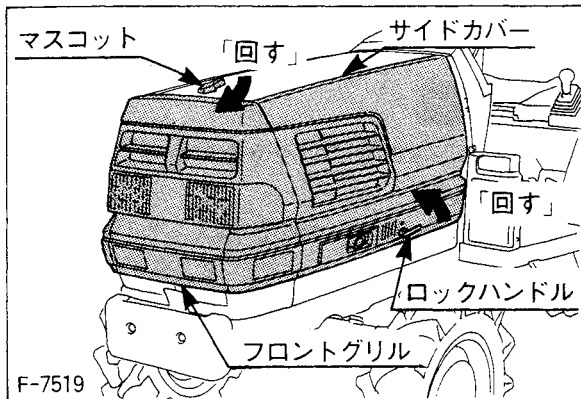
注　意

＊エンジン回転中は絶対にサイドカバーを開けないでください。
＊マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。
＊ロックハンドルとカバーで手をはさまないように注意してください。

❶フロントグリルはマスコットを回すと外れます。

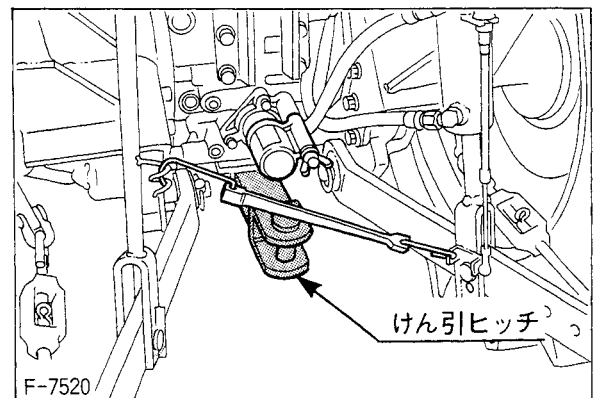
補　足

＊フロントグリルを外す場合，ヘッドライトの配線コネクタを外してください。

❷サイドカバーはロックハンドルを回すと外れます。

■けん引ヒッチ(別売)

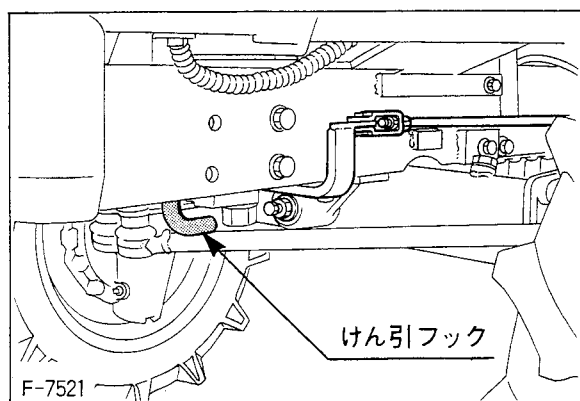
警　告

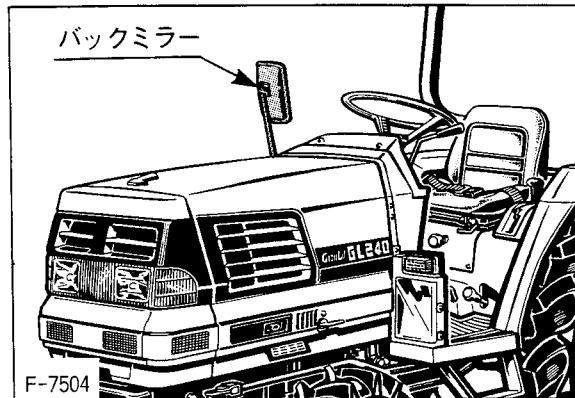
＊けん引作業をするときは，けん引ヒッチ(別売)を必ず使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。
転倒事故を引起すおそれがあります。
＊３点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ，ブロードキャスタなど)を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。
そうしないとユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起すおそれがあります。

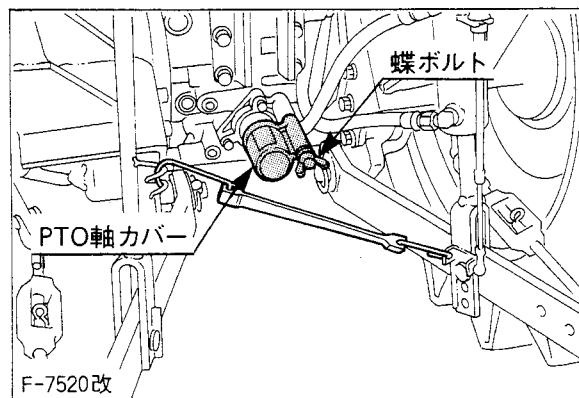
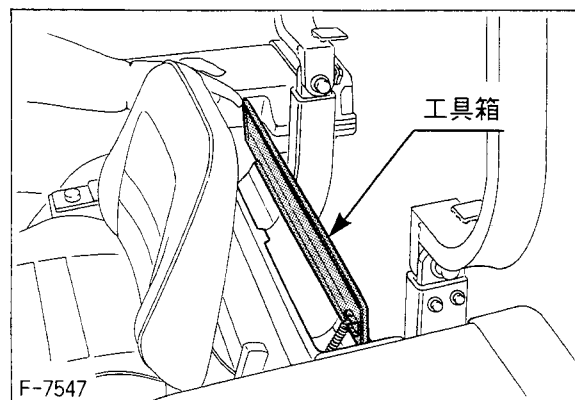
けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

重　要

＊けん引作業をする場合は，けん引ヒッチを引き出してご使用ください。

■けん引フック

＊けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。
横に引張ると外れやすく危険なうえ，フレームが曲るおそれがあります。

■バックミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

■PTO軸カバー

＊PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，PTO軸キャップ(PTO軸カバー)を取付けておいてください。
そうしないと巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。

■工具箱

補　足

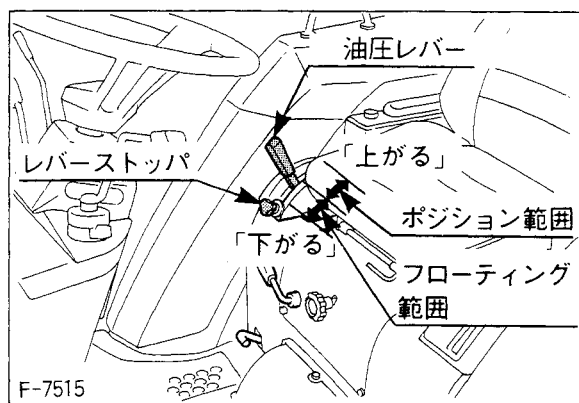
＊キャブ仕様にはついていません。

作業機昇降装置の取扱い

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。
ポジション作業を行なうときは，オート切換えスイッチを「切」にしてください。

■油圧レバー（ポジションコントロールレバー）

油圧レバーで作業機を自由に上下させる装置で，
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。MA仕様ではオート耕うん作業ができます。

重　要

【MA仕様】

＊安全のため，次の取扱い特性があります。

＊エンジン始動後，油圧レバーを元の位置（エンジン停止時の位置）又はそれ以上に上昇側へ操作しないと作業機は昇降しません。

＊エンジン停止後，メインスイッチを「ON」にして油圧レバーを「前方に倒す」と，作業機は下降します。

■レバーストッパの使い方【M仕様】

❶油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，油圧レバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■ポンパレバー【MA仕様】

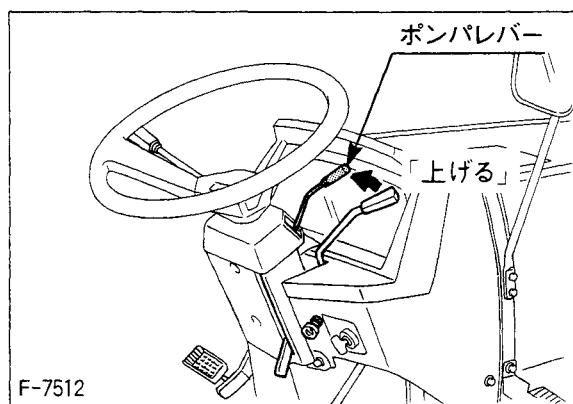
 注　意

＊危険防止のため，ポンパレバーの使用は，ほ場内作業のみにしてください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

レバー操作で作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる（ランプ点灯）……作業機上昇
再度レバーを上げる（ランプ消灯）……作業機下降
ポンパレバーで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され（ランプ消灯），ポジション制御になります。

◆ポンパの上手な使い方

レバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，ポンパレバーにより昇降させることができます。

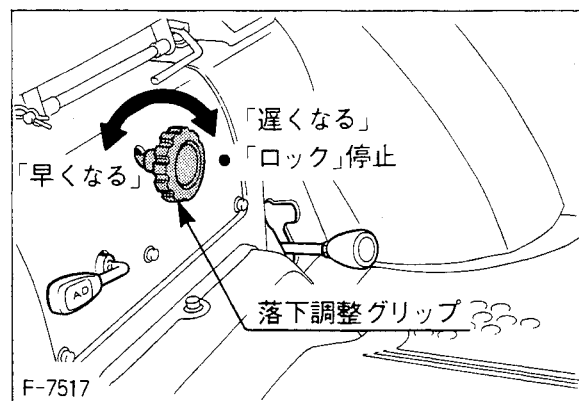
【耕深位置制御】

重　要

＊ポンパランプが点滅している場合，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの「点滅を解除」してから使用してください。
＊ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
＊新しい作業機を装着したときは，ポンパレバーではなく，油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がフロアシートに当らないことを確認してください。

■ポンパランプについて【MA仕様】

油圧レバー位置及びポンパレバーの状態とロアーリンク位置が異なる状態でエンジンを始動した場合，ポンパランプが点滅するようになっています。このようなときは，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの点滅を解除して使用してください。
また，リフトアーム上限ダイヤルを「油圧取出」位置でエンジンを始動した場合も，ポンパランプが点滅するようになっています。
このようなときは，「油圧取出」位置から「高」に戻してください。このとき，さらにポンパランプが点滅しているときには，油圧レバー又はポンパレバーを操作して点滅を解除して使用してください。

■作業機落下速度の調整

落下調整グリップを回すことにより調整できます。

補　足

＊MA仕様の場合，落下速度が速すぎるとスムーズに落下しない場合がありますので，スムーズに落下するよう落下スピードを調整してください。
＊油圧をロックするときは，軽く締込み，ネジをいっぱいに締込まないようにしてください。

■油圧ロックの取扱い

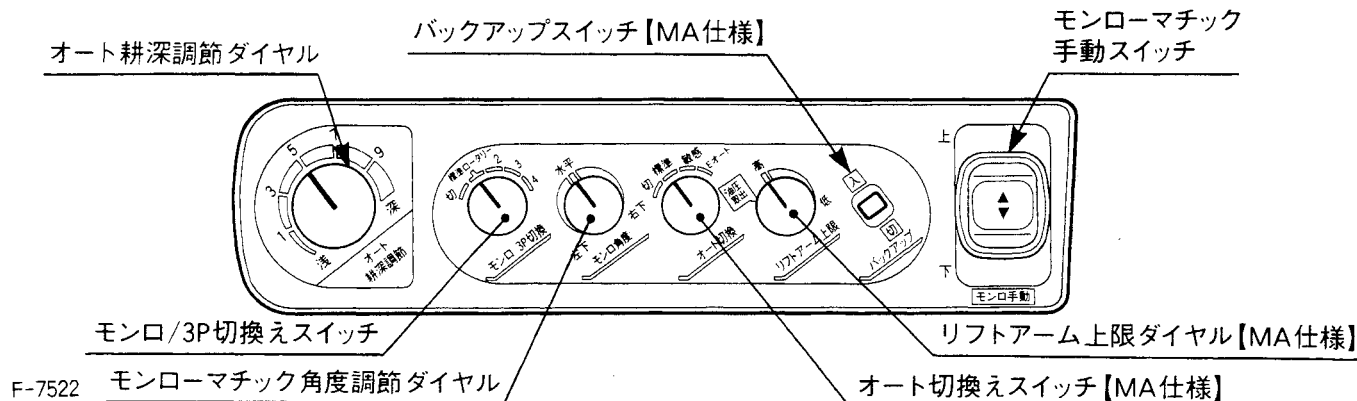
注　意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下調整グリップでロックした後，油圧レバーを「前方に倒して」作業機が落下しないことを必ず確認してください。

(1)トラクタの格納は，作業機を降ろした状態にして保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管しますと，油圧ロックを行なっていても下降することがあります。
(2)作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
❶エンジンをかけた状態で落下調整グリップを油圧がロックする側に回して，軽く締込んでください。
❷油圧レバーを下端まで，下げてください。
（このとき，作業機が下がらないことを確認してください。）
❸エンジンを停止してください。

モンローマチック【M仕様】・モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオートは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■スイッチの取扱い

◆モンロ／３Ｐ切換えスイッチ

標準ロータリ，2，3，4の切換えは，作業機によって定まる３点リンクの取付け状態(ロアーリンク幅及びロアーリンク穴)に応じて選択してください。

モンローマチック	3P切換えスイッチ	ロアーリンク幅	ロアーリンク穴位置	作　業　機　例
自動	標準ロータリ 2 3 4 切	広	中(後)	Aフレーム付ロータリ (特殊３P仕様) Aフレーム付代かきハロー
	標準ロータリ 2 3 4 切	広	前	プラウ
	標準ロータリ 2 3 4 切	狭	中(後)	Aフレーム無しロータリ
	標準ロータリ 2 3 4 切	狭	前	代かきハロー(ロータリ) (標準３P仕様)
手動	標準ロータリ 2 3 4 切	モンローマチックの自動制御が解除され，「手動」になります。		

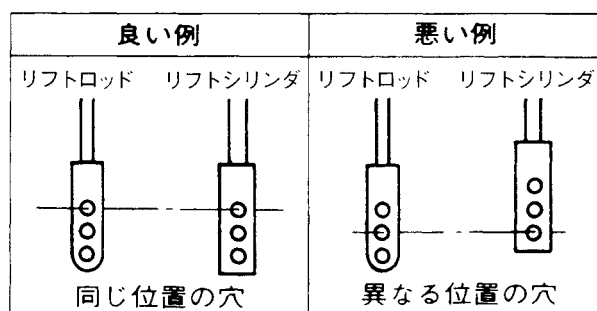
ロアーリンク前穴　ロアーリンク後穴

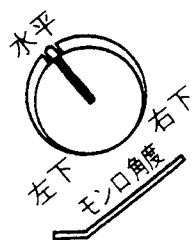
ロアーリンクの幅
「広」…718mm (JIS)
「狭」…590mm (参考)

F-7044

重　要

＊ロアーリンクにリフトロッド(リフトシリンダ)との接合穴が３コありますので，後の２コを使用する場合ロアーリンク穴位置「後」として切換えスイッチを選択してください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

◆モンローマチック角度調節ダイヤル

モンロ／３P切換えスイッチが「切」以外の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。

(1)ダイヤルを水平位置にしますと，作業機は**水平**に保持されます。
(2)ダイヤルを左下方向に回すと，作業機が**左下り**に保持されます。
(3)ダイヤルを右下方向に回すと，作業機が**右下り**に保持されます。

なお，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

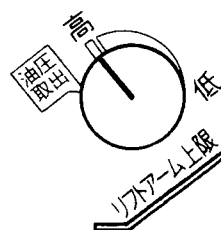
◆オート切換えスイッチ【MA仕様】

オート	オート切換えスイッチ	作業例
自動	切 標準 敏感 Eオート	浅起しから深起しまで，一般的な作業で使用します。
	切 標準 敏感 Eオート	湿田での浅起し，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。
	切 標準 敏感 Eオート	ロータリカバーを上げたままで行なうオート作業に使用します。
切	切 標準 敏感 Eオート	オートの「**自動**」制御が解除されます。

重 要

＊畝立て作業などロータリカバー２を上げて作業するときは，「Eオート」または，「切」にしてください。

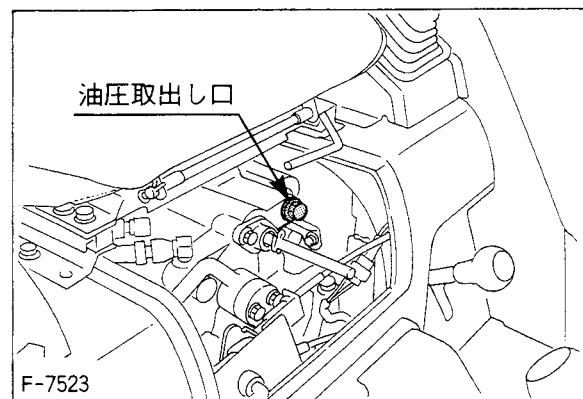
◆リフトアーム上限ダイヤル【MA仕様】

リフトアームの上限位置を変えるときに使用します。

(1)ダイヤルを「**高**」にすると，リフトアームの上昇高さが高くなります。
(2)ダイヤルを「**低**」方向に回すと，リフトアームの上昇高さが低くなります。

補 足

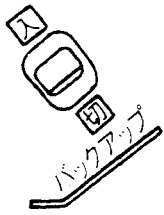
＊リフトアーム上限ダイヤルにより，ポンパレバー及び油圧レバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

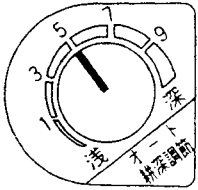
◆油圧取出しの使い方

油圧シリンダから油圧を取出すときに使用します。

(1)ポンパレバー又は，油圧レバーで３Pを最上位置にし，モンローマチックを「**平行停止**」させます。
(2)リフトアーム上限ダイヤルを「**油圧取出**」位置にします。
(3)落下調整グリップを回し，油圧をロックします。
(4)油圧の取出し(上げ－中立－下げ)は，モンローマチック手動スイッチで行ないます。

補 足

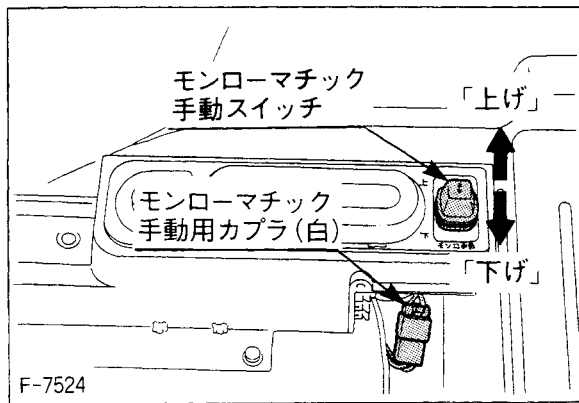
＊リフトアーム上限ダイヤルを「油圧取出」位置にすると，「オート耕うんランプ」「ポンパランプ」「バックアップランプ」「モンローマチックランプ」が消灯します。
＊「油圧取出」位置では，油圧レバー，ポンパレバー，モンローマチックオートは作動しません。
＊「油圧取出」位置でエンジンを停止し，再度「油圧取出」作業を行なう場合は，エンジン始動後，「油圧取出」を解除し(ダイヤルを「油圧取出」位置から「高」，「低」の方向へ回す)，再度「油圧取出」位置にしてください。
＊油圧取出し作業の終了後は，「油圧取出」を解除してください。

◆バックアップスイッチ【MA仕様】
シャトルレバーをバックに入れると，作業機が上昇する装置です。

(1)作業機を下げたままの「うっかりバック」から作業機を守ります。
(2)バックアップで上昇した作業機を下げるときは，油圧レバー又はポンパレバーを操作してください。

◆オート耕深調節ダイヤル【MA仕様】

オート切換えスイッチが，「標準」・「敏感」・「Eオート」の場合，浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう，このダイヤルで設定してください。

補　足
＊「浅」から「１」付近までは作業機を吊り上げる制御となります。深田での代かき作業に利用してください。

■モンローマチック手動スイッチ

モンロ／３P切換えスイッチが「切」の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。

(1)「上げ」方向へレバーを押している間，作業機の右側が上がります。
(2)「下げ」方向へレバーを押している間，作業機の右側が下がります。

補　足
＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆モンローマチック「入」(自動)では次のような作業に効果があります。
(トラクタ本体の傾きにかかわらず，作業機の傾斜が一定になります。)

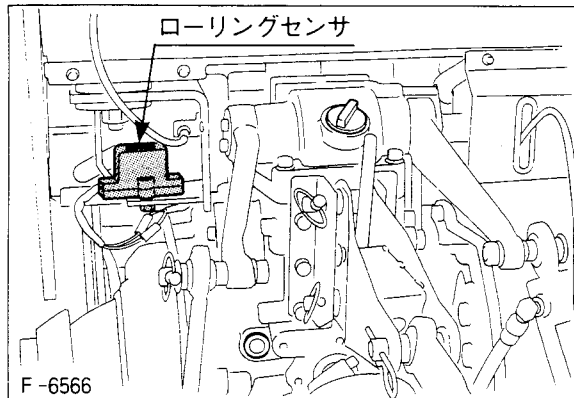
(1)モンローマチック角度調節ダイヤルが 水平 位置の場合
- 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
- 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
- 畑での畝立て，畝崩し作業その他

(2)モンローマチック角度調節ダイヤルが 水平 以外の場合
- 広幅畝立て，その他

◆モンローマチック「切」(手動)では次のような作業に効果があります。
- メロンなどの高畝作り，その他
- 作業機の着脱

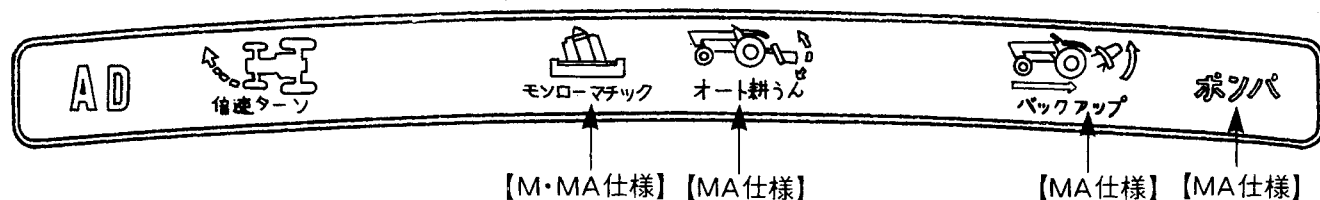
補　足
＊モンローマチックが不要の場合(フロントローダ作業などの場合)には，「切」で作業してください。
＊「手動」で作業機を傾斜させるとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
＊チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に３点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

■ローリングセンサの取扱い注意

ローリングセンサは，車体の傾きを感知する電子部品です。

重 要

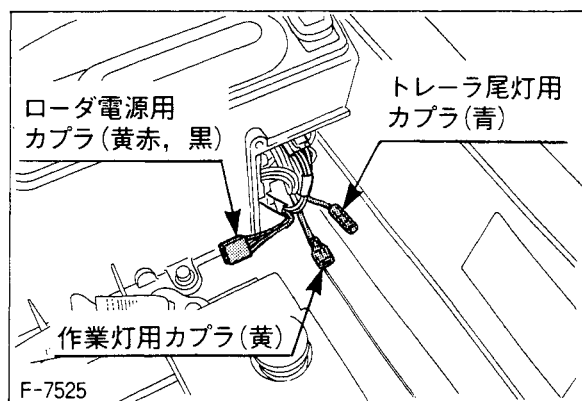
＊たたいたりして衝撃を与えると機能が低下しますので，取扱いには注意してください。

■故障・異常の表示

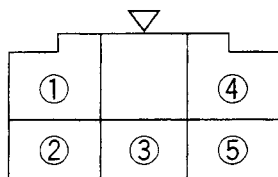
(1)M・(MA)仕様は，３(７)個のセンサを使用しています。
(2)これらのセンサに異常が発生した場合には，オート耕うん，モンローマチックのランプの点滅で異常を表示します。
(点検調整は購入先にご相談ください)
(3)異常の表示方法と対応方法を下に示します。

F-7509改

センサ名称	警告方法	異常の現象	緊急の対応方法
①リフトアームセンサ	オート耕うん，モンローマチックランプ点滅。	ポジション，オート耕うん，モンローマチック作動せず。	モンローマチック手動で平行にする。「油圧取出」位置で作業機昇降する。
②ポジションレバーセンサ	オート耕うん，モンローマチックランプ点滅。	ポジション，オート耕うん，モンローマチック作動せず。	モンローマチック手動で平行にする。「油圧取出」位置で作業機昇降する。
③ストロークセンサ	モンローマチックランプ点滅。	モンローマチック自動のみ作動せず。	手動で動かす。
④カバーセンサ	オート耕うんランプ点滅。	オート耕うん(標，敏)作動せず。	「Eオート」，油圧レバーで動かす。
⑤アクセルセンサ	オート耕うんランプ点滅。	アクセルを動かすと耕深が変化する。	通常のMAとして作動する。作業中はアクセルを動かさない。
⑥エンジン回転センサ	オート耕うんランプ点滅。	エンジン回転による制御を行なわない。	通常のMAとして作動する。
⑦ローリングセンサ	――――――	作業機が傾く。	手動で動かす。

■作業灯用カプラ，トレーラカプラ，ローダ電源用カプラ

作業灯，トレーラ，ローダ電源を使用するときは，シート後部に各々のカプラがあります。

補　足

＊キャブ仕様の作業灯用カプラは，ルーフの後ろにあります。
〔上図の作業灯用カプラ(黄)は使えません。〕

◆トレーラカプラ電源

電　源＼機　種	GL368・418
①フラッシャ左(緑青)	○
②フラッシャ右(緑赤)	○
③テールランプ(緑白)	○
④ブレーキランプ(緑)	○
⑤バックランプ(緑黒)	○

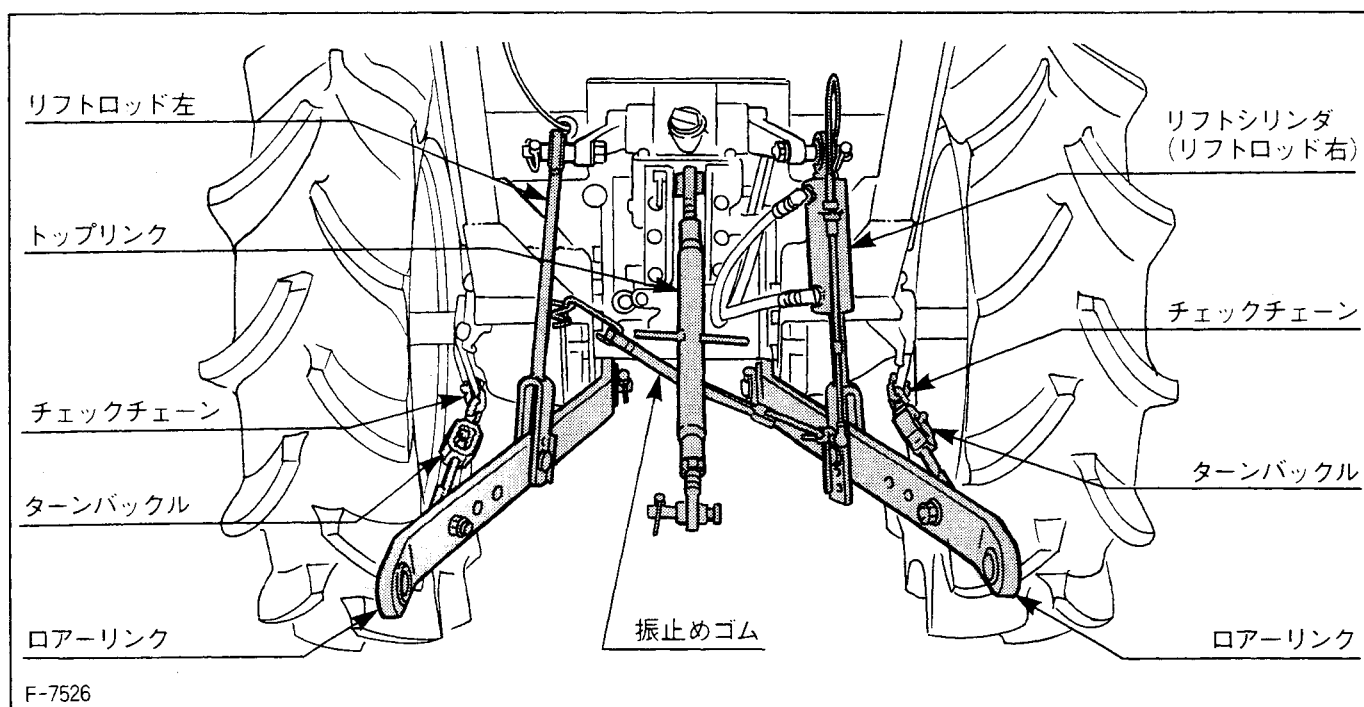
■作業機の取扱い

◆リフトシリンダを取付け，取外しする場合

お買いあげいただいた購入先にご相談ください。
＊取外す場合は，下記部品が必要となります。

(別途購入品)

品　番	品　名	備　考
99093－9800－1	キャップアッシ	キャップ及びプラグを含む

三点リンク装置の取扱い(一般作業機用)

(1)3点リンクは，JIS 1形です。
(2)GL200・220・240仕様をご購入の方は，トップリンクアッシを別途購入してください。(64ページ参照)
(3)後輪輪距を広げてください。(26ページ「輪距の調整」参照)

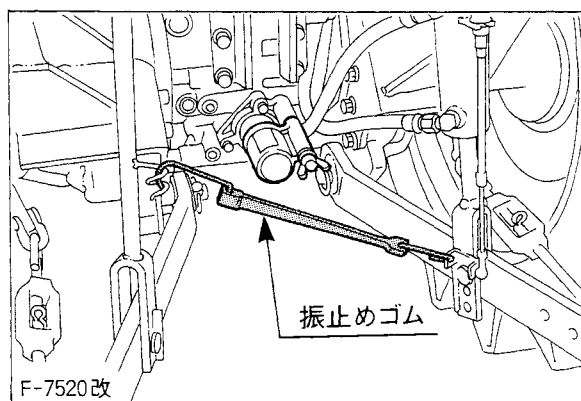
	GL200・220・240仕様	GL260・268・300E仕様	GL280・320E仕様 (GL240J)	GL300仕様	GL320・338仕様 (GL280J)	GL260K仕様	GL368仕様	GL418仕様
後輪輪距	1130mm	1145mm	1145mm	1260mm	1235mm以上	1120mm	1201mm	1227mm

■作業機の着脱

 警告

＊作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。またロータリなどのPTO作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊作業機の着脱は，硬い平坦な場所で行なってください。
＊作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

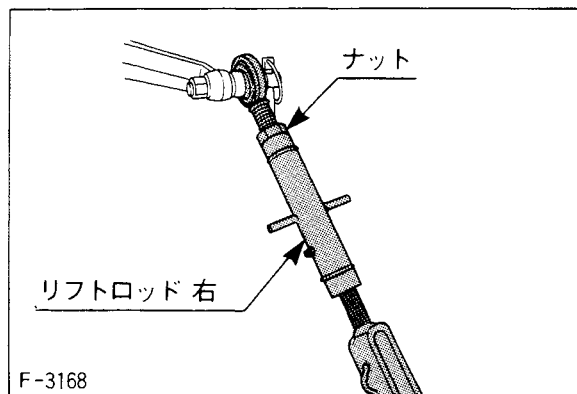
■作業機を取付けないときの注意

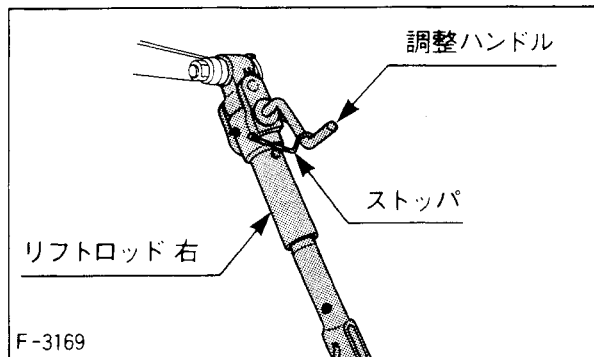
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。

■トップリンクの調整

(1)伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
(2)トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

■リフトロッドの調整【M・MA仕様以外】

◆GL200・220・240仕様

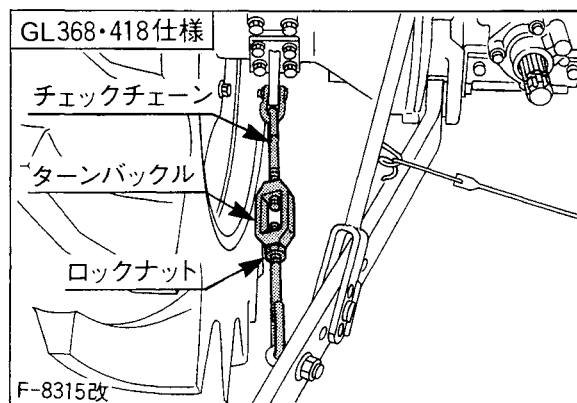
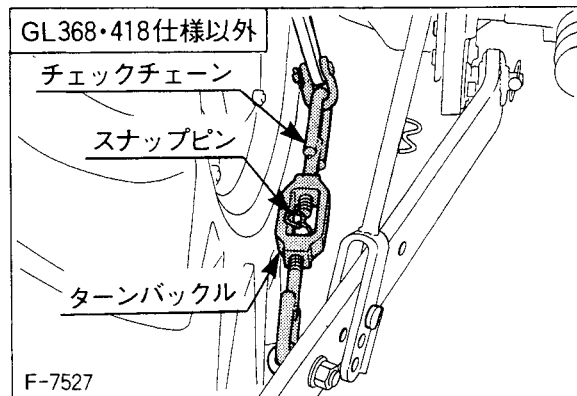
(1)リフトロッド右を操作して，作業機の水平を合せてください。
(2)調整後は，リフトロッド右をナットで固定してください。

◆GL260・268・280・300・320・338・368・418仕様

(1)右側の調整ハンドルで，作業機の水平を合せてください。
(2)調整後は，ハンドルをストッパで必ず固定してください。そうしないと，Aフレーム(クボタロータリ取扱説明書参照)がハンドルにあたることがあります。

■ロアーリンク取付け穴の選択

(1)一般作業機を使うときは，ロアーリンクの「**前穴**」を使ってください。
(2)特殊3点リンクロータリを使うときは，ロアーリンクの「**中穴**」を使ってください。
(3)播種機を使うときは，ロアーリンクの「**後穴**」を使ってください。

■チェックチェーンの調整

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。

作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー，	ゆるめる (作業機が横方向に 5～6㎝動く程度)
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ，	軽く締める

輪距の調整

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

 注　意

＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

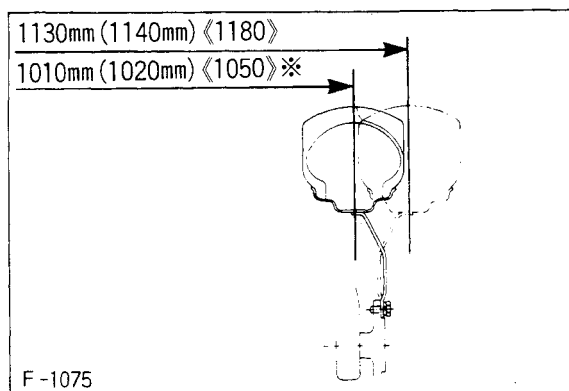
補　足

＊タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

＊ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。

＊後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

◆GL200・220・240・260K・280K仕様

後輪の輪距は2段階に調節できます。

( )内数値はGL260K仕様

《 》内数値はGL280K仕様

※は出荷状態

◆GL260・268・280・300・300E・320・320E・338・240J・280J・368・418仕様

後輪の輪距は5段階又は6段階に調節できます。

補　足

＊輪距によりディスクの組替えも合せて行なってください。

形　式 (標準タイヤ)	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距
GL260 GL268 GL300E (11.2-24)	1050mm (出荷状態)	1145mm	1070mm	1165mm	1250mm	1345mm
GL280 GL320E (11.2-26)	―	1130mm (出荷状態)	1145mm	1245mm	1320mm	1420mm
GL300 (12.4-26)	1090mm (出荷状態)	1185mm	1260mm	1360mm	1380mm	1480mm
GL320 GL338 (13.6-24)	1110mm (出荷状態)	1205mm	1235mm	1330mm	1480mm	1575mm
GL240J (9.5-26)	1080mm (出荷状態)	1190mm	1275mm	1290mm	1370mm	―
GL280J (11.2-28)	1105mm (出荷状態)	1205mm	1235mm	1335mm	1400mm	1495mm
GL368 (12.4-28)	―	1180mm (出荷状態)	1201mm	1299mm	1375mm	1473mm
GL418 (13.6-26)	―	1155mm (出荷状態)	1227mm	1325mm	1349mm	1447mm

上手な運転のしかた

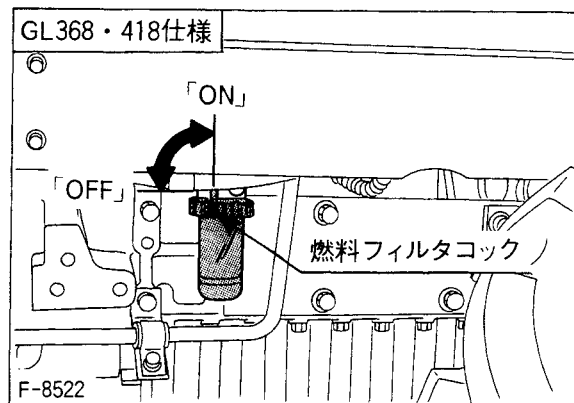
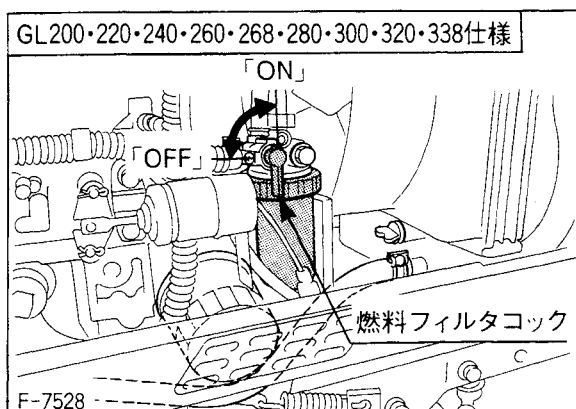
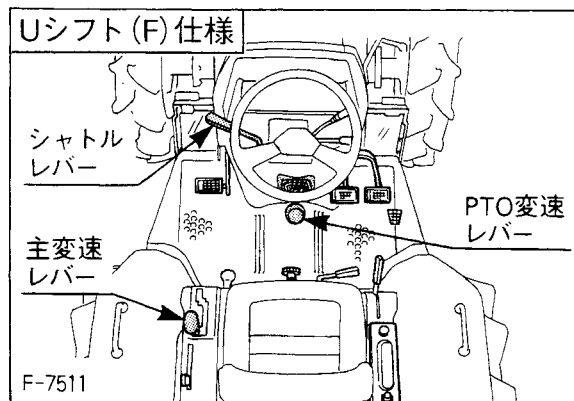
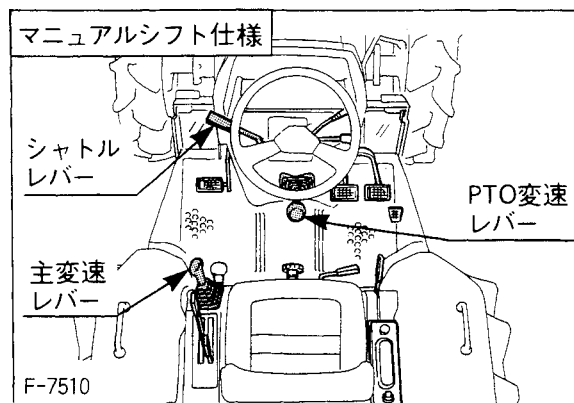
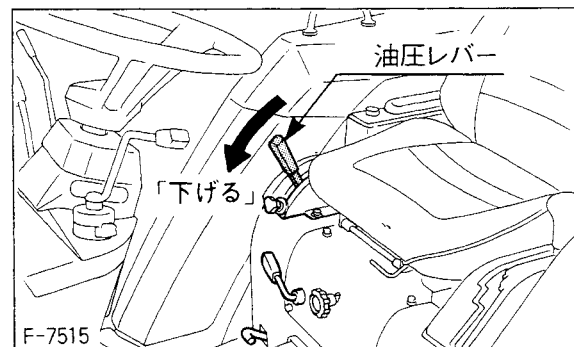
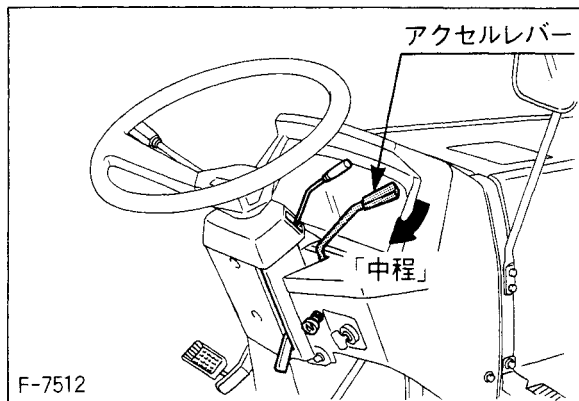
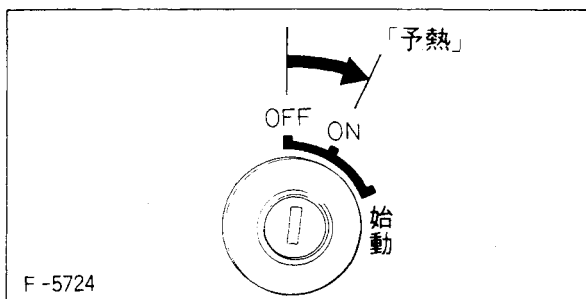
 注　意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部分があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は，「トラクタ使用前の点検について」を参照してください。）

エンジン始動のしかた

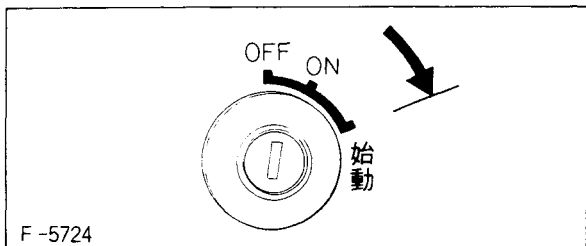
 警　告

＊トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やPTO変速レバーが「中立」かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

❶燃料コックを「ON」にします。

❷主変速レバー，シャトルレバー及びPTO変速レバーを「中立」にします。

❸油圧レバーを「前方に倒し」作業機を下げます。

❹アクセルレバーを「**中程**」まで引きます。

❺メインスイッチにキーを差込み「**ON**」位置にし，予熱します。グローランプが消灯すれば予熱完了です。

❻クラッチペダルを「**踏込み**」ます。

補　足

＊クラッチペダルを踏込まないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

❼キーを「**始動**」位置に回します。

重　要

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

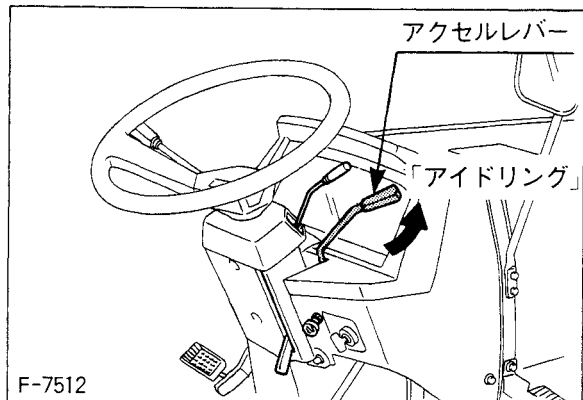
❽エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。自動的に「**ON**」にもどります。

補　足

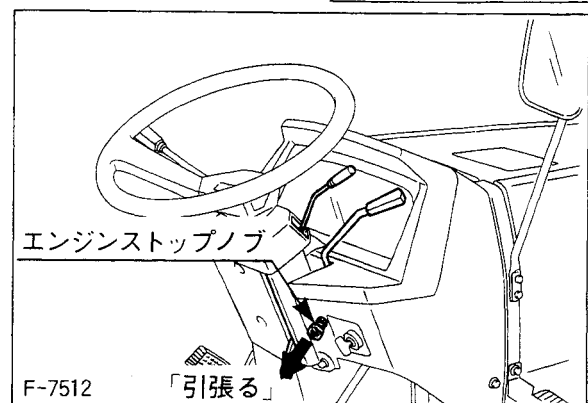
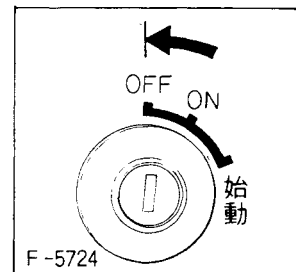
＊エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障の原因になります。

❾アクセルレバーを「**低速**」回転に戻した後，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま５分程度暖機運転しましょう。

エンジン停止のしかた

❶アクセルレバーをいっぱい前へ「**押し**」てアイドリング状態にします。

❷メインスイッチのキーを「**OFF**」の位置にすると，エンジンは止まります。

補　足

＊万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。

補　足

＊エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

＊エンジンが停止して４～８秒後，カチッと音がしますが，これはエンジン停止装置が作動する音です。

❸キーは必ず「**抜き**」ましょう。

ならし運転(最初の約50時間)

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

(1)急なスタート，急ブレーキは慎んでください。

(2)必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。

(3)運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。

(4)悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。

暖機運転

 注 意

＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

＊換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，回転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆Uシフト(F)仕様

Uシフト(F)仕様は油圧で作動し，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しております。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	少なくとも10分間
0～－10℃	10～20分間
－10～－20℃	20～30分間
－20℃以下	30分間以上

発進・走行

 警 告

＊トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。

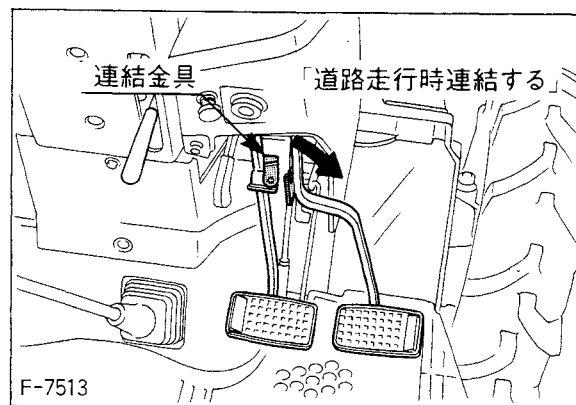
＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。

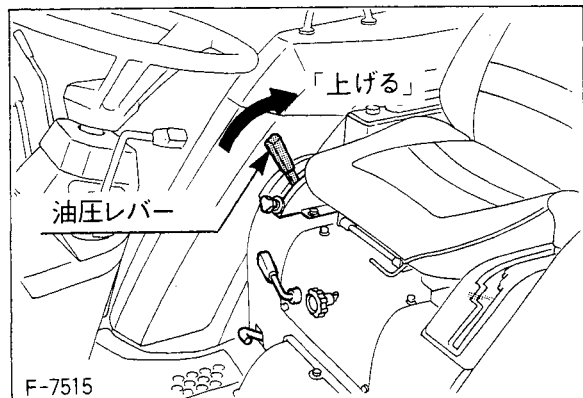
＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。

＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。
ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。

＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。

＊高速で旋回すると，横転する危険があります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。

❶ブレーキペダルが左右「連結」されていることを確認してください。

❷エンジン回転をアイドリングから「中速」回転にします。

❸油圧レバーを「後方に引き」作業機を上げます。

以下，仕様により操作が異なります。

【マニュアルシフト仕様】

❹クラッチペダルをいっぱいまで「踏込み」ます。
❺主変速レバー・副変速レバーを希望する位置に「入れ」ます。
❻シャトルレバーを前進又は後進に「入れ」ます。
❼クラッチペダルをゆっくり離せば，トラクタが動き始めます。

重　要

＊走行中に変速することはできません。クラッチペダルを必ず踏込んでトラクタを停止させてから，変速を行なってください。
＊走行中は，クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
足を乗せるとクラッチがすべっている状態で摩耗が早くなります。
＊クラッチペダルの操作は，切るときは早く，つなぐときはゆっくり操作してください。

【Uシフト(F)仕様】

注　意

＊急発進は危険ですのでしないでください。
＊安全のため，急激な変速は避けてください。変速は1段ずつ行なってください。
＊緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。
＊走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
＊急な坂道，車両への積み・降ろし・ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，主変速レバーで発進するとき，変速レバーを入れてから発進までに時間がかかる場合があります。(発進遅れ)
- **十分に暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は，シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。**
- **低温時の発進遅れは異常ではないので，主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出し危険です。**

❹主変速レバーを「1速」に入れます。
❺シャトルレバーを前進又は後進に「入れ」ると，トラクタが動き始めます。
❻主変速レバーを1段ずつ変速して，希望する位置まで変速してください。
●主変速レバー・シャトルレバー操作は，ノンクラッチで変速及び前後進することができます。

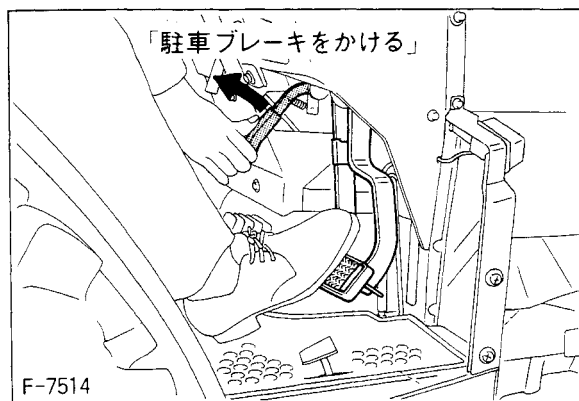
重　要

油圧クラッチ・シンクロの寿命を保つため，次の点に注意してください。
＊作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。
＊急激なシフトダウンは避けてください。
＊トラクタの使い始めの変速時に，油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが，異常ではありません。油温が上がるとともに音がしなくなります。

停車

【Uシフト(F)仕様】
＊Uシフトは油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTOを「中立」，作業機を「下げ」，変速レバーを「中立」，駐車ブレーキを「掛け」，エンジンを「停止」してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのPTO作業機が完全に止まるまで待ってください。

❶アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
❷クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
❸完全に停止してから，シャトルレバー，主変速及びPTOレバーを「**中立**」にします。
❹作業機を取付けている場合は，油圧レバーをゆっくり「**前方に倒し**」作業機を下げます。
❺駐車ブレーキを確実に「**ロック**」してください。

❻メインスイッチキーを「**OFF**」にして，エンジンを停止します。

運転中の作動点検

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

◆イージーチェッカが点灯したときの処置
すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。

◆オーバヒートしたときの処置

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

オーバヒート(水温計の針が「**H**」にあるとき)したときは，
❶作業を中止し，
❷エンジンを約5分間アイドリング回転してから，
❸エンジンを停止し，停止後30分後に次の点検・整備をしてください。
(1)冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
(2)防虫網およびラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
(3)ファンベルトのゆるみがないか。

重 要
＊リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記「◆オーバーヒートしたときの処置」を行なってください。

◆次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。
(1)回転が急に下降したり上昇したりする。
(2)突然，異常な音をたてた。
(3)排気色が急に黒くなった。
(4)運転中，オイルランプが点灯した。
●点検整備は，購入先にご相談のうえ，その指示にしたがってください。

旋回

旋回するときは，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

＊高速で回ると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジンの回転を落とし，ゆっくりと回ってください。

坂道での運転

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。

＊坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
惰性運転をすると，スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。

＊急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

(1)坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
(2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
(3)下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

＊左右のブレーキペダルは，必ず「連結」しておいてください。

＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。

＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。

＊ほ場への出入りの際は，途中で変速すると危険ですので，変速しないでください。

＊倍速ターンレバーは「2輪又は4輪駆動」にしてください。

＊AD（オートディスクブレーキ）レバーはAD「切」にしてください。

1.作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2.あぜを上がるとき，4輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

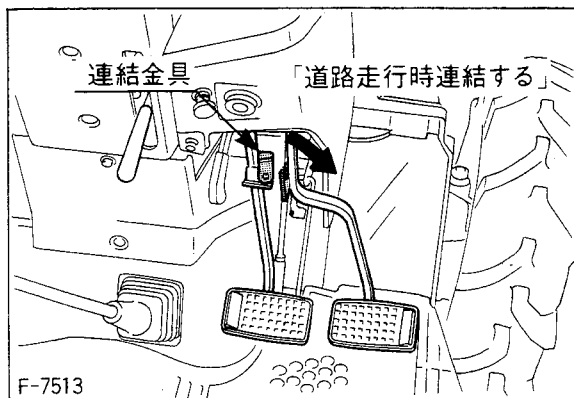
トラックへの積み・降ろし

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が15度以下になる長さ:トラック荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

＊トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを「連結」しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

道路走行中の注意

＊道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。

＊道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。【"道路運送車両法"の保安基準】
(作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。)
＊道路走行時にはモンロー切換えスイッチを必ず「切」にして走行してください。

(1)公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせます。
(2)夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ライティングスイッチを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
(3)踏切を渡る場合は，必ず一旦停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。

重　要

＊作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯光の色などの制限)において，「走行中に使用しない灯火」とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

パワーステアリングの取扱い上の注意【パワーステアリング仕様】

注 意

＊パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

重 要

＊パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
また，エンジン停止時は普通の標準ステアリングと同様に作動します。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

＊フロントローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
(フロントローダ使用時は，前輪タイヤ空気圧の調圧(48ページ参照)，トラクタ後部にウエイト又はロータリの取付け，前部ウエイト・前輪ウエイトの取外しを行なって，前後バランスを良くして安全に作業をしてください。)

＊ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

＊不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

＊冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

安全キャブ・安全フレームとシートベルトについて

警 告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊トラクタを使用するときは，安全キャブまたは安全フレームを外して運転しないでください。

＊納屋の出入りなど，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。

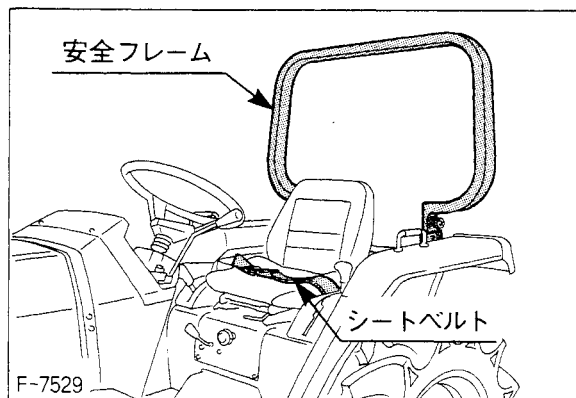
＊安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

＊安全フレームの改造を絶対にしないでください。
また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

＊安全フレームを立てたときは，ストッパを入れてノブボルトで確実に固定してください。
また仕業点検時，ノブボルトにゆるみがないか確認してください。

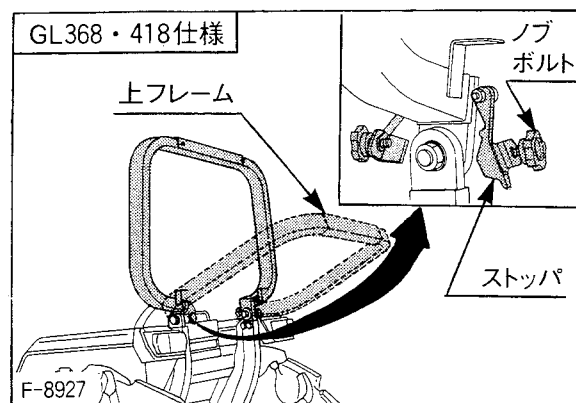
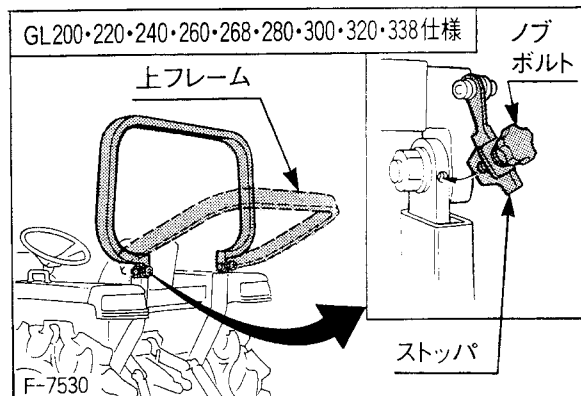
＊安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

＊安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。

◆**折りたたみ方法**

ノブボルトをゆるめてストッパを後方へ回動させると，フレーム（ウエ）を後方に折りたためます。

補　足

＊安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

◆**組立て方法**

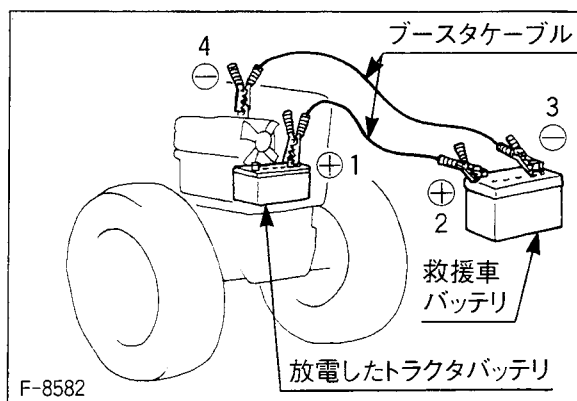
フレーム（ウエ）を前方に起こし，ストッパを入れてノブボルトでしっかりと確実に固定してください。（ノブボルトが締まっていないと，フレーム（ウエ）がガタつきノブボルトが折損することがあります。）

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

❶ブースタケーブルを図の番号順で接続します。

＊バッテリの⊕端子同士を接続します

＊マイナスケーブルの他端［4］の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端［4］を直接バッテリの⊖端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火する危険があります。）

❷救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。

❸トラクタエンジンを始動します。
（始動手順は「エンジン始動のしかた」を参照）

❹ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。

＊ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。

＊ケーブルが冷却ファンなどに巻き込まれないようにしてください。

トラクタ使用前の点検について(日常点検)

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。

注 意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ずエンジンを停止し作業機を降ろしてから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日の異常箇所　参照ページ
(2)トラクタの回りを歩いて
●タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷……48ページ
●タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
●油もれ及び水もれ
●エンジンオイルの量及び汚れ……42ページ
●ミッションオイルの量及び汚れ……43ページ
●冷却水の量……40ページ
●ファンベルトの張り具合，損傷……46ページ
●エアークリーナのバキュエータバルブの清掃……45ページ
●燃料フィルタの水，沈殿物の点検……45ページ
●車体各部の損傷，及びボルト・ナットのゆるみ
●作業機取付けピンの脱落
●各ランプ類の損傷
●ナンバプレートの汚れ，損傷……2ページ
(3)運転席に座って
●ブレーキペダル，クラッチペダルの遊びと作動……46，47ページ
●駐車ブレーキの作動
●ハンドルの作動
●バックミラーの汚れ及び損傷
(4)メインスイッチを入れて
●燃料計の作動……5ページ
●燃料は十分か
●ランプ類及びイージーチェッカの点灯及び汚れ……4，5，6ページ
●メータ類の作動……5ページ
●ホーン，ウインカランプの作動……4ページ
(5)エンジンを始動して
●イージーチェッカの消灯……6ページ
●排気ガスの色
●ブレーキの効き，片効き
●油圧レバーによる油圧昇降

トラクタの簡単な手入れと処置

＊給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷PTO変速レバー・主変速レバーを中立にし，❸作業機を降ろし，❹駐車ブレーキをかけ，❺エンジンを止め，安全を確認してから行なってください。
＊トラクタは，常に清掃しておいてください。
バッテリ・配線・マフラやエンジン周辺部に，ゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

定期点検箇所一覧表（専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。）

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)																購入日から		参照
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	ページ
1	エンジンオイルの交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○			42
2	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	◎			○				○				○				○			44
3	ミッションオイルの交換		◎						○								○			43
4	油圧オイルフィルタカートリッジの交換		◎		○				○				○				○			44
5	前車軸ケースのオイル交換						○						○							43
6	グリースの注入と注油	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			50
7	クラッチペダルの遊び点検	◎	○		○		○		○		○		○		○		○			46
8	ブレーキペダルの遊び点検		○		○		○		○		○		○		○		○			47
9	トーインの点検				○				○				○				○			48
10	バッテリの電解液量の点検		○		○		○		○		○		○		○		○			51
11	ラジエータホースの締付バンドのゆるみ点検				○				○				○				○			53
12	油圧・燃料パイプ取付ねじのゆるみ点検		○		○		○		○		○		○		○		○			53
13	ファンベルトの張り点検		○		○		○		○		○		○		○		○			46
14	燃料フィルタエレメントの交換								○								○			44
15	前車軸支持部の遊び調整												○							49
16	バルブクリアランスの点検	購入先で交換及び点検をしてもらってください。															○			－
17	燃料噴射ノズルの噴射圧の点検																○			－

【注】◎はならし運転の50又は100時間後に必ず行なってください。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)																購入日から		参照
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	ページ
18	エンジン冷却系統(ラジエータ内部)の洗浄																		○	41
19	エンジン冷却水の交換(不凍液使用の場合)																		○	40
20	エアークリーナエレメントの清掃		○		○		○		○		○		○		○		○			45
21	エアークリーナエレメントの交換																	○ 6回清掃ごと		45
22	パワーステアリングゴムホースの交換																		○	53
23	燃料パイプの交換																		○	53
24	ラジエータホースの交換																		○	53
25	操向装置，タイロッドの点検																○			—
26	車体各部のボルト，ナット及びピン類の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
27	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			52

給油(水)一覧表

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">給油(水)項目</th><th colspan="10">容　量(ℓ)</th><th rowspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>GL200</th><th>GL220</th><th>GL240</th><th>GL260K</th><th>GL280K</th><th>GL260
GL268
GL300E</th><th>GL280
(GL240J)
GL320E</th><th>GL300</th><th>GL320
GL338
(GL280J)</th><th>GL368
GL418</th></tr>
<tr><td>1</td><td>燃　料</td><td colspan="7">27</td><td colspan="3">35</td><td>クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td>2</td><td>冷却水</td><td colspan="5">6</td><td colspan="4">7</td><td>6.9</td><td>清水(不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。)</td></tr>
<tr><td>3</td><td>エンジンオイル</td><td colspan="9">5.7
(オイルゲージ上限全量で)</td><td>8.2</td><td>クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)
D30又はD10W30
CC級又はCD級(61ページ参照)</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ミッションオイル(油圧オイル)</td><td colspan="3">35</td><td>29</td><td>36</td><td colspan="2">37</td><td colspan="2">35</td><td>41</td><td rowspan="4">クボタ純オイルUDT
又はスーパーUDT(61ページ参照)</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ステアリングギヤーボックスオイル【マニュアルステアリング仕様】</td><td colspan="5">0.2</td><td colspan="5">——</td></tr>
<tr><td>6</td><td>前車軸ケース</td><td colspan="3">3.2</td><td colspan="2">3.5</td><td colspan="5">3.9</td></tr>
<tr><td>7</td><td>各操作レバー・ペダル支点</td><td colspan="10">注　油</td></tr>
<tr><td>8</td><td>3点リンク</td><td colspan="10">注入・塗布</td><td rowspan="3">シャーシグリース(61ページ参照)</td></tr>
<tr><td>9</td><td>バッテリターミナル</td><td colspan="10">塗　布</td></tr>
<tr><td>10</td><td>倍速カム</td><td colspan="10">塗　布</td></tr>
</table>

燃料について

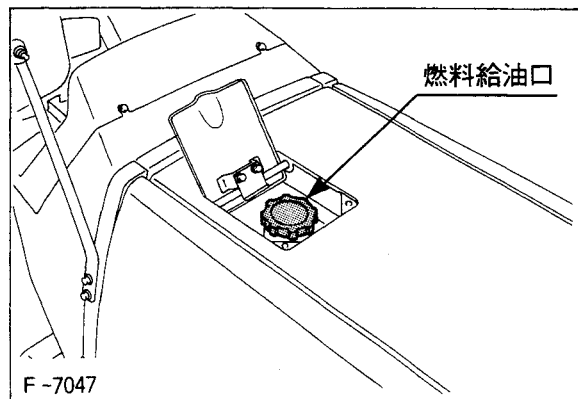
注　意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

■使用燃料

燃料には，「クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油」を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

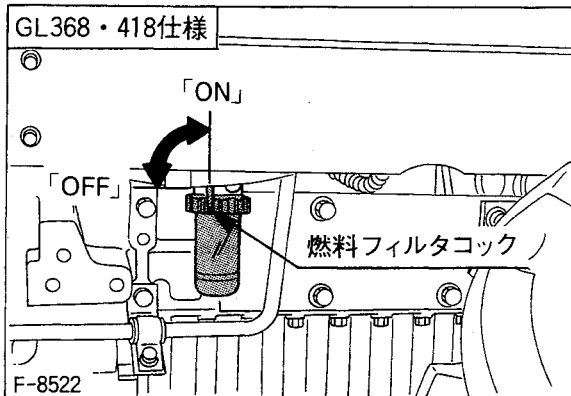
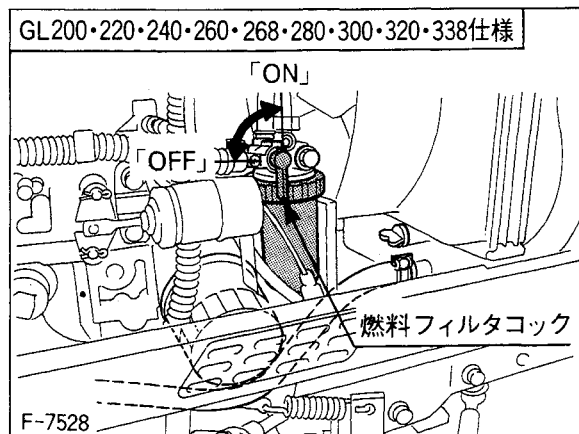
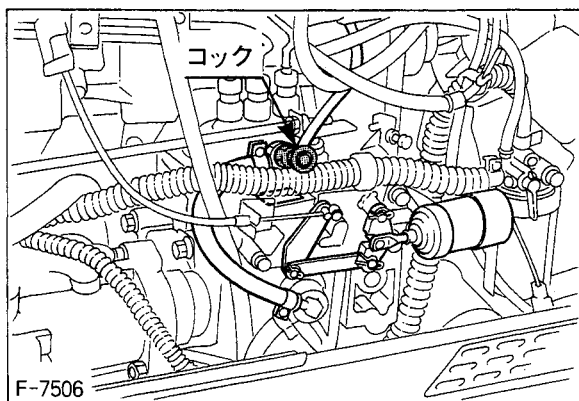
種　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特 1 号	＋5以上
1　号	0及び－5
2　号	－10
3　号	－15及び－20
特 3 号	－25及び－30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

重　要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると,燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは,
●燃料フィルタ及び配管を取外したとき
●燃料切れが起きたとき
●トラクタを長時間使用しなかったとき
に行なう必要があります。

❶燃料フィルタのコックを「ON」にする。

❷燃料噴射ポンプの上のコックを開く。

❸タンクに燃料を満たす。
❹エンジンを始動し，約1分間運転後停止する。
❺燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

補　足

＊空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

冷却水について

警　告

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

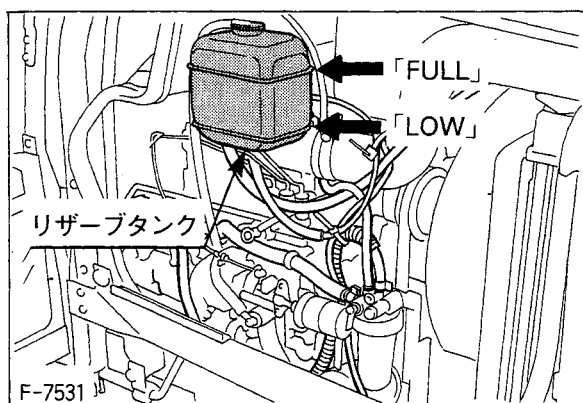
◆点検

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**「FULLからLOWの範囲」**であれば正常です。

冷却水がLOW以下の場合は，FULLのレベルまで補給してください。

「FULL」以上は入れないでください。

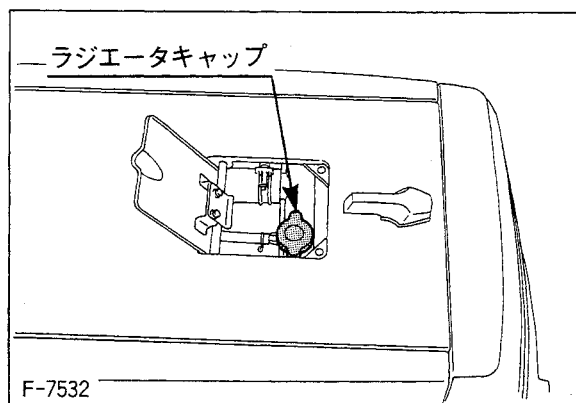
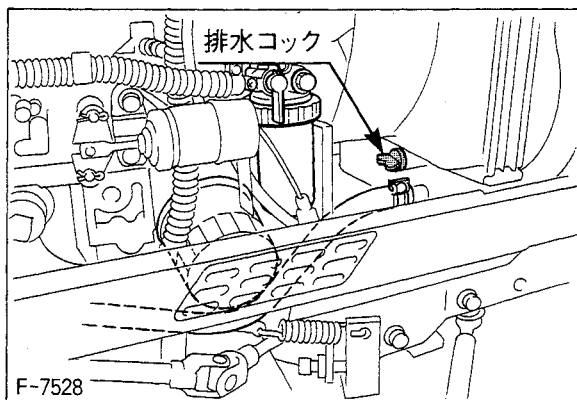
F-7531

補　足

＊ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

◆交換

❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。

F-7528

F-7532

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めてください。

❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入し，キャップを確実に締めてください。

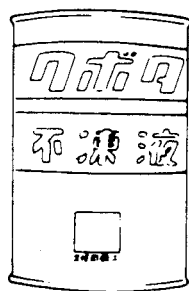
❹キャブ付きはヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約１ℓ多く必要となります。
冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ**「ON」**(小特Q_1仕様はヒータ用コックを冬にしてください)にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。
冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸いこまれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。

■不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

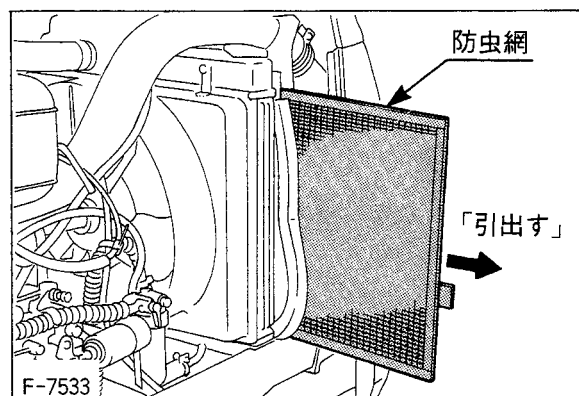
補 足

F－1012

* 冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
* 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
* 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
* クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
  必ず2年で交換してください。

■防虫網の清掃

＊エンジンは必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。
防虫網を引出して掃除します。

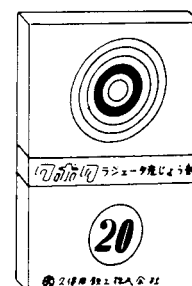
F-7533

■ラジエータコアーの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

重 要

* ヘラやドライバなど固いもので清掃してはいけません。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。

■ラジエータの洗浄

洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤No.20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

Z－1009

■ラジエータから水漏れした場合

(1)少しの水漏れの場合は，クボタラジエータセメントNo.40を使用すれば，止まります。
(2)水漏れが激しい場合は，お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

各部への給油と交換

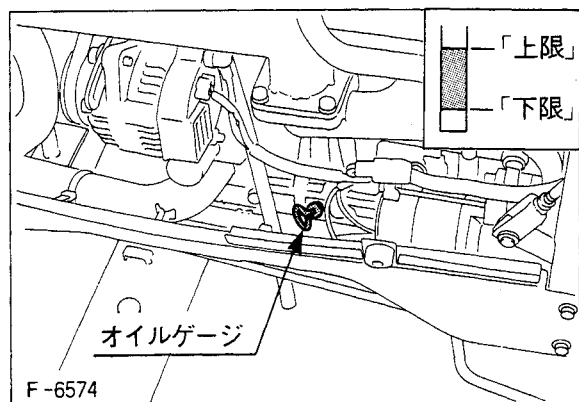
(1)点検するときは，トラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
(2)使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず「**クボタ純オイル**」を使用してください。

■エンジンオイル

◆点検

 注　意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください

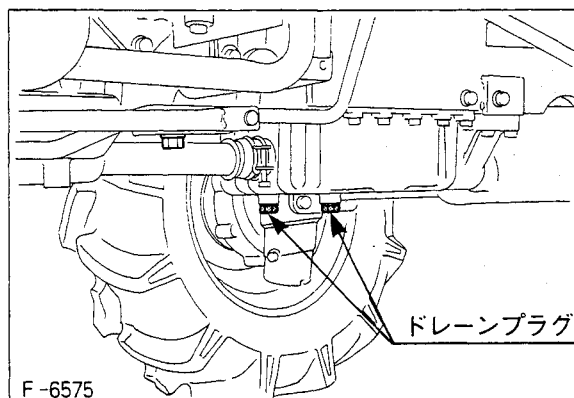
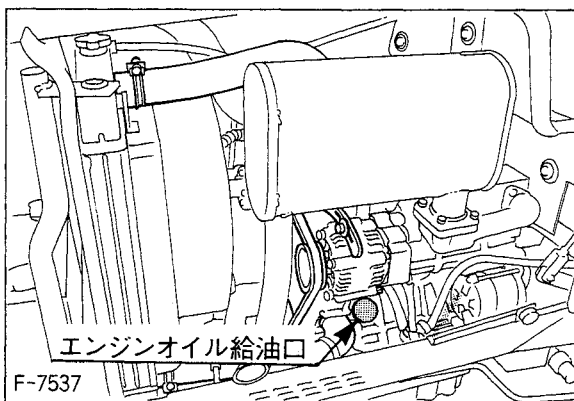
❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，ゆっくり差込んでから再び抜き「**下限と上限の間**」にオイルがあるかを調べます。
❷下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。

補　足

＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めて約5分以上たってから点検してください。
そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆交換

 注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶2つのドレーンプラグを外してオイルを出します。このときオイルが暖まっている方が出やすくなります。ただしヤケドに注意してください。

❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと入れやすくなります。

重　要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

＊冬期は必ずD10W30を使用してください。

■ミッションオイル

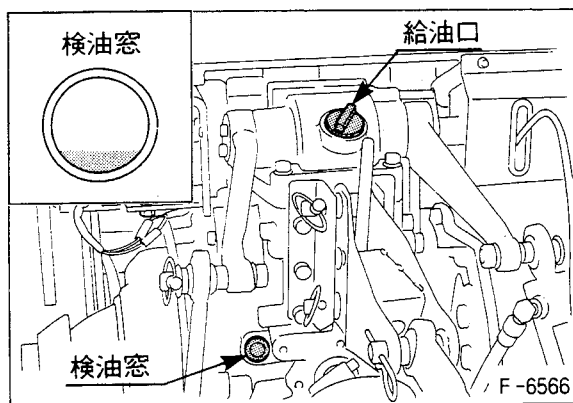
◆点検

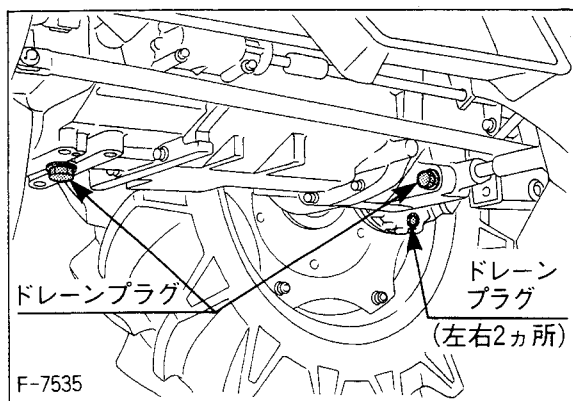
注　意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルレベルが検油窓にあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。
❷検油窓以下の場合は補給が必要ですが，検油窓以上には入れないでください。（油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。）

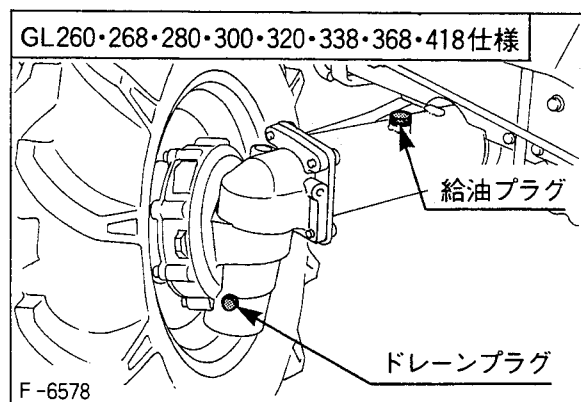
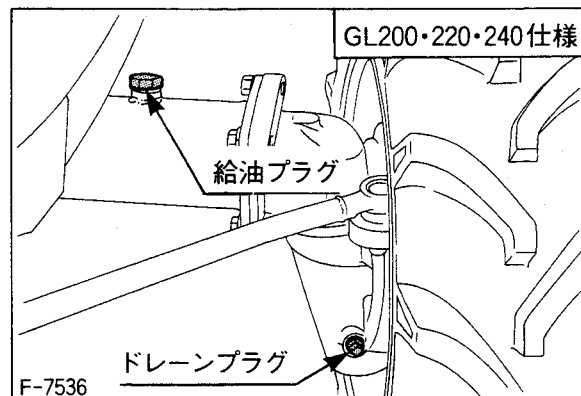
◆交換

注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグ(4カ所)を外してオイルを出します。

❷ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。

■前車軸ケースのオイル

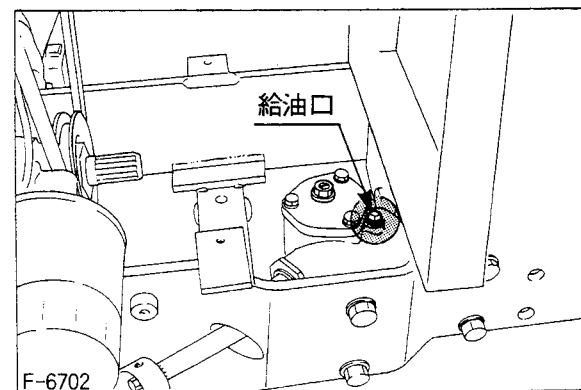
◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。

❷ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。

■ステアリングギヤーボックスのオイル【マニュアルステアリング仕様】

（パワーステアリング仕様はオイルを補給する必要はありません。）

◆点検

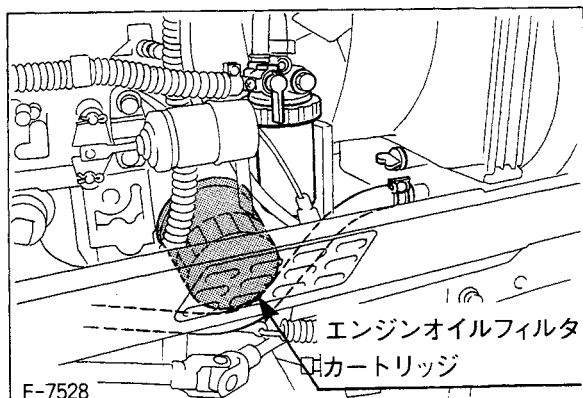
給油口を外し給油口の下まであるかを調べます。

◆補給

不足している場合は，給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。

フィルタの交換と洗浄

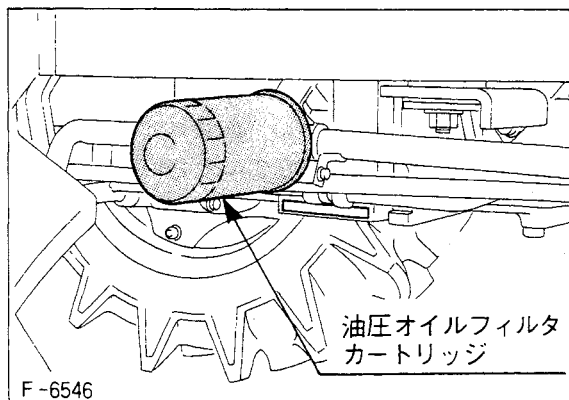
■エンジンオイルフィルタ (カートリッジ)の交換

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しいカートリッジと交換してください。

❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約5分間運転し，オイルランプの作動に異常がないかまた，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給する必要があります。

■油圧オイルフィルタ (カートリッジ)の交換

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

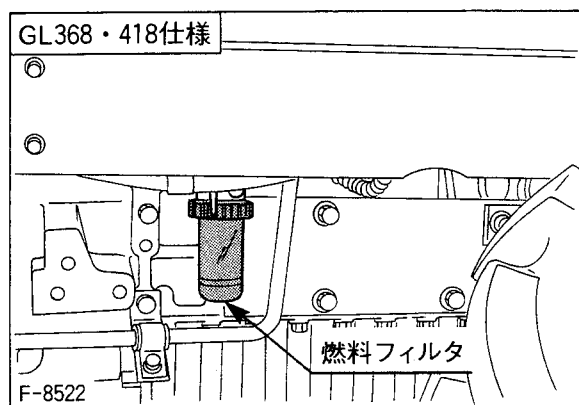
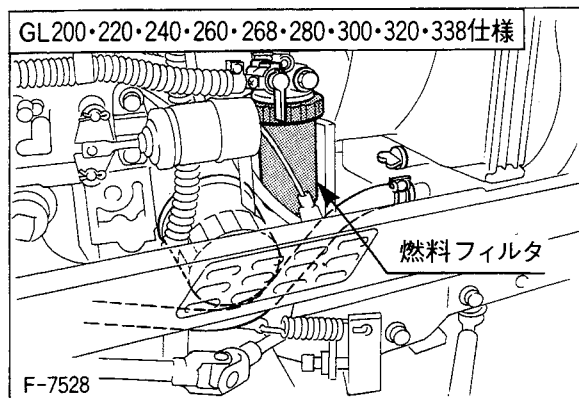
純正部品のカートリッジと交換してください。

❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約2分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

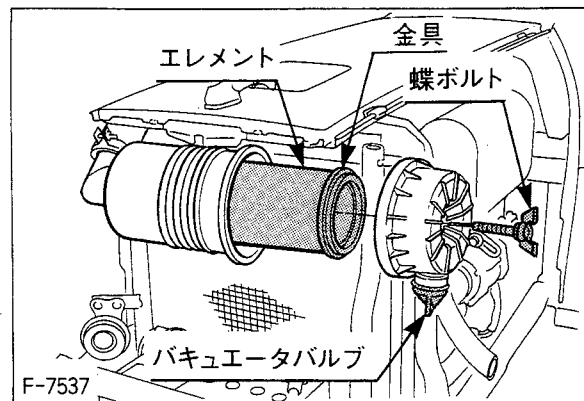
■燃料フィルタエレメントの清掃交換

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったらコックを閉じ，フィルタを外し，水・ゴミを取除いてください。
このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

❶燃料フィルタのコックを閉じてください。
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメントを交換したのちは，必ず空気抜きを行ないましょう。

■エアクリーナエレメントの清掃交換

(1)乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
(2)バキュエータバルブを開き，大きなゴミを取除いてください。

◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。(エアーの圧力は7 kgf/cm²を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊エレメントをたたいて変形させないでください。(特に両端の金具)
　変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
　変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊清掃後は，蝶ボルトを確実に締めてください。

◆エレメントの交換

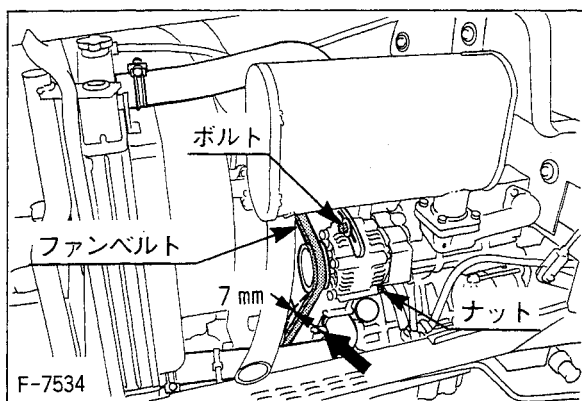
エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

各部の点検・調整

注　意

＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

■ファンベルトの張り

ベルトの調整が悪いと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
ベルトの中央部を指先で押えて，たわみ量が「約7㎜」程度あるか確認してください。また，き裂やはがれがないかを調べます。

◆調整方法

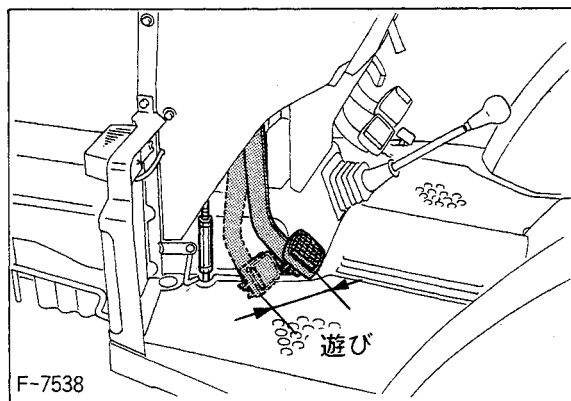
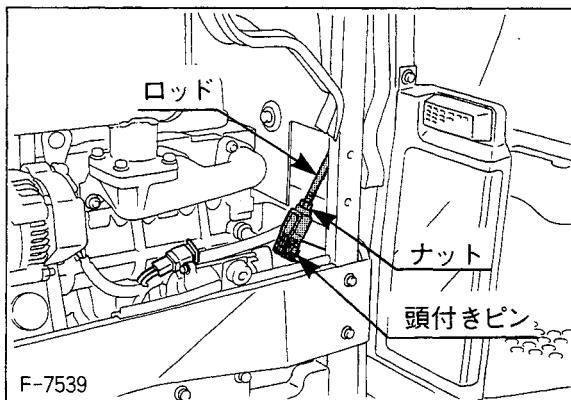
❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。

■クラッチペダルの遊び

遊びが適正でないと，クラッチ切れ不良，伝動不良を起し，損傷につながります。

◆点検

クラッチペダルの遊び量が「20～30㎜」あるかを確認してください。

◆調整

❶ナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
❷調整後はナットを確実に締め付け，更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。

■ブレーキペダルの遊び

警　告

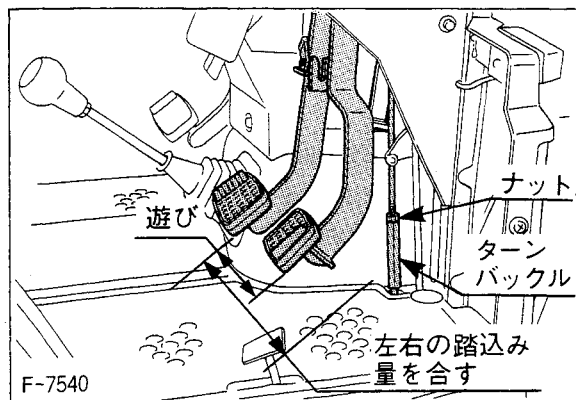
＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。

＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず「5㎜以内」にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。

◆点検

ペダルを踏んで遊び量が「15〜20㎜」かどうか，また左右ブレーキの踏込み量が「不均一」(5㎜以上)になっていないかを調べます。

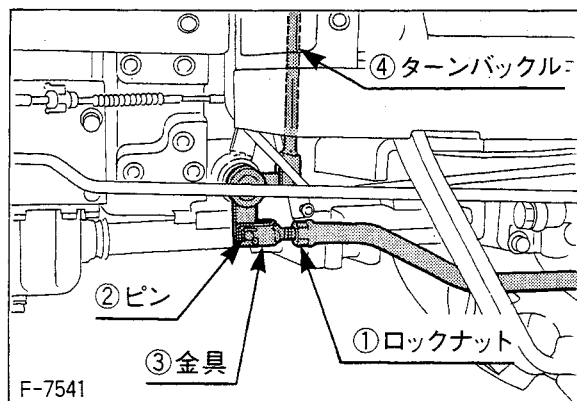
◆調整

【マニュアルステアリング仕様】

❶ナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。

❷ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するかを確認してください。

【AD(オートディスクブレーキ)BS仕様】

❶ステップ下のブレーキロッドのロックナット①をゆるめる。

❷ピン②を外し，金具③を回してブレーキペダルの遊びを調整します。

重　要

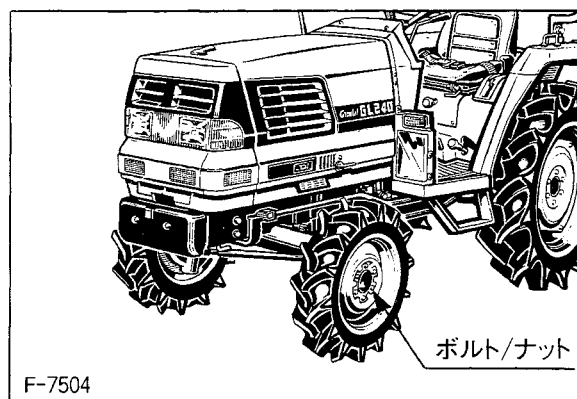
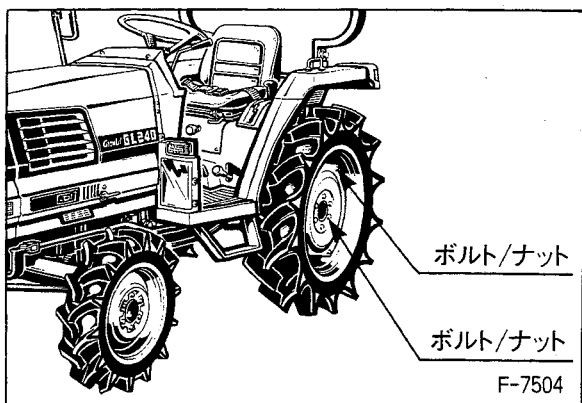
＊BS仕様は，通常のブレーキにAD(オートディスクブレーキ)の機構が組込まれていますので，ペダルの遊び調整方法を守ってください。

＊④のターンバックルはさわらないでください。
ADの調整がくるいます。

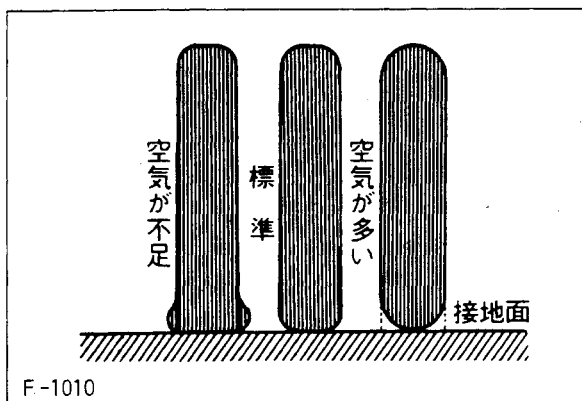
■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

＊タイヤ取付ボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

F-7504

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。

F-1010

◆標準空気圧

( )内はフロントローダ装着時

	空気圧(kgf/cm²)
	4 WD
前　　輪	1.6(2.0)
後　　輪	1.0, 1.2(12.4−28−4PR)

■トーイン調整

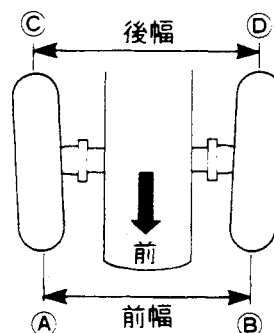
注　意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

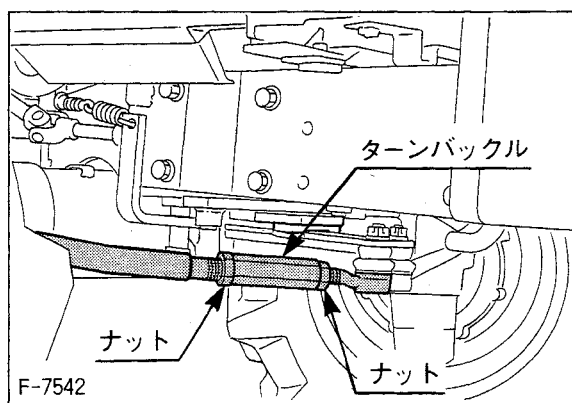
前輪の前幅Ⓐ Ⓑと後幅Ⓒ Ⓓを測り，Ⓒ Ⓓ−Ⓐ Ⓑ＝2～8㎜になっているかを調べます。

F-3197

◆調整

ナットをゆるめ，Ⓒ Ⓓ−Ⓐ Ⓑ＝2～8㎜になるように調整します。
調整後はナットを確実に締付けておいてください。

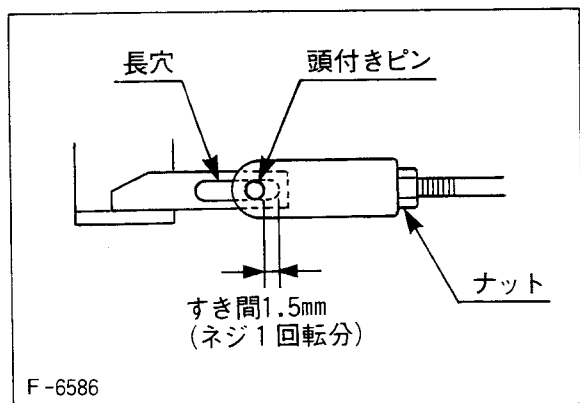
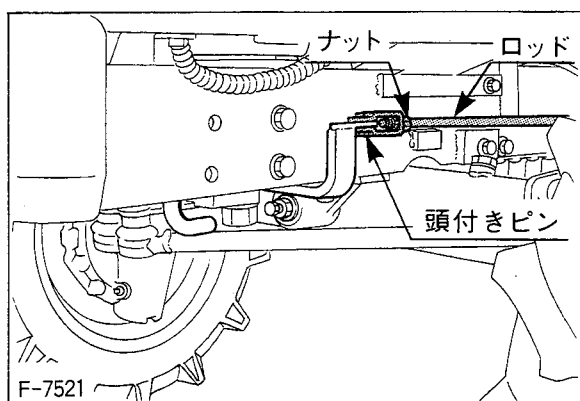
F-7542

■倍速ロッドの調整

◆調整

❶倍速ターンレバーを倍速ターン「入」の位置にします。

補　足

＊前輪は必ず直進状態にしておいてください。
このとき，ロッドが後端まで戻っており，倍速ターンレバーが前輪駆動「入」↔倍速ターン「入」に軽く切換わることを確認してください。

❷ナットをゆるめ頭付きピンを外し，長穴の後端と頭付きピンのすき間が1.5mmになるように，ロッドの長さを調整します。

❸調整後はナットを確実に締付け，更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。

❹倍速ターンレバーの倍速ターン「入」↔前輪駆動「入」の切換えがスムーズにできることを確認してください。

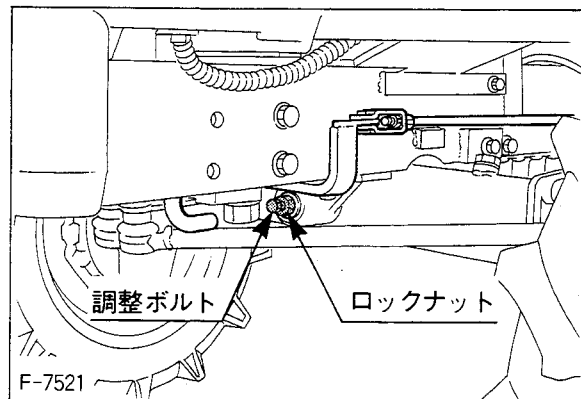
■前車軸支持部の遊び

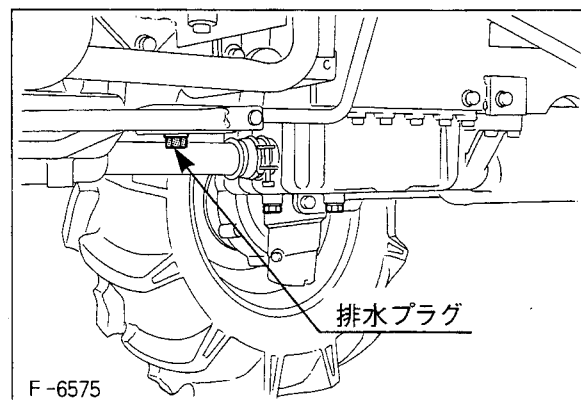
前車軸支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

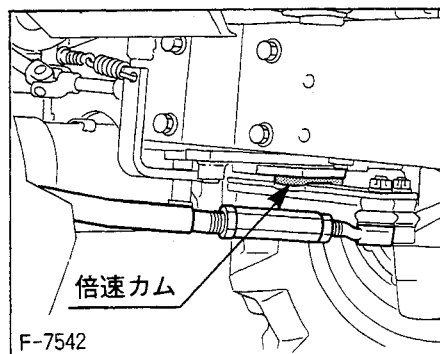
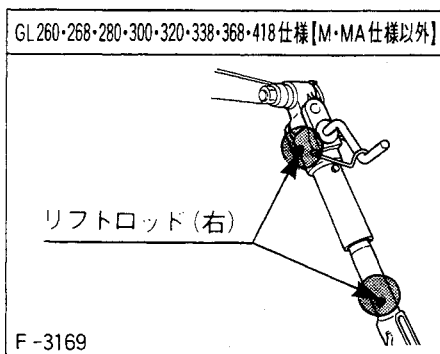
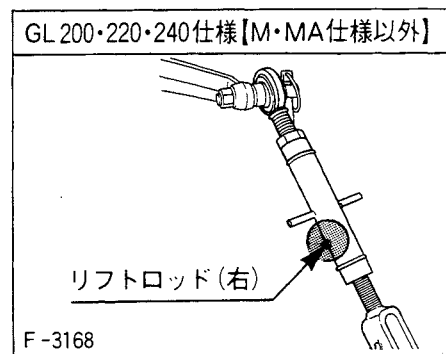
前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタを調整します。

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底の排水プラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

グリースの注入と注油

通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**「クボタ推奨グリース」**を使用してください。(61ページ参照)

■グリースの注入――シャーシグリースを少量注油します。

■注油

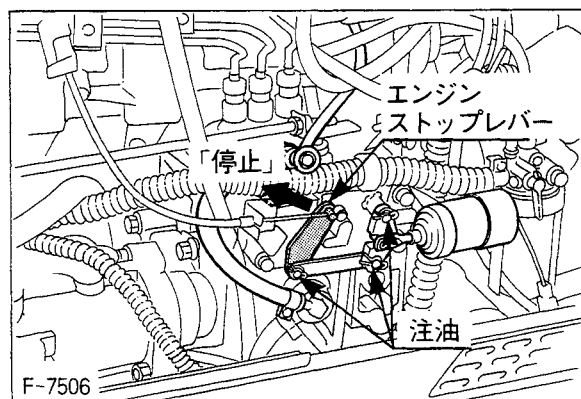
◆停止ソレノイドリンクへの注油

ソレノイドリンクの注油及び清掃は，１年に１回使用前及び長期格納時に行なってください。
注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してメインスイッチ「OFF」でエンジンが停止するか確認してください。

補　足

＊この部分は，メインスイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが侵入したときは，適宜清掃を行なってください。

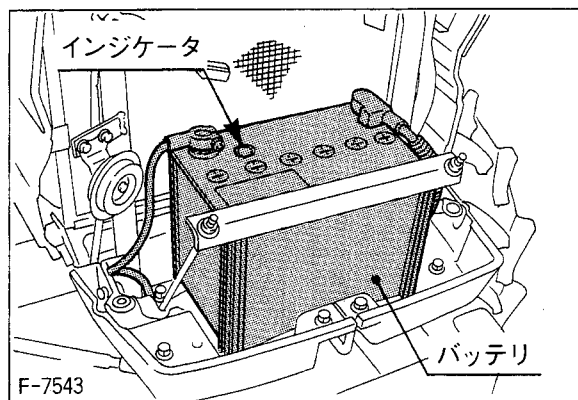
電気系統の点検

警　告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
　状況により医師の診断を受けてください。
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止してください。
＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
　バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

■バッテリの取付け，取外し

注　意

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。
　逆にすると，工具が当った場合にショートします。

■バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが上面にインジケータがあり，その表示状態によって精製水を補給，または補充電してください。

◆インジケータの見方

㊔…OKです。㊊…点検してください。

インジケータ表示状態		
	㊔	電解液比重・電解液量 共に良好です。
	㊊	要点検です (点検順序) ①液面が下っている場合精製水を補水し，㊔になればそのままご使用ください。㊊のままの場合は，6～7Aの普通充電電流で補充電してください。 ②液面が正常な場合 6～7Aの普通充電電流で補充電を行なってください。

重　要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
＊バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
＊充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
　コードの接続をまちがわないように注意してください。
＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（75D26R-MF：GL368・418仕様以外，75D31R-MF：GL368・418仕様)のバッテリを使用してください。
＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注　意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。

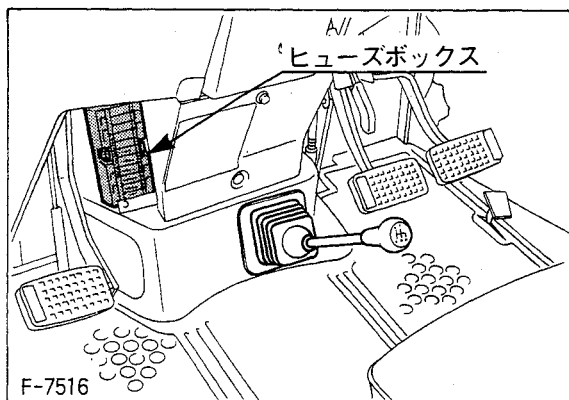
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。

(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

❶ヒューズボックスのふたを外す。

❷ヒューズを外す。

❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

【キャブなし】

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。		
	モンロー	10A
	電源取り出し	15A
	作業灯	10A
	ヘッドランプ フラッシャー,ホーン	15A
	パネル，リレー オルタネータ	10A
	キーストップ	15A

【キャブ付き】

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。		
	作業灯前	15A
	作業灯後	15A
	ヒータ カーファン	10A
	ワイパ	15A
	モンロー	10A
	電源取り出し	15A
	ラジオ	10A
	ヘッドランプ フラッシャー,ホーン	15A
	パネル，リレー オルタネータ	10A
	キーストップ	15A

【GL268・338・368・418仕様のキャブなし】

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。		
	モンロー	10A
	電源取り出し	15A
	フラッシャー 作業灯	15A
	ヘッドランプ ホーン	20A
	パネル，リレー オルタネータ	10A
	パーキング	10A
	キーストップ	15A

【GL268・338・368・418仕様のキャブ付】

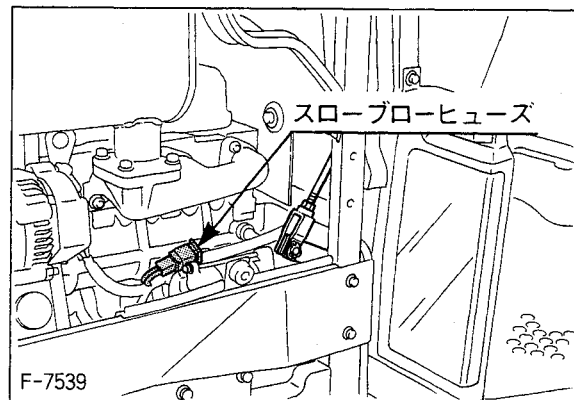
指定容量以外のヒューズは使用しないでください。				
	ラジオ	10A		
	モンロー	10A		
	電源取り出し	15A		
	フラッシャー ブレーキ,バック	15A		
	ヘッドランプ ホーン	20A	エアコン （ブロアモータ）	10A
	パネル，リレー オルタネータ	10A	エアコン （コンプレッサ）	20A
	ルームランプ	10A	作業灯前	15A
	パーキング	10A	作業灯後	15A
	キーストップ	15A	ワイパー	15A

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

＊トラクタにラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

F-7539

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

パイプ類の点検・交換

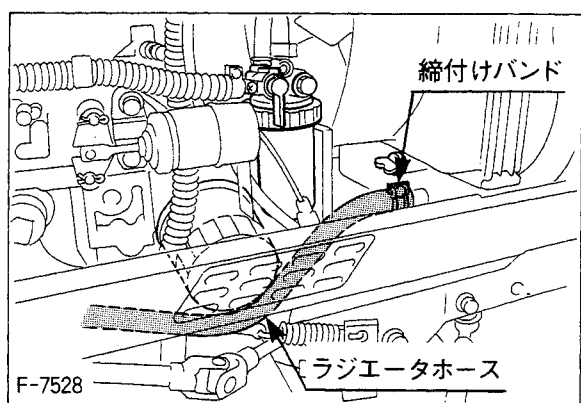
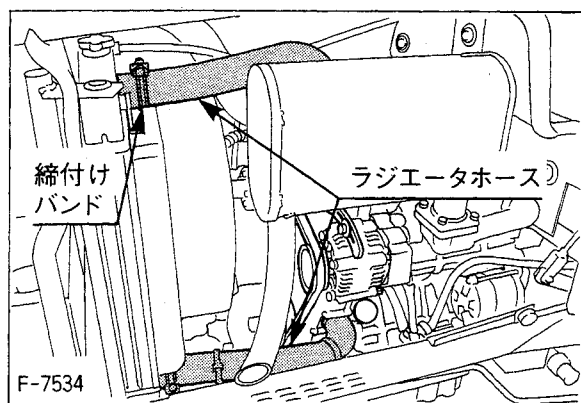
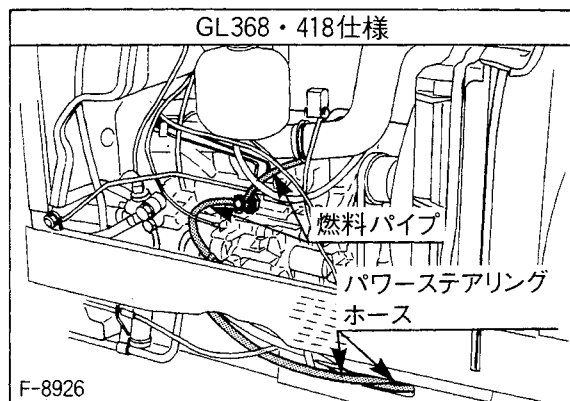
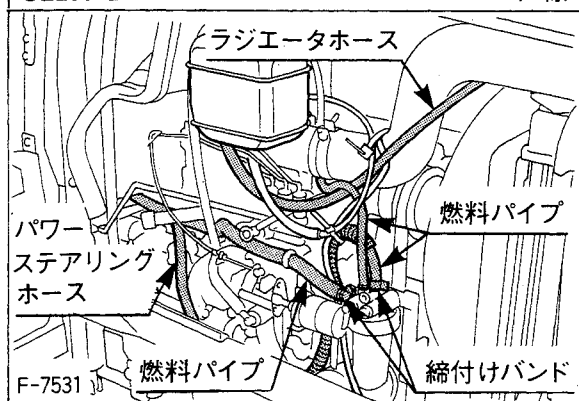
 注　意

＊ラジエータホース・燃料パイプ・パワーステアリングホースの傷みや締め付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドや，燃料による火災や傷害事故，ハンドル操作ができなくなる事故などの原因になります。

燃料パイプやラジエータホース，パワーステアリングホースなどのゴム製品は，使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

(1)パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

(2)燃料パイプを交換する場合は，必ず空気抜きをする必要があります。

(3)油圧システムを動かす前に，すべての接続部が締まっているか，またパイプやホースに損傷がないか確認してください。

重 要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

長期格納時の手入れ

注 意

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
▶もし怠ると……
火災を起こす原因になります。
＊長期格納時は，クラッチ固着防止のため金具でクラッチ「切り」にしてください。
▶クラッチが固着すると
エンジン始動と同時に車体が動くことがあります。

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備してください。

(2)エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。

(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。

(4)車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。

(5)燃料コックを「OFF」にしておいてください。

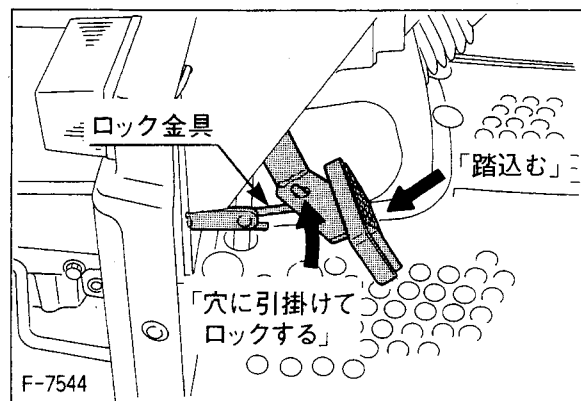
(6)冷却水は抜いておいてください。

(7)クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆クラッチ「切」保持の方法

❶クラッチペダルをいっぱい踏込み，「ロック」します。

❷ロックしたまま，クラッチペダルから足を離します。
これでクラッチは，「切」の状態で保持されます。

❸使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めば，ロックが外れ，「切」保持の状態が解除されます。

(8)クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。

(9)タイヤの空気圧は，標準より少し多めにしてください。

(10)バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

(11)ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。

(12)後輪の前後に車止めをしておいてください。

(13)各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。

(14)格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。

(15)格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

(16)燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のサビの原因になります。

重 要

＊長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　　象	原　　　因	処　　　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ及び締付バンドを点検し，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ●空気抜きをする。(39ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。
	(2)燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3)エアークリーナの目詰まり。	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。
	(2)燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
	(3)エアクリーナの目詰まり。	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1)冷却水が125℃付近になったため。	●冷却水の量(不足)及び水もれの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●フロントグリル，ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終っている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

区分	項目	GL200	GL220	GL240	GL260	GL268	GL280	GL300	GL300E
形式		GL200	GL220	GL240	GL260	GL268	GL280	GL300	GL300E
駆動方式		4輪駆動							
機体寸法	全長(mm)	2950			3050			3180	3050
機体寸法	全幅(mm)	1250	1275		1350		1420		1350
機体寸法	全高(mm)	1955		1980	1950		1995	1980	1950
機体寸法	軸距(mm)	1550			1645			1750	1645
機体寸法	輪距 前輪(mm)	950			1080		1130		1080
機体寸法	輪距 後輪(mm)	1010，1130			1050～1345(6段)		1130～1420(5段)	1085～1475(6段)	1050～1345(6段)
機体寸法	最低地上高(mm)	335		350	345		360		345
重量(kg)		1095		1105	1180		1215	1270	1180
エンジン	名称	クボタD1403-L-N	クボタD1463-LL-N	クボタD1463-L-N	クボタD1503-LL-N	クボタD1503-L-N		クボタD1503-N	クボタD1503-NE
エンジン	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル							
エンジン	総排気量(cc)	1393	1463		1499				
エンジン	出力／回転速度(PS/rpm)	20/2500	22/2500	24/2500	26/2600		28/2600	30/2700	
エンジン	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油							
エンジン	燃料タンク容量(ℓ)	27						35	27
エンジン	始動方式	セルモータ式(グロープラグ付)							
エンジン	バッテリ	75D26R　MF(メンテナンスフリー)							
タイヤ	前輪	6-14-4PR			7-16-4PR		8-16-4PR		7-16-4PR
タイヤ	後輪	8.3-24-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-22-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-24-4PR ニューバランスタイヤ	11.2-24-4PR ニューバランスタイヤ		11.2-26-4PR ニューバランスタイヤ	12.4-26-4PR ニューバランスタイヤ	11.2-24-4PR ニューバランスタイヤ
車体	クラッチ方式	乾式単板							
車体	制動装置	一系統左右独立(連結装置付)，湿式ディスクブレーキ(機械式)							
車体	かじ取り方式	ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング)							
車体	差動方式	2ピニオンかさ歯車式(デフロック付)			4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)				
車体	変速方式	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動／Uシフト				Uシフト	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動／Uシフト		コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動
変速段数(段)		前進16，後進16(シャトル)							
走行速度(km/h)	前進	0.22～14.65		0.23～14.88	0.22～14.80	0.32～23.73	0.22～14.92	0.22～14.48	0.22～14.70
走行速度(km/h)	後進	0.19～13.19		0.20～13.39	0.19～13.32	0.30～21.91	0.20～13.43	0.20～13.03	0.20～12.29
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)		1.9			2.1			2.2	2.1
PTO	回転速度／エンジン回転速度(rpm) 正転	546,772 947,1254/2500			568,803 985,1304/2600		544,770 944,1250/2600	565,800 980,1298/2700	
PTO	回転速度／エンジン回転速度(rpm) 逆転	772/2500			803/2600		770/2600	800/2700	
PTO	軸寸法(mm)	JIS　35							
作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール							
作業機昇降装置	装着方式	3点リンク　JIS　1形							

形式		GL320	GL320E	GL338	GL240J	GL280J	GL260K	GL280K	GL368	GL418
駆動方式		4輪駆動								
機体寸法	全長(mm)	3180	3050	3180	3050	3180	2955	3005	3325	
機体寸法	全幅(mm)	1455	1420	1455	1475	1520	1290	1310	1500	1490
機体寸法	全高(mm)	1980	1995	1980	1475	1485	1295	1255	2175	
機体寸法	軸距(mm)	1750	1645	1750	1645	1750	1545	1625	1830	
機体寸法	輪距 前輪(mm)	1130				1170	1050	1090	1130	
機体寸法	輪距 後輪(mm)	1110～1575（６段）	1130～1420（５段）	1110～1575（６段）	1080～1370（５段）	1105～1495（６段）	1000,1120	1050,1170	1180～1473（５段）	1155～1447（５段）
機体寸法	最低地上高(mm)	360				390	270	230	360	
重量(kg)		1280	1215	1280	1150	1220	1050	1075	1450	
エンジン	名称	クボタD1503-H-N	クボタD1503-H-NE	クボタD1703-N	クボタD1463-L-N	クボタD1503-L-N	クボタD1503-LL-N	クボタD1503-L-N	クボタV1903-E	クボタV2203-E
エンジン	形式	水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル							水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル	
エンジン	総排気量(cc)	1499		1647	1463	1499			1857	2197
エンジン	出力／回転速度(PS/rpm)	32/2800		33/2700	24/2500	28/2600	26/2600	28/2600	36/2600	42/2600
エンジン	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油								
エンジン	燃料タンク容量(ℓ)	35	27	35	27	35	27		35	
エンジン	始動方式	セルモータ式(グロープラグ付)								
エンジン	バッテリ	75D26R　MF(メンテナンスフリー)							75D31R　MF(メンテナンスフリー)	
タイヤ	前輪	8-16-4PR			8-16 Hi	8-18 Hi	6-14-4PR	6-12-4PR	8-16-4PR	
タイヤ	後輪	13.6-24-4PR ニューバランスタイヤ	11.2-26-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-24-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-26-4PR ニューバランスタイヤ	11.2-28-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-24-4PR ニューバランスタイヤ		12.4-28-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-26-4PR ニューバランスタイヤ
車体	クラッチ方式	乾式単板								
車体	制動装置	一系統左右独立(連結装置付)，湿式ディスクブレーキ(機械式)								
車体	かじ取り方式	ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング)							全油圧式パワーステアリング	
車体	差動方式	４ピニオンかさ歯車式(デフロック付)					２ピニオンかさ歯車式(デフロック付)		４ピニオンかさ歯車式(デフロック付)	
車体	変速方式	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動/Uシフト	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動	Uシフト				コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動／Uシフト	
変速段数(段)		前進16，後進16(シャトル)								
走行速度(km/h)	前進	0.22～14.90	0.22～14.74	0.32～23.21	0.20～13.70	0.21～14.00	0.23～14.55	0.24～14.58	0.17～25.13	
走行速度(km/h)	後進	0.20～13.41	0.21～13.43	0.29～21.18	0.18～11.40	0.19～11.69	0.22～12.72	0.22～13.09	0.15～23.04	
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)		2.2	2.1	2.2	2.3	2.4	2.0	1.9	2.3	
PTO	回転速度／エンジン回転速度(rpm) 正転	586,829 1016,1346/2800		565,800 980,1298/2700	523,740 908,1202/2500	544,770 944,1250/2600	568,803 985,1304/2600	544,770 943,1250/2600	544,806,1252/2600	
PTO	回転速度／エンジン回転速度(rpm) 逆転	829/2800		800/2700	740/2500	770/2600	803/2600	770/2600	544/2600	
PTO	軸寸法(mm)	JIS　35								
作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール								
作業機昇降装置	装着方式	３点リンク　JIS　１形								

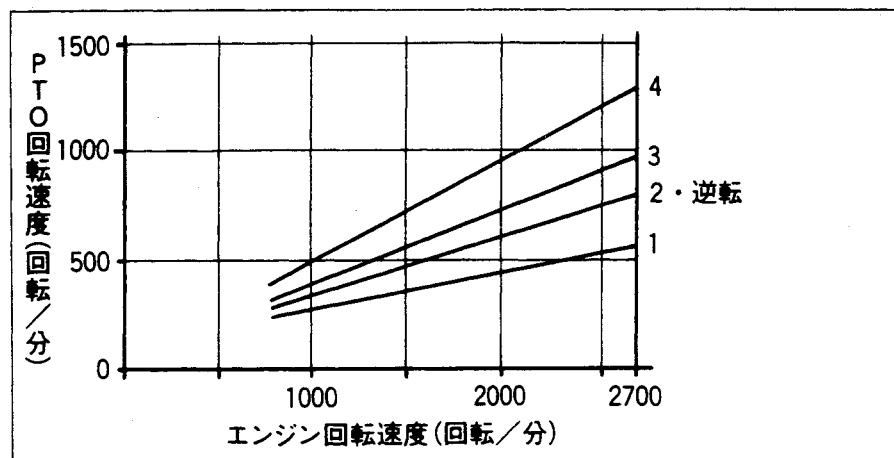
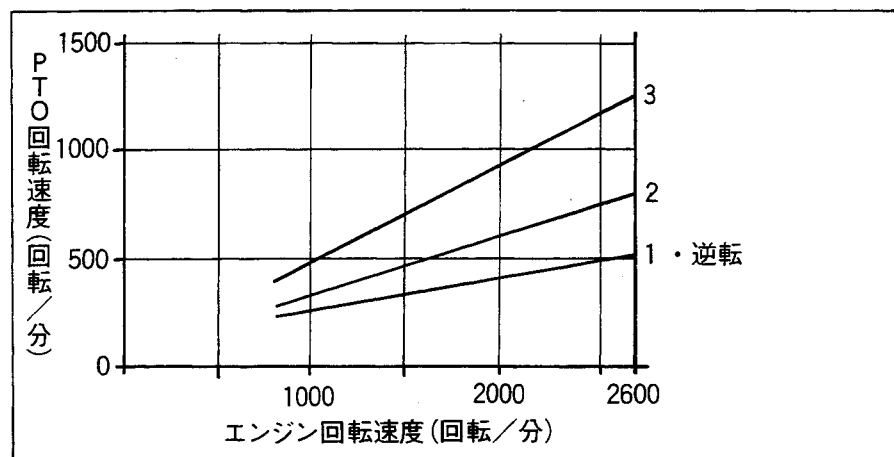
■走行速度表

(km／h)

マニュアルシフト仕様			Uシフト仕様		GL200		GL220		GL240		GL260		GL280		GL280K		GL300		GL300E		GL320		GL320E		GL368•418	
主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L	L	1	L	0.22	0.19	0.22	0.19	0.23	0.20	0.22	0.19	0.22	0.20	0.24	0.22	0.22	0.20	0.22	0.20	0.22	0.20	0.22	0.21	0.17	0.15
2			2		0.31	0.28	0.31	0.28	0.32	0.29	0.31	0.28	0.31	0.28	0.35	0.31	0.31	0.28	0.31	0.28	0.31	0.28	0.31	0.30	0.24	0.22
3			3		0.38	0.34	0.38	0.34	0.40	0.36	0.38	0.34	0.38	0.34	0.42	0.38	0.37	0.33	0.38	0.34	0.38	0.34	0.38	0.37	0.35	0.32
4			4		0.50	0.45	0.50	0.45	0.53	0.47	0.50	0.45	0.51	0.46	0.56	0.51	0.50	0.45	0.50	0.45	0.51	0.46	0.51	0.49	0.54	0.50
1	H		5		0.73	0.65	0.73	0.65	0.74	0.67	0.74	0.66	0.74	0.67	0.79	0.71	0.73	0.65	0.74	0.66	0.75	0.67	0.74	0.73	0.80	0.74
2			6		1.03	0.93	1.03	0.93	1.05	0.94	1.05	0.94	1.04	0.94	1.11	1.00	1.03	0.93	1.05	0.94	1.06	0.96	1.05	1.03	1.14	1.04
3			7		1.27	1.14	1.27	1.14	1.29	1.16	1.28	1.15	1.28	1.15	1.37	1.23	1.26	1.13	1.28	1.15	1.31	1.17	1.29	1.26	1.68	1.54
4			8		1.68	1.51	1.68	1.51	1.70	1.53	1.70	1.53	1.69	1.52	1.81	1.62	1.67	1.50	1.70	1.52	1.73	1.56	1.71	1.67	2.62	2.40
1	L	H	1	H	1.77	1.59	1.77	1.59	1.86	1.67	1.77	1.59	1.76	1.58	1.97	1.77	1.74	1.56	1.77	1.59	1.80	1.62	1.77	1.73	1.49	1.37
2			2		2.51	2.25	2.51	2.25	2.64	2.37	2.51	2.25	2.49	2.24	2.79	2.51	2.46	2.21	2.50	2.24	2.55	2.29	2.51	2.45	2.11	1.93
3			3		3.07	2.76	3.07	2.76	3.23	2.91	3.07	2.76	3.05	2.75	3.42	3.07	3.02	2.71	3.06	2.75	3.12	2.80	3.08	3.01	3.12	2.86
4			4		4.07	3.66	4.07	3.66	4.28	3.85	4.07	3.66	4.04	3.64	4.53	4.07	3.99	3.58	4.05	3.64	4.14	3.72	4.08	3.98	4.85	4.45
1	H		5		5.90	5.31	5.90	5.31	6.00	5.40	5.98	5.38	5.93	5.34	6.35	5.70	5.87	5.28	5.96	5.35	6.08	5.47	5.99	5.85	7.17	6.57
2			6		8.35	7.52	8.35	7.52	8.48	7.64	8.47	7.62	8.39	7.55	8.98	8.06	8.31	7.48	8.43	7.57	8.61	7.75	8.47	8.27	10.14	9.30
3			7		10.24	9.22	10.24	9.22	10.40	9.36	10.38	9.34	10.29	9.26	11.01	9.89	10.18	9.17	10.34	9.28	10.55	9.50	10.39	10.14	15.03	13.78
4			8		14.65	13.19	14.65	13.19	14.88	13.39	14.80	13.32	14.92	13.43	14.58	13.09	14.48	13.03	14.70	12.29	14.90	13.41	14.74	13.43	25.13	23.04

Uシフト仕様		GL268		GL338		GL240J		GL280J		GL260K	
主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L	0.32	0.30	0.32	0.29	0.20	0.18	0.21	0.19	0.23	0.22
2		0.46	0.42	0.45	0.41	0.29	0.26	0.29	0.26	0.33	0.31
3		0.56	0.51	0.55	0.50	0.35	0.32	0.36	0.32	0.40	0.38
4		0.74	0.68	0.73	0.66	0.47	0.42	0.48	0.43	0.53	0.50
5		1.08	0.98	1.05	0.96	0.68	0.62	0.70	0.63	0.73	0.69
6		1.52	1.39	1.48	1.36	0.97	0.87	0.99	0.89	1.03	0.97
7		1.87	1.71	1.83	1.67	1.19	1.07	1.22	1.09	1.27	1.19
8		2.48	2.26	2.42	2.21	1.57	1.42	1.61	1.45	1.68	1.58
1	H	2.88	2.63	2.83	2.58	1.63	1.47	1.68	1.51	1.87	1.76
2		4.08	3.73	4.00	3.65	2.31	2.08	2.37	2.13	2.65	2.50
3		5.00	4.57	4.90	4.47	2.84	2.55	2.91	2.61	3.25	3.06
4		6.62	6.05	6.48	5.92	3.75	3.38	3.85	3.46	4.30	4.05
5		9.61	8.78	9.41	8.59	5.52	4.97	5.65	5.09	5.88	5.54
6		13.60	12.42	13.31	12.15	7.81	7.03	8.00	7.20	8.32	7.83
7		16.68	15.23	16.32	14.90	9.57	8.61	9.81	8.82	10.20	9.60
8		23.73	21.91	23.21	21.18	13.70	11.40	14.00	11.69	14.55	12.72

■PTO回転速度表

◆GL200・220・240・260・268・280・300・320・338仕様

◆GL368・418仕様

標準付属品

品　　名	数量／台	備　　考	品　　名	数量／台	備　　考
ドライバー	1	＋，－差換え式	取扱説明書	1	
10－12　スパナ	1		サービスブック	1	
14－17　スパナ	1		ＰＴＯ軸カバー	1	
19－22　スパナ	1		ボルト	1	PTO軸カバー用
24－27　スパナ	1		平座金	1	
17－24　メガネ　レンチ	1		バネ座金	1	
プライヤ	1				
スローブローヒューズ	1				
メインスイッチキーアッシ	1	キー２コ			

推奨オイル・グリース一覧表

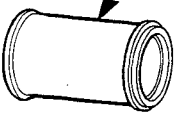
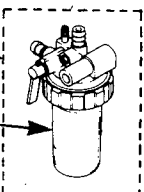
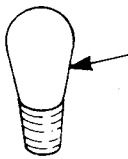
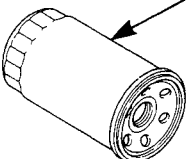
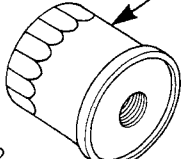
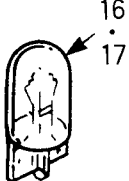
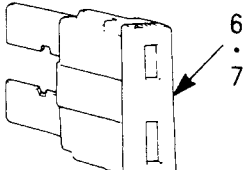
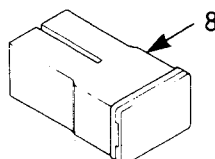
必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイル
日本石油 コスモ石油 ジャパンエナジー 昭和シェル石油 富士興産	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 ターボ付エンジンは D30スーパーCD又は D10W30スーパーCD	クボタ純オイルUDT 又は クボタ純オイルスーパーUDT	クボタ純オイルM90 又は クボタ純オイルM80B

●寒冷地用としてミッションオイルにクボタ純オイルスーパーUDTをおすすめします。
●Uシフト仕様については寒冷地以外でも，Uシフト仕様の性能を引出すためクボタ純オイルスーパーUDTを使用してください。

■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAPNo. 2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo. 2	ロードマスターNo. 2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo. 2	リゾニックスグリースNo. 2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo. 2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB 2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo. 2	ホイールベアリング HDグリースNo. 2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo. 2	WBグリースNo. 2
キグナス石油	シャーシグリースNo. 2	MPグリースNo. 2

主な消耗部品一覧表

図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
1	フィルタコンプ(エアクリーナ)	T0070-1632-0	10	デンキュウ	38450-3421-0
2	フューエルフィルタアッシ	16271-4301-2		デンキュウ【GL268・338・368・418仕様】	38150-3384-0
3	フィルタエレメント	16271-4356-0	11	デンキュウ	34070-9911-0
4	オイルフィルタカートリッジ	34680-3771-0		デンキュウ【GL268・338・368・418仕様】	31391-3436-0
5	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0	12	デンキュウ【GL268・338・368・418仕様】	38150-3385-0
6	ヒューズ10A	31351-3363-0	13	デンキュウ【GL268・338・368・418仕様】	31301-3437-0
7	ヒューズ15A	31351-3364-0	14	デンキュウ【GL268・338・368・418仕様】	36200-7583-0
8	スローブローヒューズ	34670-3453-0	15	デンキュウ【GL268・338・368・418仕様】	36530-7598-0
	スローブローヒューズ【GL268・338・368・418仕様】	35080-3453-0	16	ランプ	38240-3147-0
9	デンキュウ	34070-9901-0	17	ランプ	38070-3147-0
	デンキュウ【GL268・338・368・418仕様】	38450-3387-0			

アタッチメント一覧表

分類	品　　番	品　　名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
補助車輪	997422-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL200	●片側にストレーク5枚取付け用 ●8.3－24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 5組／台
	997522-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL220	●片側にストレーク5枚取付け用 ●9.5－22用	P200, P25, P30, P38の何れかを 5組／台
	997622-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL240 GL260K	●片側にストレーク6枚取付け用 ●9.5－24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 6組／台
	997722-1002	ストレーク 取付台アッシ	GL260 GL268 GL300E	●片側にストレーク7枚取付け用 ●11.2－24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組／台
	992122-1001	ストレーク 取付台アッシ	GL280 GL320E	●片側にストレーク7枚取付け用 ●11.2－26用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組／台
	998222-1002	水田車輪 取付台アッシ	GL300 GL368	●片側にストレーク7枚取付け用 ●12.4－26用 ●12.4－28用	G20, G35の何れか 反転ストレーク アッシ 7組／台
	990722-2001	ストレーク 取付台アッシ	GL320	●片側にストレーク7枚取付け用 ●13.6－24用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組／台
	990422-1000	ストレーク 取付台アッシ	GL240J	●片側にストレーク7枚取付け用 ●9.5－26用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組／台
	99062-21002	ストレーク 取付台アッシ	GL280J	●片側にストレーク7枚取付け用 ●11.2－28用	P200, P25, P30, P38の何れかを 7組／台
	997122-5001	折りたたみストレークアッシ	GL368	●12.4－28用	
	998322-3001		GL418	●13.6－26用	
	990362-5001	P200反転 ストレークアッシ	GL200 GL220 GL240 GL260 GL280 GL300E GL320 GL240J GL280J GL260K	シュー幅　20cm ピン式 構成はR, L各1個	上記の水田車輪取付台アッシ
	995762-6902	P25反転 ストレークアッシ		シュー幅　25cm プレート式 構成はR, L各1個	
	995162-7902	P30反転 ストレークアッシ		シュー幅　30cm プレート式 構成はR, L各1個	
	995162-8902	P38反転 ストレークアッシ		シュー幅　38cm プレート式 構成はR, L各1個	
	995563-1001	G20反転 ストレークアッシ	GL300 GL368	シュー幅　20cm 左右7組／台	
	995563-2001	G35反転 ストレークアッシ		シュー幅　35cm 左右7組／台	

分類	品　　番	品　　名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
3点リンク	34030-3910-1	トップリンクアッシ	GL200 GL220 GL240	一般作業機用	
	34660-7110-4		GL260 GL280 GL300E GL320E		
	34070-3910-1		GL280Q GL300 GL320		
	992512-5001	リンクドローバ	GL200 GL220	JIS　1形	
ウエイト	992211-2001	前部ウエイトアッシ	GL200 GL220 GL240 GL260 GL280 GL300 GL320 GL368 GL418	28kg 前車軸フレームの前部に取付け	
	992611-5001	後輪ウエイトアッシ	GL200 GL220 GL240	28kg×6個	
	992611-5111	後輪ウエイト		28kg 992611-5001に必要に応じて追加全12個まで (タイヤ1.0kg/cm²)	
	997711-5001	後輪ウエイトアッシ	GL260 GL268 GL300E	28kg×6個	
	997711-5111	後輪ウエイト		28kg 997711-5001に必要に応じて追加全12個まで (タイヤ1.0kg/cm²)	01173-51680…3コ (ボルト) 04512-50160…3コ (バネ座金)
	998311-5001	後輪ウエイトアッシ	GL280 GL300 GL320E	33kg×6個	
	998311-5111	後輪ウエイト		33kg 998311-5001に必要に応じて追加	
	992811-5002	後輪ウエイトアッシ	GL320 GL338	27.5kg×6個	
	992811-5112	後輪ウエイト		992811-5002に必要に応じて追加	
	994111-5001	後輪ウエイトアッシ	GL240J (9.5-26付) GL280J (11.2-28付)	35kg×6個	
	994111-5113	後輪ウエイト		35kg 994111-5001に必要に応じて追加	
	994111-5001	後輪ウエイトアッシ	GL368 GL418	35kg×6個　12.4－28用 13.6－26用	
	994111-5113	後輪ウエイト		35kg 994111-5001に必要に応じて追加	
	34070-49772	バンパ(15)	GL200 GL220 GL240 GL260 GL268 GL280 GL300 GL320	15kg,20kg,30kg バンパ(鋳物製5kg)を外して装着するバンパ型ウエイトです。	
	34070-49782	バンパ(20)			
	34070-49793	バンパ(30)			34070-49731…2コ (ボルト) 02174-50120…2コ (ナット)

<table>
<tr><th>分類</th><th>品　　番</th><th>品　　名</th><th>適用機種</th><th>用途・仕様</th><th>併用アタッチメント</th></tr>
<tr><td rowspan="10">その他</td><td>99233-87001</td><td>キャノピ(簡易型)</td><td rowspan="9">GL200
GL220
GL240
GL260
GL268
GL280
GL300
GL320
GL338
GL368
GL418</td><td>ホロ製日よけ。</td><td></td></tr>
<tr><td>99233-85000</td><td>キャノピ</td><td>樹脂製日よけ。</td><td></td></tr>
<tr><td>99233-87500</td><td>キャノピアッシ</td><td>折りたたみ簡易。</td><td></td></tr>
<tr><td>990641-4001</td><td>サンバイザアッシ</td><td>上記キャノピに追加装着できます。</td><td></td></tr>
<tr><td>990619-1001</td><td>作業灯アッシ</td><td>12V27W　1個口
キャブ仕様には装着できません。</td><td></td></tr>
<tr><td>34550-75302</td><td>作業灯アッシ</td><td>12V27W　2個口
キャブ仕様用</td><td></td></tr>
<tr><td>963971-5101</td><td>洗車ポンプ</td><td>後部PTO軸に取付け
スーパージョイント付には取付けできません。</td><td></td></tr>
<tr><td>99021-94001</td><td>洗車ダッシュポンプ</td><td>スーパージョイントに装着します。</td><td></td></tr>
<tr><td>992337-5001</td><td>ヒッチアッシ</td><td>けん引作業時に使用</td><td></td></tr>
<tr><td>99263-7500-0</td><td>エンチョウヒッチアッシ</td><td>GL260K</td><td>けん引作業時に使用</td><td></td></tr>
</table>

インプルメント一覧表

＊３点リンク用作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けて下さい。
前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。
＊フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
詳細は購入先にご相談ください。

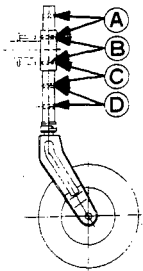
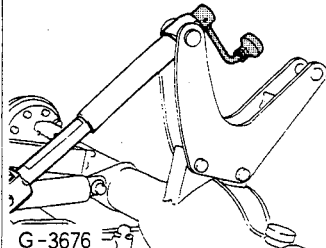
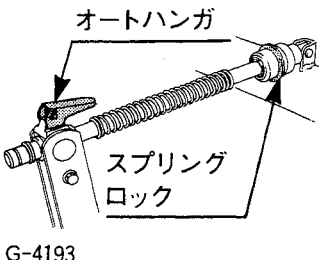
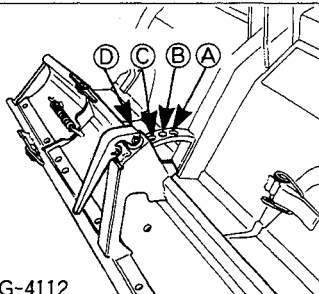
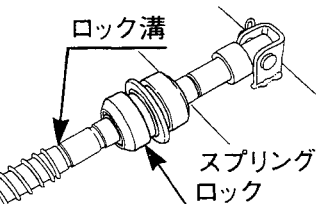
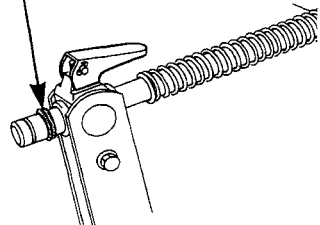
品　番	品　　　名	適　用　形　式															メーカ
		GL200	GL220	GL240	GL260	GL268	GL280	GL300 GL300E	GL320 GL320E	GL338	GL240J	GL280J	GL260K	GL280K	GL368	GL418	
7C704-02010	RL4G	○	○														
7C704-00010	RL4G-B	○	○														
7C704-02020	RL4G-V	○	○														
7C704-00020	RL4G-VB	○	○														
7C704-02620	RL4FG-V	○	○														
7C704-00620	RL4FG-VB	○	○														
7C704-02110	RL4BOG	○	○														
7C704-00110	RL4BOG-B	○	○														
7C704-02120	RL4BOG-V	○	○														
7C704-00120	RL4BOG-VB	○	○														
7C734-02080	RL4G-SC	○	○														
7C734-00080	RL4G-SCB	○	○														
7C734-02050	RL4G-SCV	○	○														
7C734-00050	RL4G-SCVB	○	○														
7C734-02650	RL4FG-SCV	○	○														
7C734-00650	RL4FG-SCVB	○	○														
7C734-02180	RL4BOG-SC	○	○														
7C734-00180	RL4BOG-SCB	○	○														
7C734-02150	RL4BOG-SCV	○	○														
7C734-00150	RL4BOG-SCVB	○	○														
7C705-02010	RL5G	○	○	○	○	○											クボタ
7C705-00010	RL5G-B	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-02020	RL5G-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-00020	RL5G-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-02620	RL5FG-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-00620	RL5FG-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-02110	RL5BOG	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-00110	RL5BOG-B	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-02120	RL5BOG-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C705-00120	RL5BOG-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-02080	RL5G-SC	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-00080	RL5G-SCB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-02050	RL5G-SCV	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-00050	RL5G-SCVB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-02650	RL5FG-SCV	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-00650	RL5FG-SCVB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-02180	RL5BOG-SC	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-00180	RL5BOG-SCB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-02150	RL5BOG-SCV	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C735-00150	RL5BOG-SCVB	○	○	○	○	○					○		○	○			

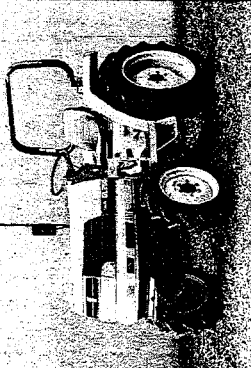
補　足

＊B：後輪付，V：Vカットカバー付，F：福岡向，BO：爪ワンタッチ，SC：マッドレスカバー
SCV：マッドレスカバーVカット付，W：300延長付，W_2：200延長付，R：センタドライブ
RL：サイドドライブ

品番	品名	適用形式															メーカ
		GL200	GL220	GL240	GL260	GL268	GL280	GL300 GL300E	GL320 GL320E	GL338	GL240J	GL280J	GL260K	GL280K	GL368	GL418	
7C706-02010	RL6G			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-00010	RL6G-B			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-02020	RL6G-V			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-00020	RL6G-VB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-02620	RL6FG-V			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-00620	RL6FG-VB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-02110	RL6BOG			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-00110	RL6BOG-B			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-02120	RL6BOG-V			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C706-00120	RL6BOG-VB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-02080	RL6G-SC			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-00080	RL6G-SCB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-02050	RL6G-SCV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-00050	RL6G-SCVB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-02650	RL6FG-SCV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-00650	RL6FG-SCVB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-02180	RL6BOG-SC			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-00180	RL6BOG-SCB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-02150	RL6BOG-SCV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C736-00150	RL6BOG-SCVB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C707-02010	RL7G						○	○	○	○		○					
7C707-00010	RL7G-B						○	○	○	○		○					
7C707-02020	RL7G-V						○	○	○	○		○					
7C707-00020	RL7G-VB						○	○	○	○		○					
7C707-02110	RL7BOG						○	○	○	○		○					
7C707-00110	RL7BOG-B						○	○	○	○		○					
7C707-02120	RL7BOG-V						○	○	○	○		○					
7C707-00120	RL7BOG-VB						○	○	○	○		○					クボタ
7C737-02080	RL7G-SC						○	○	○	○		○					
7C737-00080	RL7G-SCB						○	○	○	○		○					
7C737-02050	RL7G-SCV						○	○	○	○		○					
7C737-00050	RL7G-SCVB						○	○	○	○		○					
7C737-02180	RL7BOG-SC						○	○	○	○		○					
7C737-00180	RL7BOG-SCB						○	○	○	○		○					
7C737-02150	RL7BOG-SCV						○	○	○	○		○					
7C737-00150	RL7BOG-SCVB						○	○	○	○		○					
7C782-02010	R2WG	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C782-00010	R2WG-B	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C782-02020	R2WG-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C782-00020	R2WG-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C783-02010	R3W2G	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C783-00010	R3W2G-B	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C783-02020	R3W2G-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C783-00020	R3W2G-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-02010	R5G	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-00010	R5G-B	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-02020	R5G-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-00020	R5G-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-02014	R5G-W	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-00014	R5G-WB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-02024	R5G-VW	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-00024	R5G-VWB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-02017	R5G-W2	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-00017	R5G-W2B	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-02027	R5G-VW2	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C785-00027	R5G-VW2B	○	○	○	○	○					○		○	○			

品　番	品　　　　　名	適　用　形　式															メーカ
		GL200	GL220	GL240	GL260	GL268	GL280	GL300 GL300E	GL320 GL320E	GL338	GL240J	GL280J	GL260K	GL280K	GL368	GL418	
7C786-02010	R6G				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			クボタ
7C786-00010	R6G-B				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-02020	R6G-V				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-00020	R6G-VB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-02014	R6G-W				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-00014	R6G-WB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-02024	R6G-VW				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-00024	R6G-VWB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-02017	R6G-W2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-00017	R6G-W2B				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-02027	R6G-VW2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C786-00027	R6G-VW2B				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C764-02010	RL4XG	○	○														
7C764-00010	RL4XG-B	○	○														
7C764-02020	RL4XG-V	○	○														
7C764-00020	RL4XG-VB	○	○														
7C765-02010	RL5XG	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C765-00010	RL5XG-B	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C765-02020	RL5XG-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C765-00020	RL5XG-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C765-02620	RL5XFG-V	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C765-00620	RL5XFG-VB	○	○	○	○	○					○		○	○			
7C766-02010	RL6XG			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C766-00010	RL6XG-B			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C766-02020	RL6XG-V			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C766-00020	RL6XG-VB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C766-02620	RL6XFG-V			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C766-00620	RL6XFG-VB			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
7C767-02010	RL7XG						○	○	○	○		○					
7C767-00010	RL7XG-B						○	○	○	○		○					
7C767-02020	RL7XG-V						○	○	○	○		○					
7C767-00020	RL7XG-VB						○	○	○	○		○					
7E707-02010	RM7G														○	○	
7E701-00010	RM7GE														○	○	
7E708-02010	RM8G														○	○	

品　番	品　　　名	適	用	形	式												メーカ
		GL200	GL220	GL240	GL260 GL300E	GL268	GL280 GL320E	GL300	GL320	GL338	GL240J	GL280J	GL260K	GL280K	GL368	GL418	
70888-07000	U255K-6RF補助ユニット(スーパージョイントなし)												○	○			
7C700-08000	U26KQ-6RF補助ユニット(スーパージョイント付)												○	○			
70888-01000	UL195-6RF補助ユニット(スーパージョイントなし)	○	○	○													
7C700-02000	U205Q-6RF補助ユニット(スーパージョイント付)	○	○	○													
70888-03000	U255-6RF補助ユニット(スーパージョイントなし)				○	○	○				○						
7C700-04000	U265Q-6RF補助ユニット(スーパージョイント付)				○	○	○				○						
70888-05000	U295-6RF補助ユニット(スーパージョイントなし)							○	○	○		○					
7C700-06000	U305Q-6RF補助ユニット(スーパージョイント付)							○	○	○		○					
7E700-01000	U360-6RF補助ユニット(スーパージョイントなし)														○	○	
7E700-02000	U360Q-6RF補助ユニット(スーパージョイント付)														○	○	
75831-08220	TLH240グレイタスローダ	○	○	○													
☆75831-08230	TLH240-SLグレイタスローダ	○	○	○													
併用アタッチメント																	
96261-15001	後輪ウェイトアッシ(28kg×6コ)	○	○	○									○	○			
99771-15001	後輪ウェイトアッシ(28kg×6コ)				○	○											
99281-15002	後輪ウェイトアッシ(27.5kg×6コ)								○	○							
998311-5001	後輪ウェイトアッシ(33kg×6コ)						○	○									
994111-5001	後輪ウェイトアッシ(35kg×6コ)														○	○	
75820-08220	XLH27ミニグレイタスローダ	○	○	○	○	○	○										
75832-08730	TLH320グレイタスローダ				○	○	○	○	○	○		○					
☆75832-08740	TLH320-SLグレイタスローダ				○	○	○	○	○	○		○					
☆75832-08750	TLH320-PSLグレイタスローダ				○	○	○	○	○	○		○					
75832-08820	TLH418グレイタスローダ														○	○	
75832-08830	TLH418SLグレイタスローダ														○	○	クボタ
75832-08840	TLH418-PSLグレイタスローダ														○	○	
併用アタッチメント																	
99281-15002	後輪ウェイトアッシ(27.5kg×6コ)								○	○							
74242-18070	SD403Dスーパディスク	○	○	○	○	○					○						
74251-18010	SD423Dスーパディスク	○	○	○	○	○					○						
74243-18060	SD603Dスーパディスク				○	○	○	○	○	○		○					
74252-18010	SD623Dスーパディスク	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
71982-00000	RT301K溝掘機	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
71983-00000	RT451K溝掘機	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
74311-48000	全面マルチ土壌消毒機	○	○	○	○												
71608-00000	HL300WKウェイトキット(20kg×6枚)フロント用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
71065-00000	GL-32油圧取出しキット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
71066-00000	GLQ油圧取出しキット(キャブ用)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
78485-00000	RT-2D２軸マルチロータリ	○	○	○	○	○											
78475-00000	RT-11(M_1)小うね(ロールなし)マルチロータリ	○	○	○													
78476-00000	RT-11(M_2)小うね(ロール３本)マルチロータリ	○	○	○													
78477-00000	RT-11(M_3)高うねマルチロータリ	○	○	○													
78478-00000	RT-11(M_4)平高うねマルチロータリ	○	○	○													
78479-00000	RT-11(M_5)小うね２うねマルチロータリ	○	○	○													
78480-00000	RT-11(GL)取付けキット	○	○	○													
78481-00000	RT-11(M_6)高うねマルチロータリ	○	○	○													

補　足

☆印……キャブ付きトラクタには，SL，PSL仕様のグレイタスローダを装着してください。

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		操作方法	操作調整箇所		
			オート耕深調節ダイヤル オート切換えスイッチ F-7522		F-7515
			オート耕深調節ダイヤル	オート切換えスイッチ	油圧レバー
浅起し（5～8㎝）		オート【MA仕様】			「最下位置」
		ポジションコントロール	—		
一般耕うん（8～15㎝）		オート【MA仕様】			
		ポジションコントロール	—		
深起し（15㎝以上）		オート【MA仕様】			
		ポジションコントロール	—		
代かき（10～12㎝）	一般ほ場	オート【MA仕様】			
	湿田ほ場	オート【MA仕様】			
	一般湿田	ポジションコントロール	—		
畝立て		Eオート ポジションコントロール	—		

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

<table>
<tr><th colspan="4">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr><td>Ⓐ
Ⓑ
Ⓒ
Ⓓ
G-3651</td><td>G-3676</td><td>オートハンガ
スプリングロック
G-4193</td><td>Ⓓ Ⓒ Ⓑ Ⓐ
G-4112</td></tr>
<tr><td>後２輪上下調節</td><td>後２輪ハンドル</td><td>スプリングロック,オートハンガ</td><td>フラップカバー</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="9">●スプリングロック
接地圧条件に合せて
セット
ロック溝
スプリング
ロック
G-4192
●マッドレスロータリ使用時
●ロングカット爪使用時
サークリップ
(下から2段目にセット)
G-4193</td><td rowspan="2">Ⓑ又はⓒの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓐ又はⒷの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="2">Ⓑの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓑの位置
(必要に応じて
Ⓑ又はⓒの位置)</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="2">●荒起し
ⓒの位置
●細土耕うん
Ⓐ又はⒷの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓓの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後２輪を
外します</td><td rowspan="2">――</td><td>ⓒ又はⒹの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓓの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓐの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td><td>ⓒ又はⒹの位置</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td><td>●カバーを上げオートハンガでセット</td><td>フラップカバー
を外します</td></tr>
</table>

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	93033	型式名	クボタGL260	平[illegible]日
		依頼者名	株式会社　ク　ボ　タ	生物系特定産業技術
		住　所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	研[illegible]構

■４輪駆動
■小型特殊自動車
■機関呼称出力：19.1kW {26PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正４段　逆１段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF27（合格番号：93044）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ
■全長：3.05m（バンパ〜下部リンク後端）
■全幅：1.35m（前輪最外側）
試験時の前輪輪距1.08m
試験時の後輪輪距1.05m
■全高：1.95m（安全フレーム）
■質量：1168kg（付加重錘なし）
前輪551kg　後輪617kg
■軸距：1.65m
■輪距：前輪1.08m（固定）
後輪1.05，1.07，1.15，1.17，1.25，1.35m（６段階）
■タイヤ：前輪７-16-４PR
後輪11.2-24-４PR
■PTO軸高さ：0.54m
■PTO軸端〜下部リンク後端：0.63m

2．機　関
■種類：水冷４サイクル３気筒ディーゼル
■呼称出力：19.1kW {26PS}／2600rpm
■総行程容積：1.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置
■主クラッチ形式：乾式単板
■主変速：４段
■副変速：２段
■クリープ変速：２段
■前進：16段（0.2〜13.7km／h）
■後進：16段（0.2〜12.3km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．ＰＴＯ
■クラッチ形式：普通型
■規　格：６スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転568，803，985，1304rpm
逆転803rpm

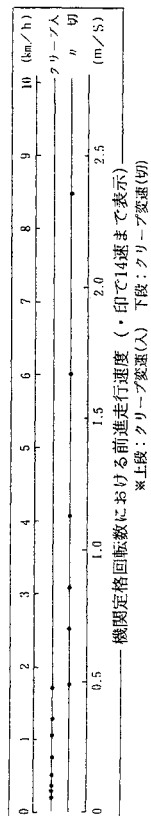
5．けん引装置
■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF１／４，１個
■作業機装着装置：３点リンク１形

7．かじ取装置
■形式：油圧式（インテグラル式）

8．装着安全フレーム
■型式名：クボタGSF27
（合格番号：93044）

0　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10（km／h）
クリープ入
〃　切
0　0.5　1.0　1.5　2.0　2.5（m／S）

機関定格回転数における前進走行速度（・印で14速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

1．ＰＴＯ性能
■トルクバックアップ比：1.29
■弾　性　値：2.15
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
17.9kW {24.3PS}	282g／kW・h {207g／PSh}	563rpm	4%

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	9.50kN {969kgf}	5.85kW {7.95PS}	2.22km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	7.05kN {719kgf}	15.2kW {20.7PS}	7.78km／h (14速)
最大けん引出力	5.63kN {574kgf}	15.3kW {20.8PS}	9.78km／h (15速)

3．作業機昇降装置性能
■リリーフ弁設定圧力：16.3MPa {166kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	21.1 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.14kW {6.99PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	21.1 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.14kW {6.99PS}

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.13kN {1135kgf}
フレーム上	9.17kN {935kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：87dB(A)

5．静的横転倒角：37°

換算機関クランク軸トルク
最大出力時 66.2N・m 2580rpm
最大トルク時 85.4N・m 1550rpm
PTO出力
燃料消費量
PTO(540rpm)
燃料消費率
無負荷時機関回転数 2733rpm
PTO出力 kW
燃料消費率 g／kW・h
換算機関クランク軸トルク N・m
燃料消費量 l／h
機関回転数 ×100rpm

※ 調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.13m

7．安全装備
可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他
旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を０〜100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成５年８月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ｉ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	93034	型式名	クボタGL280
		依頼者名	株式会社 クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

■4輪駆動
■小型特殊自動車
■機関呼称出力：20.6kW {28PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF280（合格番号：93012）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ
■全長：3.05m（バンパ〜下部リンク後端）
■全幅：1.42m（後輪最外側）
　試験時の前輪輪距1.13m
　試験時の後輪輪距1.13m
■全高：2.00m（安全フレーム）
■質量：1208kg（付加重錘なし）
　前輪561kg　後輪647kg
■軸距：1.65m
■輪距：前輪1.13m（固定）
　後輪1.13，1.15，1.25，1.32，1.42（5段階）
■タイヤ：前輪8-16-4PR
　後輪11.2-26-4PR
■PTO軸高さ：0.58m
■PTO軸端〜下部リンク後端：0.63m

2．機関
■種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
■呼称出力：20.6kW {28PS}／2600rpm
■総行程容積：1.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置
■主クラッチ形式：乾式単板
■主変速：4段
■副変速：2段
■クリープ変速：2段
■前進：16段（0.2〜13.9km／h）
■後進：16段（0.2〜12.5km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

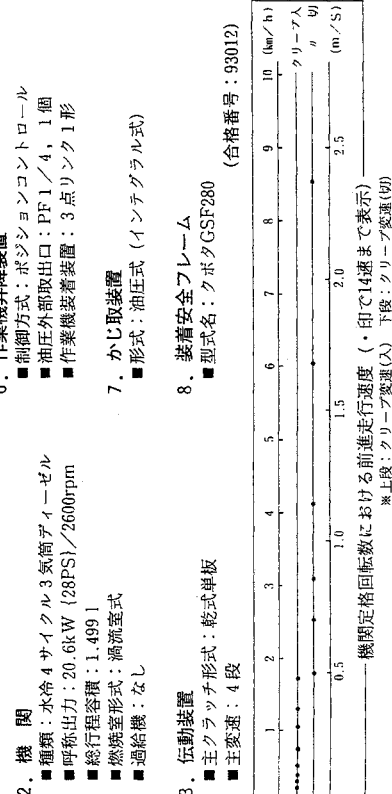
4．PTO
■クラッチ形式：普通型
■規格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
　正転544，770，944，1250rpm
　逆転770rpm

5．けん引装置
■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置
■形式：油圧式（インテグラル式）

8．装着安全フレーム
■型式名：クボタGSF280（合格番号：93012）

機関定格回転数における前進走行速度（・印で14速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検査成績

1．PTO性能
■トルクバックアップ比：1.24
■弾性値：2.13
■最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
19.7kW {26.8PS}	286g／kW・h {210g／PSh}	540rpm	6％

2．けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	8.92kN {910kgf}	5.67kW {7.71PS}	2.29km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	7.96kN {812kgf}	17.1kW {23.2PS}	7.72km／h (14速)
最大けん引出力	6.47kN {660kgf}	17.5kW {23.8PS}	9.76km／h (15速)

3．作業機昇降装置性能
■リリーフ弁設定圧力：16.3MPa {166kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

条件	流量	圧力	出力
最大出力	21.1 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.14kW {6.99PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	21.1 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.14kW {6.99PS}

■揚力：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	11.13kN {1135kgf}
フレーム上	9.17kN { 935kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：87dB(A)

5．静的横転倒角：38°

※ 調速レバー位置
　実線：全開位置
　標準PTO回転数で最大出力の得られる位置は全開位置と同じ

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
　ブレーキ使用時：2.15m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

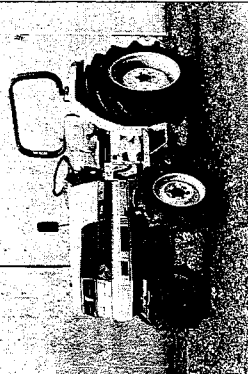
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0〜100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第1類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	93035	型式名	クボタGL300	生物系特定産業技術研究推進機構
		依頼者名	株式会社　クボタ	
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	

■４輪駆動
■小型特殊自動車
■機関呼称出力：22.1kW {30PS}／2700rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正４段　逆１段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF32（合格番号：93045）

Ｉ　主要諸元・構造

１．機体の大きさ
■全長：3.18m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.42m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.13m
試験時の後輪輪距1.09m
■全高：1.98m（安全フレーム）
■質量：1259kg（付加重錘なし）
前輪576kg　後輪683kg
■軸距：1.75m
■輪距：前輪1.13m（固定）
後輪1.09，1.19，1.26，1.36，1.38，1.48m（６段階）
■タイヤ：前輪８-16-４PR
後輪12.4-26-４PR
■PTO軸高さ：0.55m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.63m

２．機　関
■種類：水冷４サイクル３気筒ディーゼル
■呼称出力：22.1kW {30PS}／2700rpm
■総行程容積：1.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

３．伝動装置
■主クラッチ形式：乾式単板
■主変速：４段
■副変速：２段
■クリープ変速：２段
■前進：16段（0.2～13.4km／h）
■後進：16段（0.2～12.0km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

４．ＰＴＯ
■クラッチ形式：普通型
■規　格：６スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転565，800，980，1298rpm
逆転800rpm

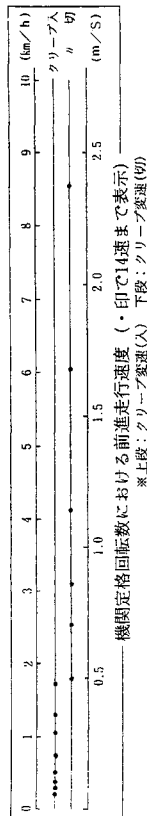
５．けん引装置
■形式：固定ヒッチ

６．作業機昇降装置
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF１／４，１個
■作業機装着装置：３点リンク１形

７．かじ取装置
■形式：油圧式（インテグラル式）

８．装着安全フレーム
■型式名：クボタGSF32
（合格番号：93045）

(km／h)：0　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10
(m／S)：0.5　1.0　1.5　2.0　2.5
クリープ入
〃　切

機関定格回転数における前進走行速度（・印で14速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

１．ＰＴＯ性能
■トルクバックアップ比：1.27
■弾　性　値：2.15
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
20.6kW {28.0PS}	286g／kW・h {210g／PSh}	565rpm	９％

２．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	9.62kN {981kgf}	5.86kW {7.97PS}	2.19km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	8.24kN {840kgf}	17.4kW {23.7PS}	7.62km／h (14速)
最大けん引出力	6.72kN {685kgf}	18.0kW {24.5PS}	9.63km／h (15速)

３．作業機昇降装置性能
■リリーフ弁設定圧力：16.3MPa {166kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	22.3 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.43kW {7.38PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	22.3 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.43kW {7.38PS}

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.18kN {1140kgf}
フレーム上	8.88kN { 905kgf}

４．騒音（運転者の耳もと）：86dB(A)

５．静的横転倒角：37°

換算機関クランク軸トルク
最大出力時 72.8N・m 2700rpm
最大トルク時 92.3N・m 1600rpm
PTO出力
燃料消費量
燃料消費率
PTO(540rpm)
無負荷時機関回転数 2845rpm
PTO出力 kW
燃料消費率 g／kW・h
換算機関クランク軸トルク N・m
燃料消費量 l／h
機関回転数　×100rpm

※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

６．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.24m

７．安全装備
可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

８．その他
旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

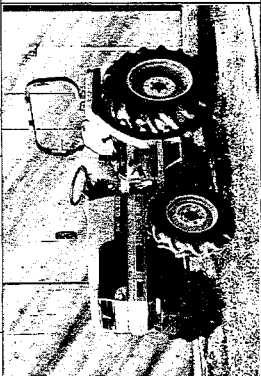
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を０～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成５年８月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ｉ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	93036	型式名	クボタGL320	生物系特定産業技術研究推進機構
		依頼者名	株式会社 クボタ	
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	

- ■4輪駆動
- ■小型特殊自動車
- ■機関呼称出力：23.5kW {32PS}／2800rpm
- ■走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
- ■クリープ変速付き
- ■PTO変速段数：正4段　逆1段
- ■パワーステアリング付き
- ■旋回時前輪増速機構付き
- ■水平・耕深制御装置付き
- ■安全キャブ付きもあり
- ■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF32（合格番号：93045）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ
- ■全長：3.18m（バンパ～下部リンク後端）
- ■全幅：1.46m（後輪最外側）
  試験時の前輪輪距1.13m
  試験時の後輪輪距1.11m
- ■全高：1.98m（安全フレーム）
- ■質量：1249kg（付加重錘なし）
  前輪573kg　後輪676kg
- ■軸距：1.75m
- ■輪距：前輪1.13m（固定）
  後輪1.11，1.21，1.24，1.33，1.48，1.58m（6段階）
- ■タイヤ：前輪8-16-4PR
  後輪13.6-24-4PR
- ■PTO軸高さ：0.55m
- ■PTO軸端～下部リンク後端：0.63m

2．機　関
- ■種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
- ■呼称出力：23.5kW {32PS}／2800rpm
- ■総行程容積：1.499 l
- ■燃焼室形式：渦流室式
- ■過給機：なし

3．伝動装置
- ■主クラッチ形式：乾式単板
- ■主変速：4段
- ■副変速：2段
- ■クリープ変速：2段
- ■前進：16段（0.2～13.9km／h）
- ■後進：16段（0.2～12.5km／h）
- ■デフロック装置：あり（後輪）

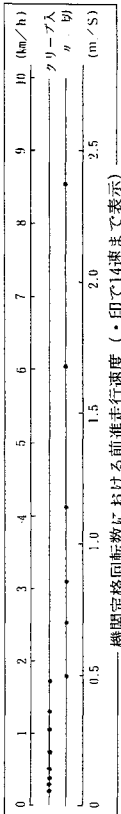
4．ＰＴＯ
- ■クラッチ形式：普通型
- ■規　格：6スプライン軸径35mm
- ■回転数（機関定格回転数のとき）：
  正転586，829，1016，1346rpm
  逆転829rpm

5．けん引装置
- ■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
- ■制御方式：ポジションコントロール
- ■油圧外部取出口：PF1／4，1個
- ■作業機装着装置：3点リンク1形

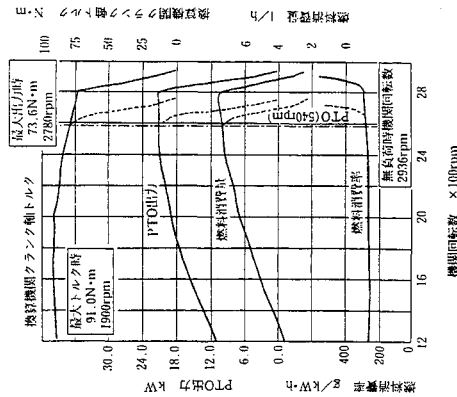
7．かじ取装置
- ■形式：油圧式（インテグラル式）

8．装着安全フレーム
- ■型式名：クボタGSF32
  （合格番号：93045）

0　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10（km／h）
クリープ入
〃　切
0　0.5　1.0　1.5　2.0　2.5（m／S）

機関定格回転数における前進走行速度（・印で14速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

1．ＰＴＯ性能
- ■トルクバックアップ比：1.24
- ■弾　性　値：1.81
- ■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
21.5kW {29.2PS}	288g／kW・h {212g／PSh}	582rpm	7％

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	11.15kN {1137kgf}	6.94kW {9.44PS}	2.24km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	8.54kN {871kgf}	18.7kW {25.4PS}	7.87km／h (14速)
最大けん引出力	6.96kN {710kgf}	19.1kW {26.0PS}	9.87km／h (15速)

3．作業機昇降装置性能
- ■リリーフ弁設定圧力：16.3MPa {166kgf／cm²}
- ■油圧ポンプ性能：

条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	23.9 l／min	14.2MPa {145kgf/cm²}	5.66kW {7.70PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	21.4 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.21kW {7.09PS}

- ■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.18kN {1140kgf}
フレーム上	8.88kN {905kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：86dB(A)

5．静的横転倒角：38°

※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.27m

7．安全装備
可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他
旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

> トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
> 弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
> 排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
> 最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
> 揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
> 騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第I類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	93037	型式名	クボタGL268	平成6年1月6日
		依頼者名	株式会社　クボタ	生物系特定産業技術
		住　所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	研究推進機構

- ■４輪駆動
- ■大型特殊自動車
- ■機関呼称出力：19.1kW {26PS}／2600rpm
- ■走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
- ■クリープ変速付き
- ■PTO変速段数：正４段　逆１段
- ■パワーステアリング付き
- ■旋回時前輪増速機構付き
- ■水平・耕深制御装置付き
- ■安全キャブ付きもあり
- ■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF27（合格番号：93044）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ
- ■全長：3.05m（バンパ～下部リンク後端）
- ■全幅：1.35m（前輪最外側）
  - 試験時の前輪輪距1.08m
  - 試験時の後輪輪距1.05m
- ■全高：1.95m（安全フレーム）
- ■質量：1193kg（付加重錘なし）
  - 前輪563kg　後輪630kg
- ■軸距：1.65m
- ■輪距：前輪1.08m（固定）
  - 後輪1.05，1.15，1.07，1.17，1.25，1.35m（６段階）
- ■タイヤ：前輪７-16-４PR
  - 後輪11.2-24-４PR
- ■PTO軸高さ：0.54m
- ■PTO軸端～下部リンク後端：0.63m

2．機　関
- ■種類：水冷４サイクル３気筒ディーゼル
- ■呼称出力：19.1kW {26PS}／2600rpm
- ■総行程容積：1.499 l
- ■燃焼室形式：渦流室式
- ■過給機：なし

3．伝動装置
- ■主クラッチ形式：乾式単板
- ■主変速：８段
- ■副変速：２段
- ■前進：16段（0.3～22.0km／h）
- ■後進：16段（0.3～20.1km／h）
- ■デフロック装置：あり（後輪）

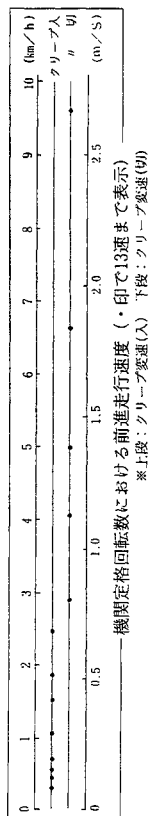
4．ＰＴＯ
- ■クラッチ形式：普通型
- ■規　格：６スプライン軸径35mm
- ■回転数（機関定格回転数のとき）：
  - 正転568，803，985，1304rpm
  - 逆転803rpm

5．けん引装置
- ■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
- ■制御方式：ポジションコントロール
- ■油圧外部取出口：PF１／４，１個
- ■作業機装着装置：３点リンク１形

7．かじ取装置
- ■形式：油圧式（インテグラル式）

8．装着安全フレーム
- ■型式名：クボタGSF27（合格番号：93044）

機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

1．ＰＴＯ性能
- ■トルクバックアップ比：1.30
- ■弾　性　値：2.25
- ■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
18.1kW {24.6PS}	300g／kW・h {221g／PSh}	568rpm	0％

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	8.44kN {861kgf}	8.48kW {11.5PS}	3.61km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	8.44kN {861kgf}	13.5kW {18.4PS}	5.78km／h (12速)
最大けん引出力	6.13kN {625kgf}	14.4kW {19.6PS}	8.46km／h (13速)

3．作業機昇降装置性能
- ■リリーフ弁設定圧力：16.3MPa {166kgf／cm²}
- ■油圧ポンプ性能：

条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	21.1 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.14kW {6.99PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	21.1 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.14kW {6.99PS}

- ■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.13kN {1135kgf}
フレーム上	9.17kN { 935kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：85dB(A)

5．静的横転倒角：38°

換算機関クランク軸トルク　N·m　100　75　50　25　0
最大出力時 66.4N·m 2600rpm
最大トルク時 86.0N·m 1500rpm
PTO出力 kW　30.0　24.0　18.0　12.0　6.0　0.0
PTO出力
燃料消費量
燃料消費量 l／h　6　4　2　0
燃料消費率 g／kW·h　500　250　0
燃料消費率
PTO(540rpm)
無負荷時機関回転数 2742rpm
12　16　20　24　28
機関回転数　×100rpm

※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.10m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

> トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
> 弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
> 排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を０～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
> 最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
> 揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
> 騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成５年８月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ｉ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	93038	型式名	クボタGL338
		依頼者名	株式会社　ク　ボ　タ
		住　所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

- ■４輪駆動
- ■大型特殊自動車
- ■機関呼称出力：24.3kW ｛33PS｝／2700rpm
- ■走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
- ■クリープ変速付き
- ■PTO変速段数：正４段　逆１段
- ■パワーステアリング付き
- ■旋回時前輪増速機構付き
- ■水平・耕深制御装置付き
- ■安全キャブ付きもあり
- ■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF32（合格番号：93045）

I　主要諸元・構造

１．機体の大きさ
- ■全長：3.18m（バンパ～下部リンク後端）
- ■全幅：1.46m（後輪最外側）
  試験時の前輪輪距1.13m
  試験時の後輪輪距1.11m
- ■全高：1.98m（安全フレーム）
- ■質量：1274kg（付加重錘なし）
  前輪587kg　後輪687kg
- ■軸距：1.75m
- ■輪距：前輪1.13m（固定）
  後輪1.11，1.21，1.24，1.33，1.48，1.58m（６段階）
- ■タイヤ：前輪８-16-４PR
  後輪13.6-24-４PR
- ■PTO軸高さ：0.55m
- ■PTO軸端～下部リンク後端：0.63m

２．機　関
- ■種類：水冷４サイクル３気筒ディーゼル
- ■呼称出力：24.3kW ｛33PS｝／2700rpm
- ■総行程容積：1.647 l
- ■燃焼室形式：渦流室式
- ■過給機：なし

３．伝動装置
- ■主クラッチ形式：乾式単板
- ■主変速：８段
- ■副変速：２段
- ■前進：16段（0.3～21.4km／h）
- ■後進：16段（0.3～19.6km／h）
- ■デフロック装置：あり（後輪）

４．ＰＴＯ
- ■クラッチ形式：普通型
- ■規　格：６スプライン軸径35mm
- ■回転数（機関定格回転数のとき）：
  正転565，800，980，1298rpm
  逆転800rpm

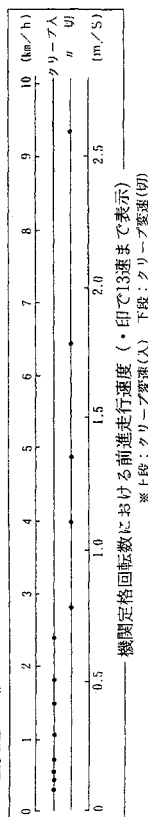
５．けん引装置
- ■形式：固定ヒッチ

６．作業機昇降装置
- ■制御方式：ポジションコントロール
- ■油圧外部取出口：PF１／４，１個
- ■作業機装着装置：３点リンク１形

７．かじ取装置
- ■形式：油圧式（インテグラル式）

８．装着安全フレーム
- ■型式名：クボタGSF32（合格番号：93045）

0　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10（km／h）
クリープ入
〃　切
0　0.5　1.0　1.5　2.0　2.5（m／S）

機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）
※上段：クリープ変速（入）　下段：クリープ変速（切）

II　検　査　成　績

１．ＰＴＯ性能
- ■トルクバックアップ比：1.30
- ■弾　性　値：2.20
- ■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
20.8kW ｛28.3PS｝	299g／kW・h ｛220g／PSh｝	565rpm	1％

２．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	10.48kN ｛1069kgf｝	10.2kW ｛13.9PS｝	3.50km／h（10速）
7.5km／hに最も近い速度段	10.01kN ｛1021kgf｝	15.7kW ｛21.3PS｝	5.65km／h（12速）
最大けん引出力	6.91kN ｛705kgf｝	17.0kW ｛23.1PS｝	8.83km／h（13速）

３．作業機昇降装置性能
- ■リリーフ弁設定圧力：16.3MPa ｛166kgf／cm²｝
- ■油圧ポンプ性能：

条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	22.3 l／min	14.6MPa ｛149kgf/cm²｝	5.43kW ｛7.38PS｝
リリーフ弁設定圧力の90％	22.3 l／min	14.6MPa ｛149kgf/cm²｝	5.43kW ｛7.38PS｝

- ■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.18kN ｛1140kgf｝
フレーム上	8.88kN ｛905kgf｝

４．騒音（運転者の耳もと）：85dB(A)

５．静的横転倒角：37°

※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

６．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.25m

７．安全装備
可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

８．その他
旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を０～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成５年８月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ｉ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	型式名	クボタGL368
94062	依頼者名	株式会社 クボタ
	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：26.5kW {36PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正3段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF418（合格番号：94068）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ
■全長：3.33m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.50m（後輪最外側）
　試験時の前輪輪距1.13m
　試験時の後輪輪距1.18m
■全高：2.18m（安全フレーム）
■質量：1431kg（付加重錘なし）
　前輪669kg　後輪762kg
■軸距：1.83m
■輪距：前輪1.13m（固定）
　後輪1.18，1.20，1.30，1.38，1.47m（5段階）
■タイヤ：前輪8-16-4PR
　後輪12.4-28-4PR
■PTO軸高さ：0.58m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.64m

2．機　関
■種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
■呼称出力：26.5kW {36PS}／2600rpm
■総行程容積：1.857 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置
■主クラッチ形式：乾式単板
■主変速：4段
■副変速：2段
■クリープ変速：2段
■前進：16段（0.2～23.5km／h）
■後進：16段（0.2～21.5km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO
■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
　正転544，806，1252rpm
　逆転544rpm

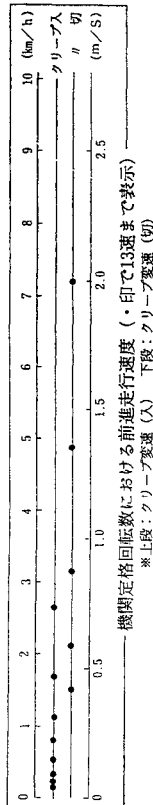
5．けん引装置
■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置
■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム
■型式名：クボタGSF418
（合格番号：94068）

0　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10（km／h）
クリープ入
〃　切
0　0.5　1.0　1.5　2.0　2.5（m／S）

機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）
※上段：クリープ変速（入）　下段：クリープ変速（切）

II　検査成績

1　PTO性能
■トルクバックアップ比：1.27
■弾　性　値：2.06
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
23.6kW {32.1PS}	288g／kW・h {212g／PSh}	540rpm	0%

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	11.56kN {1179kgf}	4.28kW {5.82PS}	1.33km／h（9速）
7.5km／hに最も近い速度段	10.76kN {1097kgf}	19.0kW {25.8PS}	6.35km／h（13速）
最大けん引出力	7.50kN {765kgf}	20.0kW {27.2PS}	9.58km／h（14速）

3．作業機昇降装置性能
■リリーフ弁設定圧力：16.2MPa {165kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	23.9 l／min	14.2MPa {145kgf/cm²}	5.66kW {7.70PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	21.5 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.24kW {7.12PS}

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.47kN {1170kgf}
フレーム上	8.48kN {865kgf}

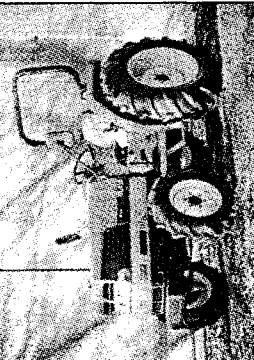
4．騒音（運転者の耳もと）：89dB(A)

5．静的横転倒角：39°

※ 調速レバー位置
実線：全開位置
標準PTO回転数で最大出力の得られる位置は全開位置と同じ

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
　ブレーキ使用時：2.34m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	型式名	クボタGL418
94063	依頼者名	株式会社 クボタ
	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：30.9kW {42PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正3段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF418
（合格番号：94068）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ
■全長：3.33m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.49m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.13m
試験時の後輪輪距1.16m
■全高：2.18m（安全フレーム）
■質量：1430kg（付加重錘なし）
前輪669kg　後輪761kg
■軸距：1.83m
■輪距：前輪1.13m（固定）
後輪1.16，1.23，1.33，1.35，1.45m
（5段階）
■タイヤ：前輪8-16-4PR
後輪13.6-26-4PR
■PTO軸高さ：0.58m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.64m

2．機　関
■種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
■呼称出力：30.9kW {42PS}／2600rpm
■総行程容積：2.197 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置
■主クラッチ形式：乾式単板
■主変速：4段
■副変速：2段
■クリープ変速：2段
■前進：16段（0.2～23.5km／h）
■後進：16段（0.2～21.5km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO
■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転544，806，1252rpm
逆転544rpm

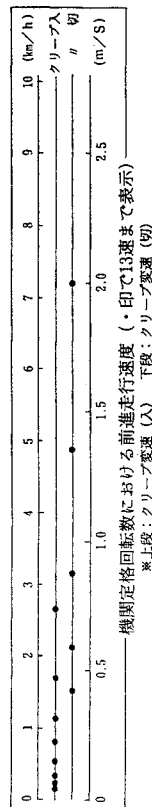
5．けん引装置
■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置
■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム
■型式名：クボタGSF418
（合格番号：94068）

(km／h) 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
クリープ入
〃 切
(m／S) 0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5

機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）
※上段：クリープ変速（入）　下段：クリープ変速（切）

II　検　査　成　績

1．PTO性能
■トルクバックアップ比：1.25
■弾　性　値：2.00
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
28.2kW {38.3PS}	287g／kW・h {211g／PSh}	535rpm	2%

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	12.73kN {1298kgf}	4.73kW {6.43PS}	1.34km／h （9速）
7.5km／hに最も近い速度段	12.50kN {1275kgf}	21.3kW {29.0PS}	6.14km／h （13速）
最大けん引出力	9.27kN {945kgf}	23.6kW {32.1PS}	9.14km／h （14速）

3．作業機昇降装置性能
■リリーフ弁設定圧力：16.2MPa {165kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	23.9 l／min	14.2MPa {145kgf/cm²}	5.66kW {7.70PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	21.5 l／min	14.6MPa {149kgf/cm²}	5.24kW {7.12PS}

■揚力：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.47kN {1170kgf}
フレーム上	8.48kN { 865kgf}

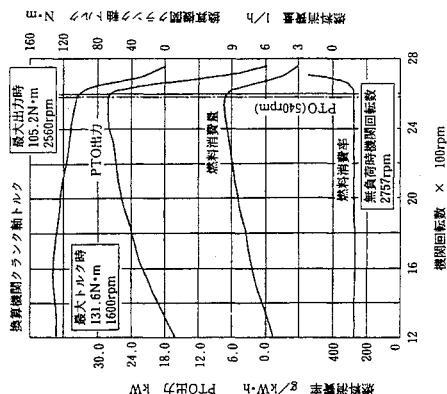
4．騒音（運転者の耳もと）：89dB(A)

5．静的横転倒角：39°

※　調速レバー位置
実線：全開位置
標準PTO回転数で最大出力の得られる位置は全開位置と同じ

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.37m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

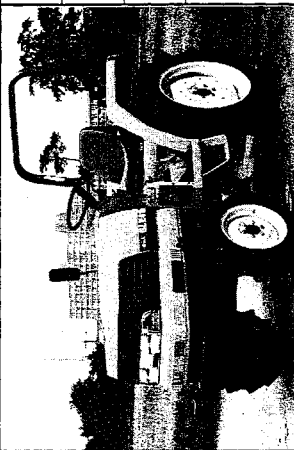
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成5年8月3日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSF23

合格番号：９３０１０

種　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名

クボタ GL240　　クボタ GL－23　　クボタ GL220　　クボタ GL－21
クボタ GL200　　クボタ GL－19

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型　式　名		:	クボタ GL240	クボタ GL－19
■種　類		:	４輪駆動	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	:	1099	1080
■軸　距	mm	:	1550	1550
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	:	17.7{24}/2500	14.0{19}/2500

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介してブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ	:	87.5	cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ	:	132.0	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	:	93.5	cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	:	－	cm
■戸口の幅　（上部）	:	－	cm
（中部）	:	－	cm
（下部）	:	－	cm
■戸口の高さ　（フートプレートから）	:	－	cm
■最低位ステップの高さ	:	40.0	cm
■フレーム装着時のトラクターの全高　（屋根部材上面まで）	:	198.5	cm
■フレームの全幅	:	108.0	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	:	33.0	cm

※1．クボタ GL240（タイヤサイズ：前輪 6-14　後輪 9.5-24）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■主　フ　レ　ー　ム：STKR 400，SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45C，SS 400

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

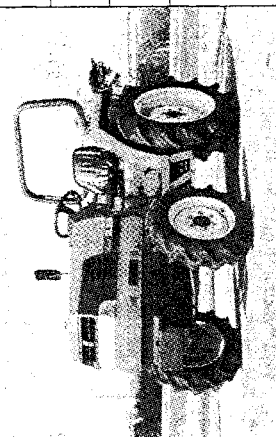
1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側に対して実施。
■基　準　質　量：1120 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　1.80 kJ {184 kgf･m}
　　　　　　　　　　　側部負荷　2.67 kJ {273 kgf･m}
■圧　壊　力：16.48 kN {1680 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後　部（前方へ）：右側　14.0 cm　　左側　11.5 cm
■側　部（左側方へ）：16.0 cm
■上　部（下方へ）：右側　－2.5 cm　　左側　4.5 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：11.0 cm

2．騒　音

■ 82 dBA〔クボタ GL－23〕　　82 dBA〔クボタ GL－19〕
※1．7.5km/hに近い速度段で，無負荷走行時のフレーム内騒音，運転者の耳もと
■ 85 dBA〔クボタ GL240〕　　84.5 dBA〔クボタ GL200〕
※2．7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付　記

本フレームは，既合格機（合格番号 90015）であり，装着トラクター３型式（クボタ GL240，クボタ GL220，クボタ GL200）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：**クボタ GSF27**

合格番号：９４０８２

種　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型式名

クボタ ＧＬ300Ｅ　　クボタ ＧＬ－27　　クボタ ＧＬ－26　　クボタ ＧＬ260
クボタ ＧＬ268　　クボタ ＧＬ－25

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

	単位		
■型式名		クボタ ＧＬ300Ｅ	クボタ ＧＬ－25
■種類		４輪駆動	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	1161	1175
■軸距	mm	1645	1645
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	22.1{30}/2700	18.4{25}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法
　供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介してブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
　なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
　シートベルト（２点式）

3．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		83.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		128.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		92.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		－ cm
■戸口の幅	（上部）	－ cm
	（中部）	－ cm
	（下部）	－ cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	－ cm
■最低位ステップの高さ		40.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	195.0 cm
■フレームの全幅		108.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		33.0 cm

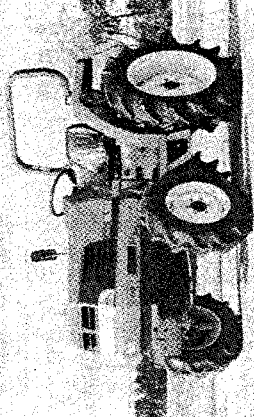
※1．クボタ ＧＬ300Ｅ（タイヤサイズ：前輪 7-16　後輪 11.2-24）に装着時。
　2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，Ｎ９４８５０
　3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
　■主フレーム：STKR 400，SS 400
　■装着ブラケット：SS 400
　■組立・装着ボルト：S40～45C，SS 400

Ⅲ　検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側に対して実施。
　■基準質量：1235 kg
　■所要吸収エネルギー：後部負荷　1.99 kJ {203 kgf・m}
　　　　　　　　　　　　側部負荷　2.83 kJ {289 kgf・m}
　■圧壊力：18.17 kN {1853 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
　■後部（前方へ）：右側　15.0 cm　　左側　9.0 cm
　■側部（左側方へ）：16.5 cm
　■上部（下方へ）：右側　－2.0 cm　　左側　5.0 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：10.0 cm

2．騒音※
　■　86 dBA〔クボタ ＧＬ300Ｅ〕　　85 dBA〔クボタ ＧＬ－25〕
　※　7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付記

　本フレームは，既合格機（合格番号 93044）であり，装着トラクター１型式（クボタ ＧＬ300Ｅ）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
　強度試験，分解調査

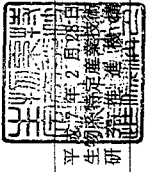
農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成7年2月28日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSF280

合格番号：９４０８３

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ ＧＬ320Ｅ　　クボタ ＧＬ280

2．主要諸元

■型式名		：	クボタ ＧＬ320Ｅ	クボタ ＧＬ280
■種類		：	４輪駆動	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	：	1193	1222
■軸距	mm	：	1645	1645
■機関出力／回転数	kW(PS)/rpm	：	23.5(32)/2800	20.6(28)/2600

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介してブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	84.0 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	129.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	92.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
■戸口の幅	（上部）	：	－ cm
	（中部）	：	－ cm
	（下部）	：	－ cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	－ cm
■最低位ステップの高さ		：	43.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	198.5 cm
■フレームの全幅		：	107.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	34.5 cm

※1．クボタ ＧＬ320Ｅ（タイヤサイズ：前輪 8-16　後輪 11.2-26）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，Ｎ９４８５０
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400, SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45C, SS 400

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側に対して実施。
■基準質量：1250 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.01 kJ｛205 kgf･m｝
　　　　　　　　　　　側部負荷　2.85 kJ｛291 kgf･m｝
■圧壊力：18.39 kN｛1875 kgf｝
2）試験後のフレームの永久変位
■後部（前方へ）：右側　13.0 cm　左側　10.0 cm
■側部（左側方へ）：13.5 cm
■上部（下方へ）：右側　－1.5 cm　左側　5.0 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：10.0 cm

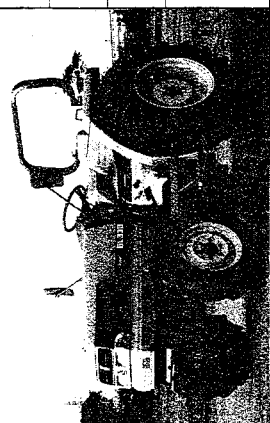
2．騒音 ※
■ 86 dBA〔クボタ ＧＬ320Ｅ〕　　86 dBA〔クボタ ＧＬ280〕
※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号 93012）であり，装着トラクター１型式（クボタ ＧＬ320Ｅ）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成6年1[illegible]月[illegible]日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSF32

合格番号：９３０４５

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名
クボタ ＧＬ－33　クボタ ＧＬ338　クボタ ＧＬ320　クボタ ＧＬ－32
クボタ ＧＬ300　クボタ ＧＬ－29

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型　式　名		クボタ ＧＬ－33	クボタ ＧＬ－29
■種　類		4輪駆動	4輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	1270	1265
■軸　距	mm	1750	1750
■機関出力／回転数	kW(PS)/rpm	24.3(33)/2700	21.3(29)/2700

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介してブレーキハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ	: 88.0	cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ	: 130.0	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	: 94.0	cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	: －	cm
■戸口の幅　（上部）	: －	cm
（中部）	: －	cm
（下部）	: －	cm
■戸口の高さ　（フートプレートから）	: －	cm
■最低位ステップの高さ	: 41.5	cm
■フレーム装着時のトラクターの全高　（屋根部材上面まで）	: 198.0	cm
■フレームの全幅	: 106.0	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	: 33.5	cm

※1．クボタ GL-33（タイヤサイズ ： 前輪 8-16　後輪 13.6-24 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，N98660
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主　フ　レ　ー　ム：STKR 400，SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45C，SS 400

Ⅲ　検査成績

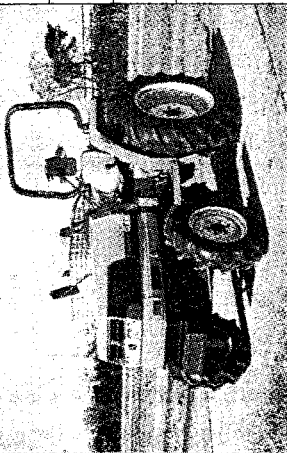
1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側に対して実施。
■基　準　質　量：1300 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.09 kJ {213 kgf･m}
　　　　　　　　　　　側部負荷　2.92 kJ {298 kgf･m}
■圧　壊　力：19.12 kN {1950 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後　部（前方へ）：右側　24.0 cm　左側　21.5 cm
■側　部（左側方へ）：14.0 cm
■上　部（下方へ）：右側　3.0 cm　左側　5.5 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 ：9.0 cm

2．騒　音 ※
■ 85 dBA〔クボタ ＧＬ－33〕　86 dBA〔クボタ ＧＬ－29〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付　記

本フレームは，既合格機（合格番号 93013）であり，装着トラクター１型式（クボタ ＧＬ338）の追加に伴って受検したものである。従って，下記の試験成績を転用した。
強度試験，分解調査

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表	平成7年1月10日 生物系特定産業技術研究推進機構
	型式名：クボタ GSF418
	合格番号：９４０６８
	種　類：安全フレーム（２柱式）
	依頼者名：株式会社　クボタ 住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型 式 名

クボタ ＧＬ418　　クボタ ＧＬ368

2．主要諸元

■型式名		：クボタ ＧＬ418	クボタ ＧＬ368
■種類		：４輪駆動	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	：1505	1506
■軸距	mm	：1830	1830
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	：30.9{42}/2600	26.5{36}/2600

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：103.0	cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：148.0	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：96.5	cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：－	cm
■戸口の幅	（上部）	：－	cm
	（中部）	：－	cm
	（下部）	：－	cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：－	cm
■最低位ステップの高さ		：44.0	cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：218.5	cm
■フレームの全幅		：109.5	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：35.0	cm

※1．クボタ ＧＬ418（タイヤサイズ：前輪 8-16 後輪 13.6-26）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■主フレーム：STKR 400，SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45C，SS 400

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量：1440 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.32 kJ {236 kgf•m}
　　　　　　　　　　　側部負荷　3.11 kJ {318 kgf•m}
■圧壊力：21.18 kN {2160 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■後部（前方へ）：右側　21.5 cm　　左側　19.5 cm
■側部（左側方へ）：17.0 cm
■上部（下方へ）：右側　2.0 cm　　左側　8.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：15.5 cm

2．騒音 ※

■ 89 dBA〔クボタ ＧＬ418〕　　89 dBA〔クボタ ＧＬ368〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

クボタトラクタ

取扱説明書

キャブ付

GL 200・220・240 260・268・280 300・320・338 368・418

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

仕様について

この取扱説明書では，型式仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめの上，お間違いのないようお願いいたします。

- GL200・220・240・260・280・300・320 ……「小特Q_1仕様」
- GL200・220・240・260・280・300・320 ……「小特Q_3仕様」
- GL268・338・368・418 ……「大特Q_1仕様」
- GL268・338・368・418 ……「大特Q_3仕様」

目　次

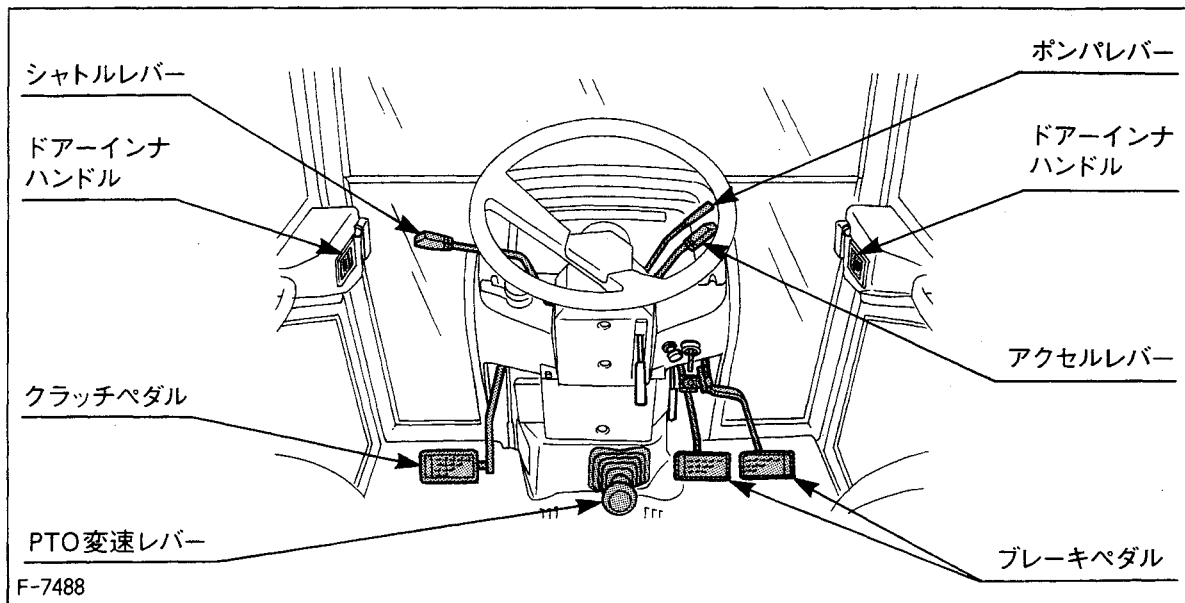
運転に必要な装置の取扱い

運転装置の取扱い

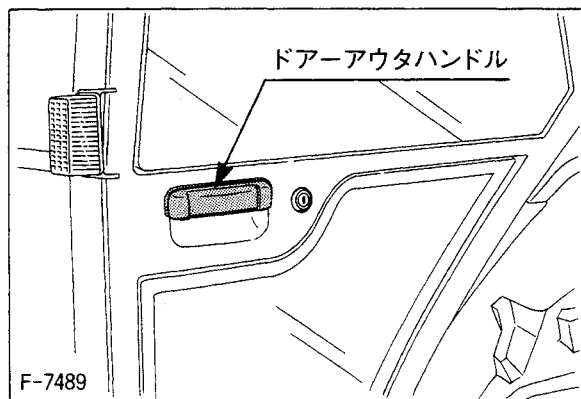
キャブ仕様の変速・油圧レバー及びブレーキ・クラッチペダル関係などの配置は，標準仕様(キャブなし)と同様です。
操作方法及び注意事項については，そちらを参照してください。

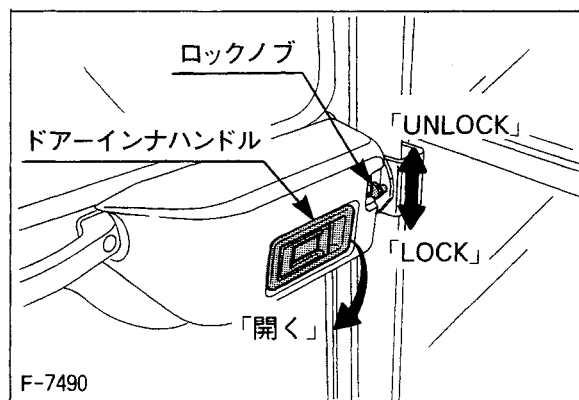
F-7488

ドアー・窓の開閉とロック

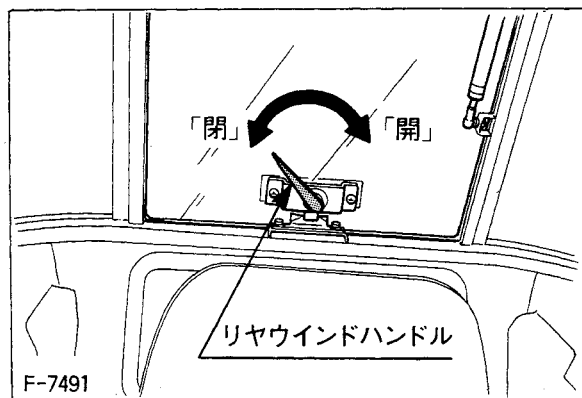
■ドアー

◆ドアーの開閉とロック

車外から……●キー(専用キー)を回すと施錠・解錠されます。
●ドアーアウタハンドルを引き，開けます。

F-7489

車内から……●ロックノブを押込むと施錠，引くと解錠されます。
●インナハンドルを引き，開けます。

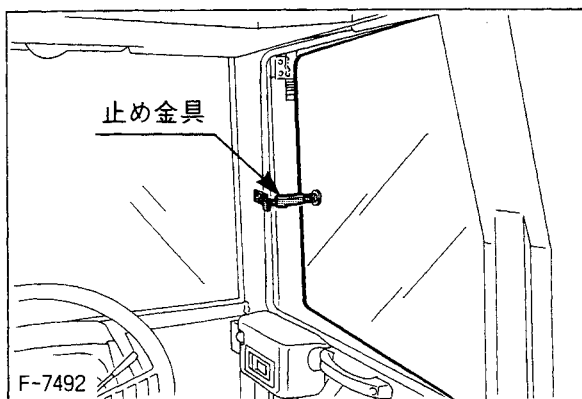
F-7490

■リヤウインド

＊ガラスの取扱いは，ていねいに行なってください。
＊作業機を取付けた場合の開閉は，特に作業機上昇時，安全を確認してから行なってください。
(強化ガラスを使用していますが，作業機の鋭角部との接触はガラスの性格上破損につながります。)
＊リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。(開放時頭などを打つおそれがあります)

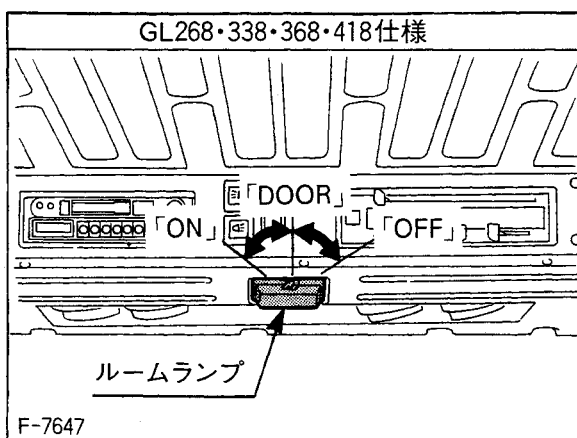
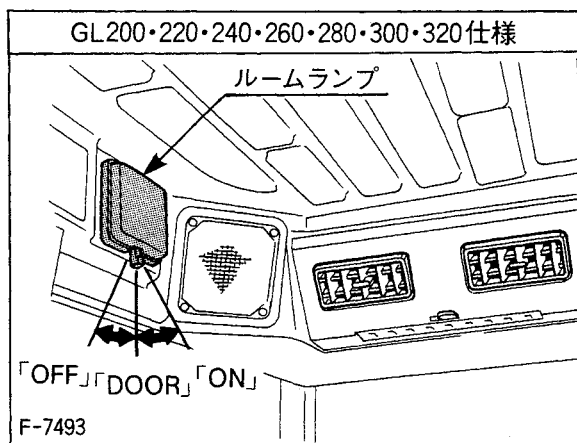
リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で自動的に開きます。

重 要

＊作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■サイドウインド

止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。

■ルームランプ

「OFF」……… 常時消灯。ドアーを開けてもランプは点灯しません。
「DOOR」…. 左ドアーを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。
「ON」……… ドアーの開閉に関係なく，ランプが点灯します。

補 足

＊右ドアーの開閉では，ルームランプの点灯消灯はできません。

フロントワイパ

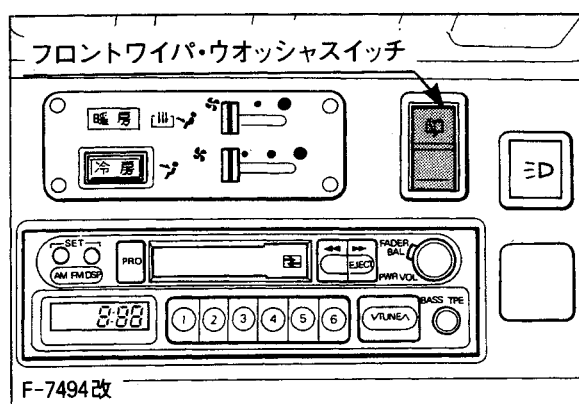
■ワイパ・ウォッシャスイッチ

マークを１段押すとワイパが作動します。さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。

また，ワイパが「OFF」の状態でも マークのついていない側を押すと，押している間ウォッシャ液が噴射します。

マークはライト点灯時点灯します。

補　足

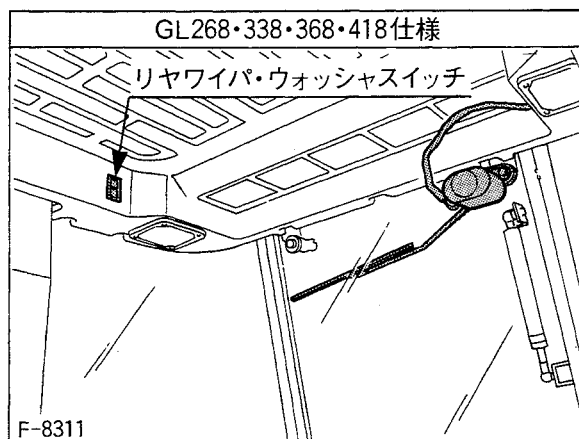
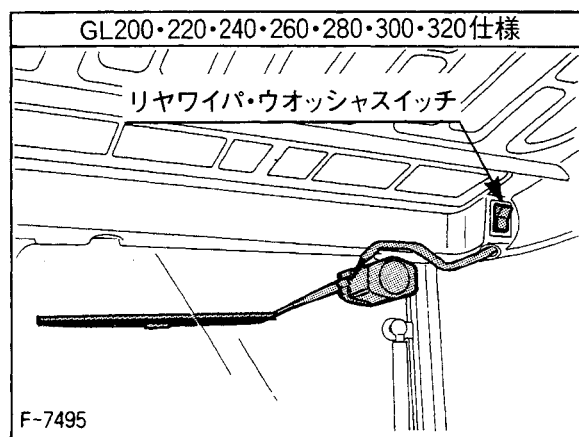
＊からぶきはガラスを傷つけることがあります。
　必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。

リヤワイパ

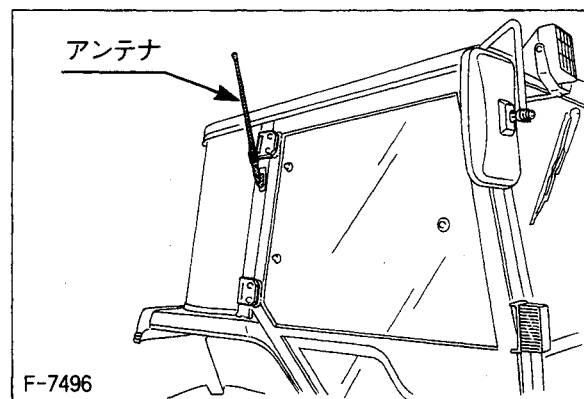
■ワイパ・ウォッシャスイッチ

取扱いはフロントワイパと同様です。

補　足

＊からぶきはガラスを傷つけることがあります。
　必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。

ラジオ

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

■アンテナ

重　要

＊アンテナは角度調整できませんので動かさないでください。

■AM／FMラジオ付きカセットプレーヤ

操作方法は，巻末に記載しておりますので参照してください。

作業灯

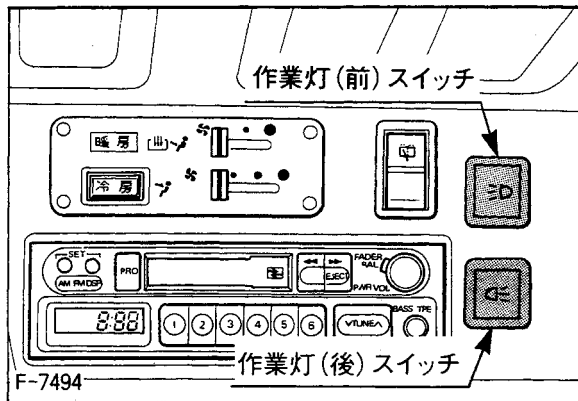
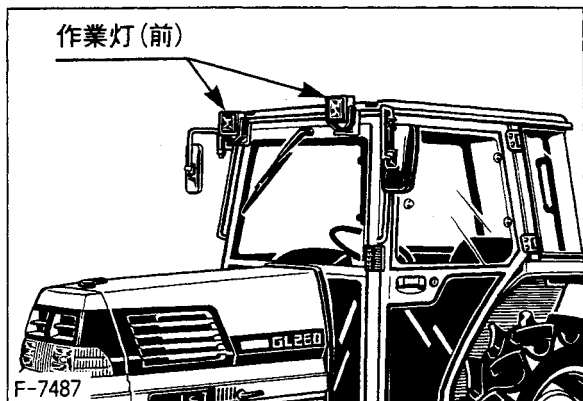
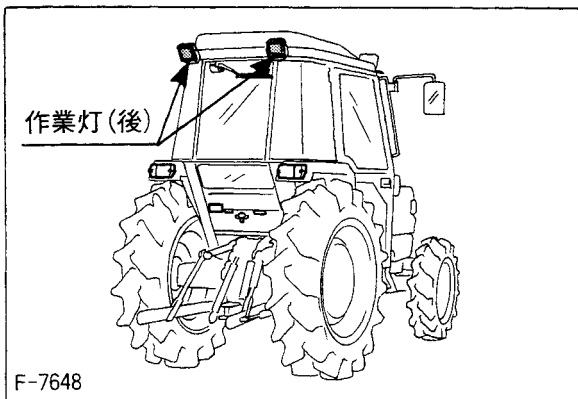
小特Q_1・Q_3仕様	前２灯
大特Q_1・Q_3仕様	前後４灯

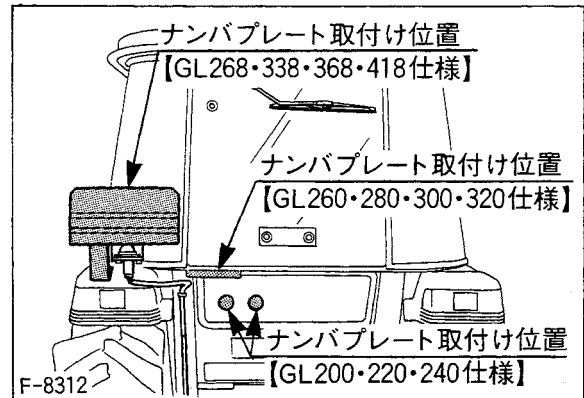
メインスイッチ「ON」位置にして作業灯スイッチを押すと作業灯が点灯します。再度押すと消灯します。

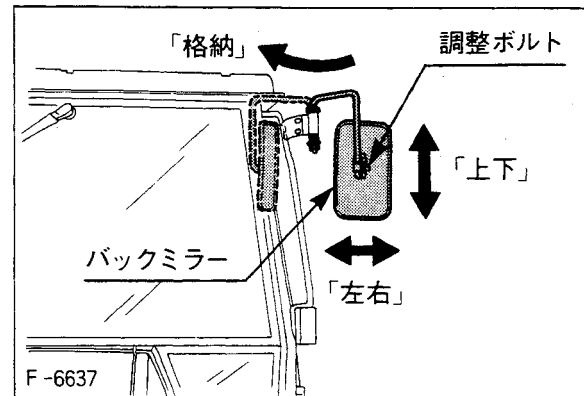
■作業灯スイッチ

■作業灯（前）

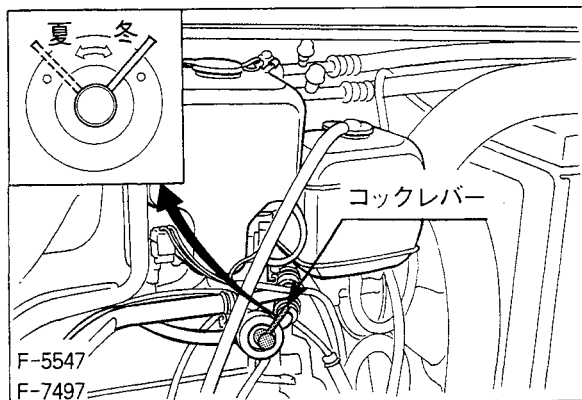
■作業灯（後）

重　要

＊バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1600rpm以上にしてください。

ナンバプレートの取付け

バックミラーの調節・格納

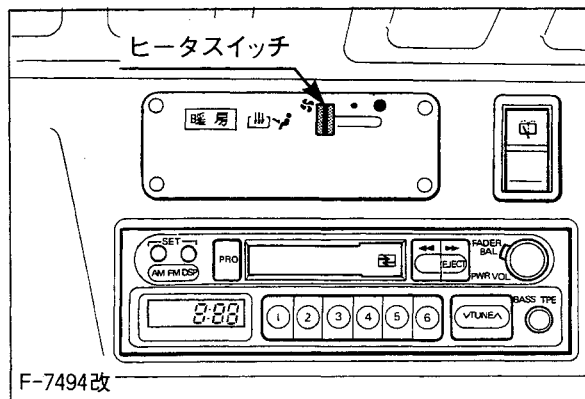
(1)バックミラーは，上下・左右に調節できますので，運転席に座って見やすい位置に調節してください。
(2)バックミラーは，格納できますので狭い場所などで利用してください。

ヒータ【Q_1仕様】

■ヒータ用コック

ヒータを使用するときは，コックを全開(時計方向に回す)にします。
夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，コックを閉じておいてください。

補　足

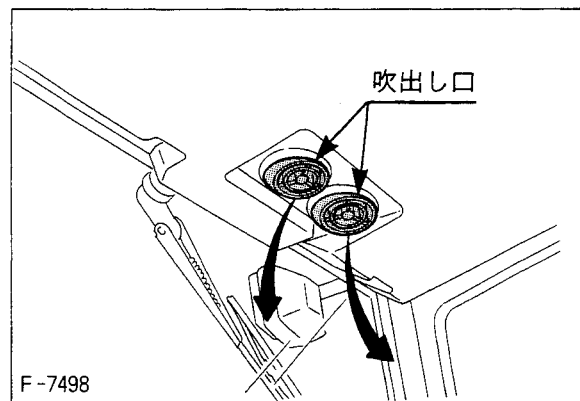
＊水量をチェックするときは，コックを全開にして行なってください。

■ヒータスイッチ

風量を(弱)(強)の2段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。

重　要

＊暖機運転をした後ヒータスイッチを「弱」にしてください。
　また，室温が上昇中にガラスが曇ればやわらかい布で水気をふきとってください。
＊ヒータの吹出し口をふさがないようにしてください。故障の原因になります。

■風向調整

温風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
デフロスタ(フロントガラスのくもり止め)として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。

■ヒータ使用上の注意

注　意

＊ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

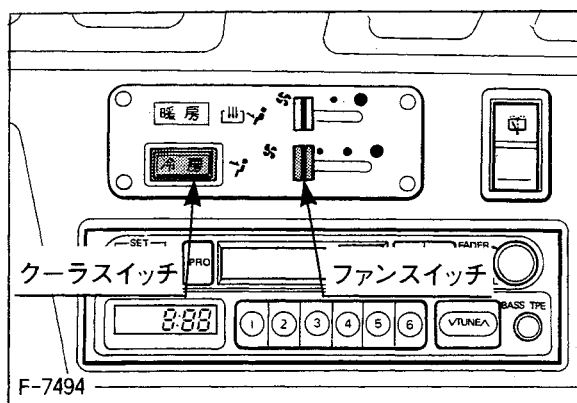
(1)冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
　また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
(2)冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
　(トラクタの **"冷却水の交換"** を参照してください。)
(3)ウォータホースは2シーズンごとに交換を受けてください。
(4)日常点検
　次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
　(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)
- ●ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ
- ●ウォータホースジョイント部の水漏れ
- ●ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
- ●本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損

クーラ・ヒータ【小特Q_3仕様】

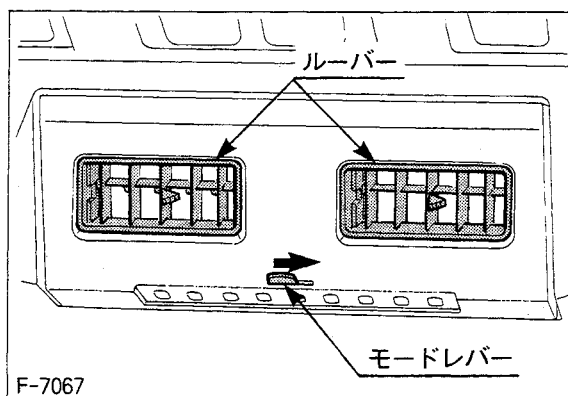
クーラの取扱い

■スイッチ

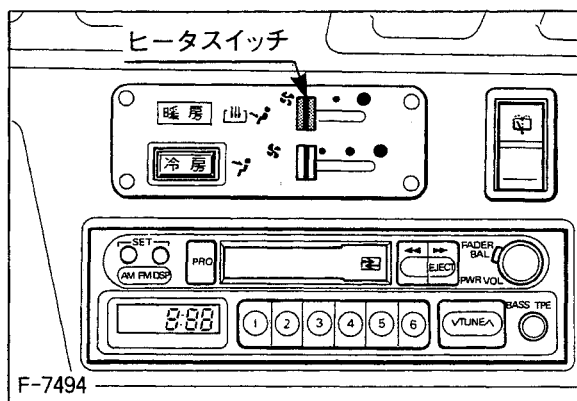
◆ファンスイッチ
風量を(弱)(中)(強)の3段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。

◆クーラスイッチ
クーラを使うときは，このスイッチを押して「ON」にします。(スイッチ内のランプが点灯します)
再度スイッチを押すと「OFF」になります。

■風向調整

◆モードレバー
モードレバーを矢印方向に開くと，冷風は足元方向にも吹出します。

◆ルーバー
冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調整できます。

ヒータの取扱い

■ヒータスイッチ

風量を(弱)(強)の2段階に調整できます。
室内の温度によって使い分けてください。

■除湿暖房

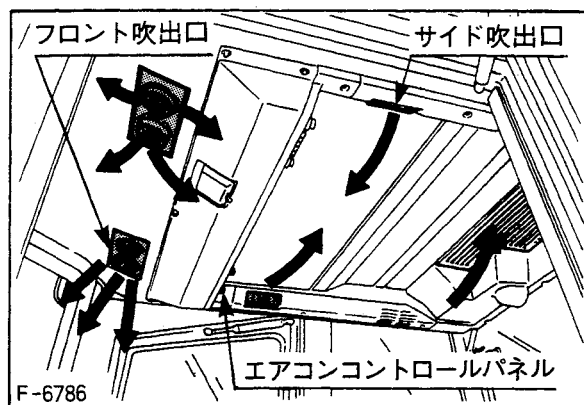
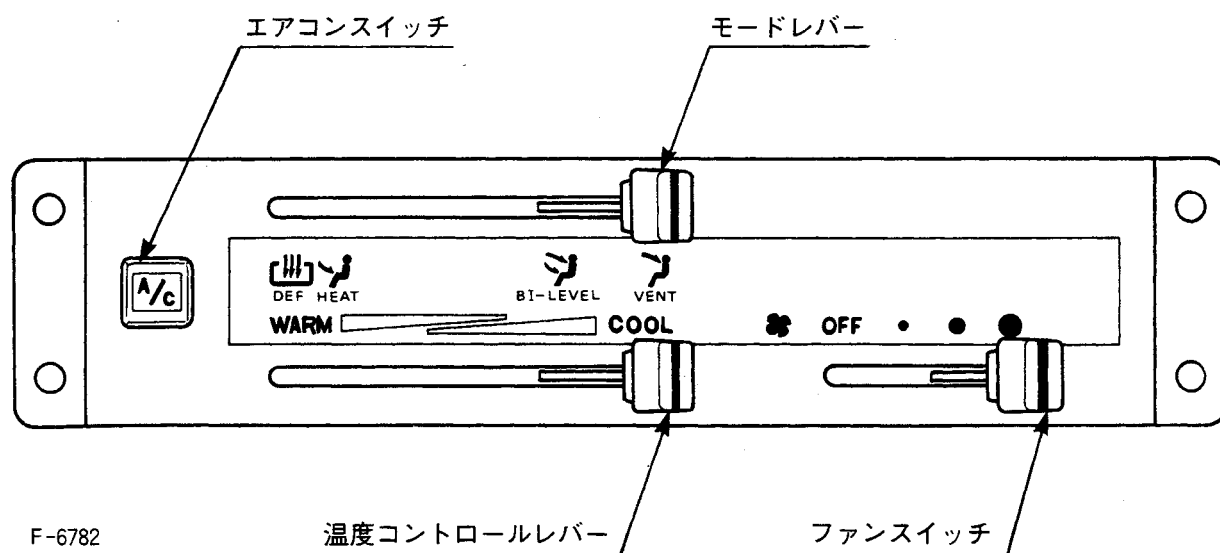
フロントガラスのくもり除去や室内の除湿暖房を行なうときは，クーラとヒータを同時に使用してください。最適のコンディションが得られます。

補　足

＊その他ヒータに関する取扱いは，前ページを参照ください。

エアコン【大特Q_3仕様】

■空気の流れ

キャブ内の空気の流れは下図のとおりです。4ヵ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。

■コントロールパネルの説明

◆モードレバー

風の吹出口を変えるレバーです。
使う目的に応じて位置を選んでください。

DEF HEAT　フロント吹出口より風が出ます。
（ウインドガラスのくもりを取りながら，室内を暖房するときの位置です。）

フロント吹出口及びサイド吹出口より風が出ます。（頭寒足熱時使用します。）

サイド吹出口より風が出ます。
（冷房時使用します。）

◆温度コントロールレバー
温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。左に寄せると温風，右に寄せると冷風が出ます。

◆ファンスイッチ
風量が3段階に切換えられます。

◆エアコンスイッチ
エアコンを使うときは，このスイッチを押して「ON」にします。「ON」のとき，インジケータランプが点灯します。

■取扱操作方法

◆暖房
室内を暖房するとき，DEF HEAT， にセットします。暖かくなりすぎるときは のスピードを下げるか，温度コントロールレバーを右に寄せてください。

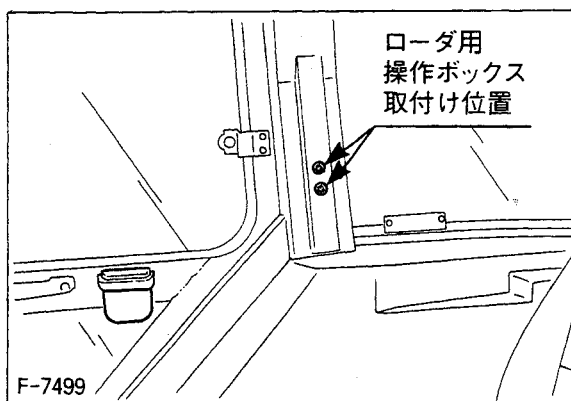
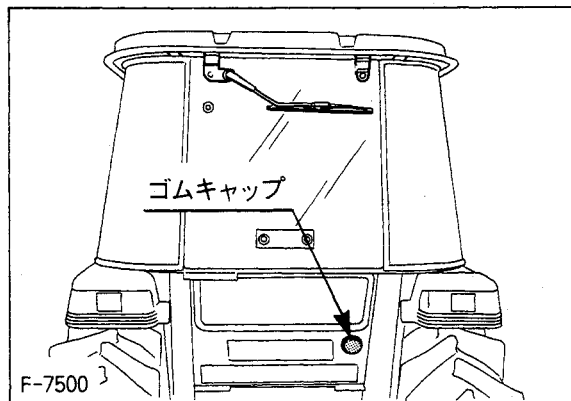
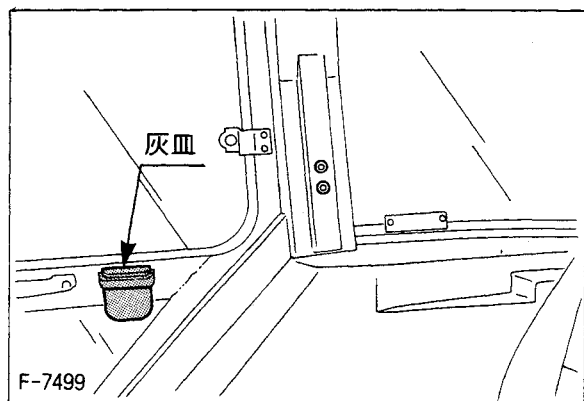
◆除湿暖房
室内の除湿をするときは，DEF HEAT， にセットし，エアコンスイッチA/Cを「ON」にしてください。

◆デフロスト
フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは，DEF HEAT，にセットし，フロント吹出口をフロントガラスに向けてください。

◆頭寒足熱
顔が涼しく，足元が暖かい快適な状態を得るには，BI-LEVEL，にセットし，エアコンスイッチA/Cを「ON」にし，温度コントロールレバーは中間位置を使用してください。

灰皿

インプルメントの装着

ゴムキャップに穴を開け，インプルメント用操作コード・油圧ホースなどをキャブ室内に導入してください。

後輪輪距の調整【GL280Q仕様】

その他の仕様につきましては，トラクタの「**輪距の調整**」の項をご覧ください。

＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

補　足

＊タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

＊ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。

＊後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。
輪距によりディスクの組替えも合せて行なってください。

形　式 (標準タイヤ)	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距	輪距
GL280Q (11.2-26)	1110mm (出荷状態)	1210mm	1230mm	1330mm	1405mm	1500mm

走行速度表【GL280Q仕様】

その他の仕様につきましては，トラクタの「**主要諸元**」の項をご覧ください。

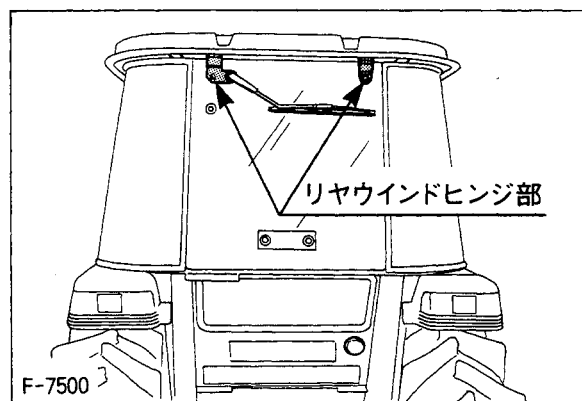
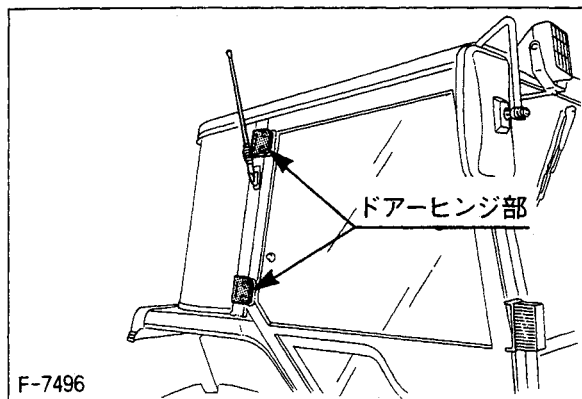
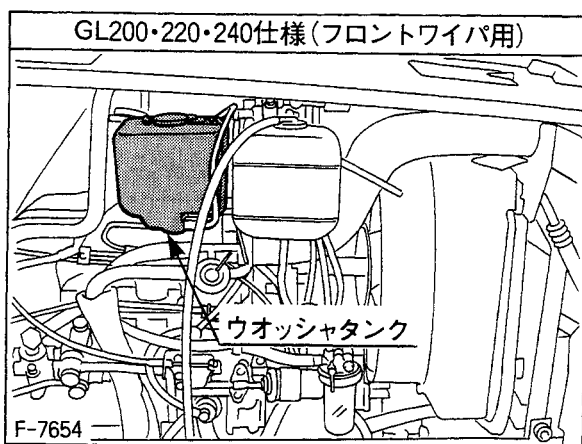
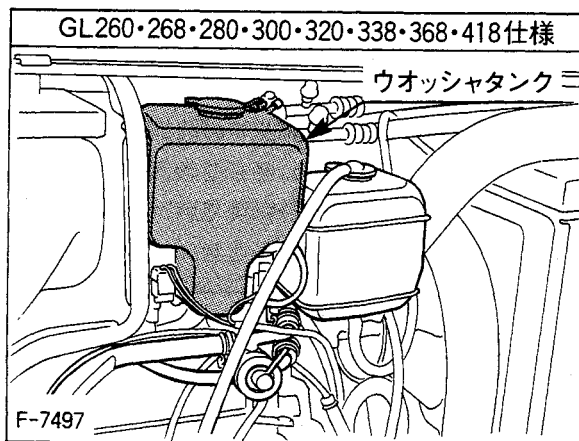
〔km／h〕

マニュアルシフト仕様			Uシフト(F)仕様		GL280Q	
主変速レバー	副変速レバー	クリープレバー	主変速レバー	クリープレバー	前進	後進
1	L	L	1	L	0.22	0.20
2			2		0.32	0.29
3			3		0.39	0.35
4			4		0.51	0.46
1	H		5		0.75	0.67
2			6		1.06	0.95
3			7		1.29	1.16
4			8		1.71	1.54
1	L	H	1	H	1.80	1.62
2			2		2.55	2.30
3			3		3.13	2.82
4			4		4.14	3.73
1	H		5		6.01	5.41
2			6		8.50	7.65
3			7		10.43	9.38
4			8		14.87	13.38

キャブの簡単な手入れと処置

各部への注油と給水

■オイルの注油

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。
（タンク容量2.5ℓ）

重　要

＊凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。

エアコン／クーラ装備品の点検・調整

＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

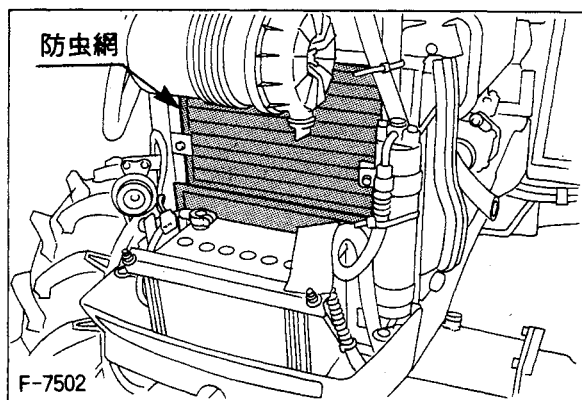
■防虫網の清掃(コンデンサ用)【Q_3仕様】

エアコン／クーラ仕様では，ラジエータと同様にコンデンサの前にも防虫網があります。
防虫網は下側より巻上げ清掃してください。清掃後は，必ずコンデンサに沿って伸ばしておいてください。

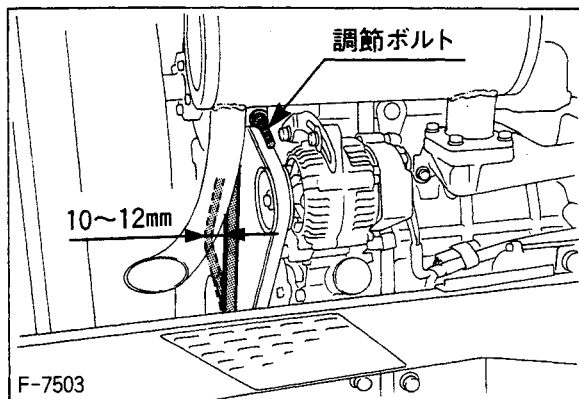
F-7502

■エアコン／クーラベルトの張り【Q_3仕様】

プーリ間のベルトを指で押し点検します。10kgで10～12㎜が適正です。

F-7503

■ヒータ配管，ホースの点検

■エアコン／クーラ配管，ホースの点検【Q_3仕様】

各配管及びホースの損傷を点検してください。

付表

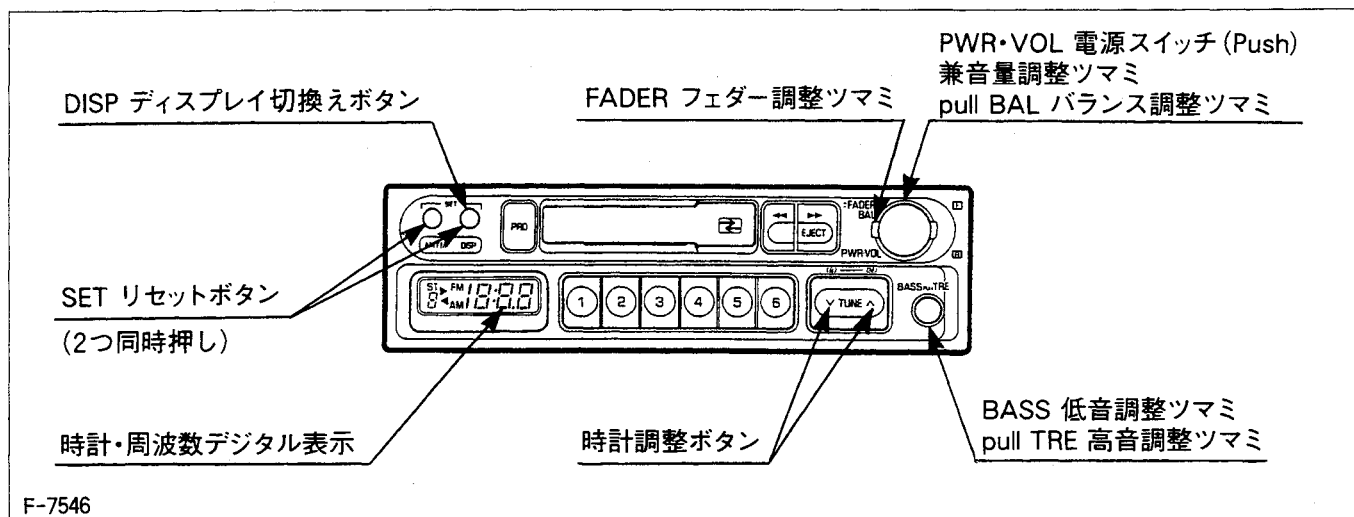
主要諸元

■トラクタの主要諸元

形式	GL200Q	GL220Q	GL240Q	GL260Q	GL268Q	GL280Q
駆動方式	4輪駆動					
機体寸法 全長(mm)	3005			3050		3130
機体寸法 全幅(mm)	1300			1350		1420
機体寸法 全高(mm)	1970		1995		2245	1970
機体寸法 軸距(mm)	1585			1645		1700
機体寸法 輪距 前輪(mm)	950			1080		1130
機体寸法 輪距 後輪(mm)	1010，1130			1050～1345（6段）		1110～1500（6段）
機体寸法 最低地上高(mm)	335		350	345		360
重量(kg)	1245		1285	1310	1370	1350
エンジン 名称	クボタ D1403-L-N	クボタ D1463-LL-N	クボタ D1463-L-N	クボタ D1503-LL-N	クボタD1503-L-N	
エンジン 形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル					
エンジン 総排気量(cc)	1393	1463		1499		
エンジン 出力/回転速度(PS/rpm)	20/2500	22/2500	24/2500	26/2600		28/2600
エンジン 使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油					
エンジン 燃料タンク容量(ℓ)	27					
エンジン 始動方式	セルモータ式（グロープラグ付）					
エンジン バッテリ	75D26R　MF（メンテナンスフリー）					
タイヤ 前輪	6-14-4PR			7-16-4PR		8-16-4PR
タイヤ 後輪	8.3-24-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-22-4PR ニューバランスタイヤ	9.5-24-4PR ニューバランスタイヤ	11.2-24-4PR ニューバランスタイヤ		11.2-26-4PR ニューバランスタイヤ
車体 クラッチ方式	乾式単板					
車体 制動装置	一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）					
車体 かじ取り方式	ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）					
車体 差動方式	2ピニオンかさ歯車式（デフロック付）			4ピニオンかさ歯車式（デフロック付）		
車体 変速方式	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動／Uシフト				Uシフト	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動／Uシフト
変速段数(段)	前進16，後進16（シャトル）					
走行速度(km/h) 前進	0.22～14.65		0.23～14.88	0.22～14.80	0.32～23.73	0.22～14.87
走行速度(km/h) 後進	0.19～13.19		0.20～13.39	0.19～13.32	0.30～21.91	0.20～13.38
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)	1.9			2.1		
PTO 回転速度／エンジン回転速度(rpm) 正転	546,772 947,1254/2500			568,803 985,1304/2600		544,770 944,1250/2600
PTO 回転速度／エンジン回転速度(rpm) 逆転	772/2500			803/2600		770/2600
PTO 軸寸法(mm)	JIS　35					
昇降作業装置 制御方式	ポジションコントロール					
昇降作業装置 装着方式	3点リンク　JIS　1形					

形式			GL300Q	GL320Q	GL338Q	GL368Q	GL418Q
駆動方式			4輪駆動				
機体寸法	全長(mm)		3180			3325	
機体寸法	全幅(mm)		1420	1455		1500	1490
機体寸法	全高(mm)		1990		2245	2290	
機体寸法	軸距(mm)		1750			1830	
機体寸法	輪距	前輪(mm)	1130				
機体寸法	輪距	後輪(mm)	1085～1475(6段)	1110～1575(6段)		1180～1473(5段)	1155～1447(5段)
機体寸法	最低地上高(mm)		360				
重量(kg)			1400	1410	1465	1640	
エンジン	名称		クボタD1503-N	クボタD1503-H-N	クボタD1703-N	クボタV1903-E-Q	クボタV2203-E-Q
エンジン	形式		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル			水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル	
エンジン	総排気量(cc)		1499		1647	1857	2197
エンジン	出力/回転速度(PS/rpm)		30/2700	32/2800	33/2700	36/2600	42/2600
エンジン	使用燃料		クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油				
エンジン	燃料タンク容量(ℓ)		35				
エンジン	始動方式		セルモータ式(グロープラグ付)				
エンジン	バッテリ		75D26R MF(メンテナンスフリー)			75D31R MF(メンテナンスフリー)	
タイヤ	前輪		8-16-4PR				
タイヤ	後輪		12.4-26-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-24-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-24-4PR ニューバランスタイヤ	12.4-28-4PR ニューバランスタイヤ	13.6-26-4PR ニューバランスタイヤ
車体	クラッチ方式		乾式単板				
車体	制動装置		一系統左右独立(連結装置付)，湿式ディスクブレーキ(機械式)				
車体	かじ取り方式		ボールスクリュ式(インテグラルパワーステアリング)			全油圧式パワーステアリング	
車体	差動方式		4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)				
車体	変速方式		コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動／Uシフト		Uシフト	コンスタントメッシュ，ギヤしゅう動／Uシフト	
変速段数(段)			前進16，後進16(シャトル)				
走行速度(km/h)		前進	0.22～14.48	0.22～14.90	0.32～23.21	0.17～25.13	
走行速度(km/h)		後進	0.20～13.03	0.20～13.41	0.29～21.18	0.15～23.04	
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)			2.2			2.3	
PTO	回転速度/エンジン回転速度(rpm)	正転	565,800 980,1298/2700	586,829 1016,1346/2800	565,800 980,1298/2700	544,806,1252/2600	
PTO	回転速度/エンジン回転速度(rpm)	逆転	800/2700	829/2800	800/2700	544/2600	
PTO	軸寸法(mm)		JIS 35				
昇降作業装置	制御方式		ポジションコントロール				
昇降作業装置	装着方式		3点リンク JIS 1形				

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

スイッチ・ツマミの取扱い

■PWR・VOL 電源スイッチ(Push) 兼音量調整ツマミ

押すたびに電源の「ON」「OFF」が切換わります。
ツマミを時計方向( )に回すと音量が増大します。
反時計方向( )に回すと音量が減衰します。

■pull BAL バランス調整ツマミ

ツマミを引き時計方向( )に回すと右側スピーカの音量が強調され，反時計方向( )に回すと左側スピーカの音量が強調されます。
調整後はツマミを押し，元に戻して使用してください。

■FADER フェダー調整ツマミ

2スピーカ方式のため，ツマミを時計方向( )に回してご使用ください。

補足

＊フェダーノブを反時計方向に回すと音が出ません。

■BASS 低音調整ツマミ

ツマミの中間位置(クリック部分)に対して時計方向( )に回すと低音が強調され，反時計方向( )に回すと低音が減衰されます。

■pull TRE 高音調整ツマミ

ツマミを引きツマミ中間位置(クリック部分)に対して時計方向( )に回すと高音が強調され，反時計方向( )に回すと高音が減衰されます。

■DISP ディスプレイ切換えボタン

放送受信時にDISPボタンを押すと5秒間周波数表示されます。

■時計表示の合わせ方(時計調整ボタン)

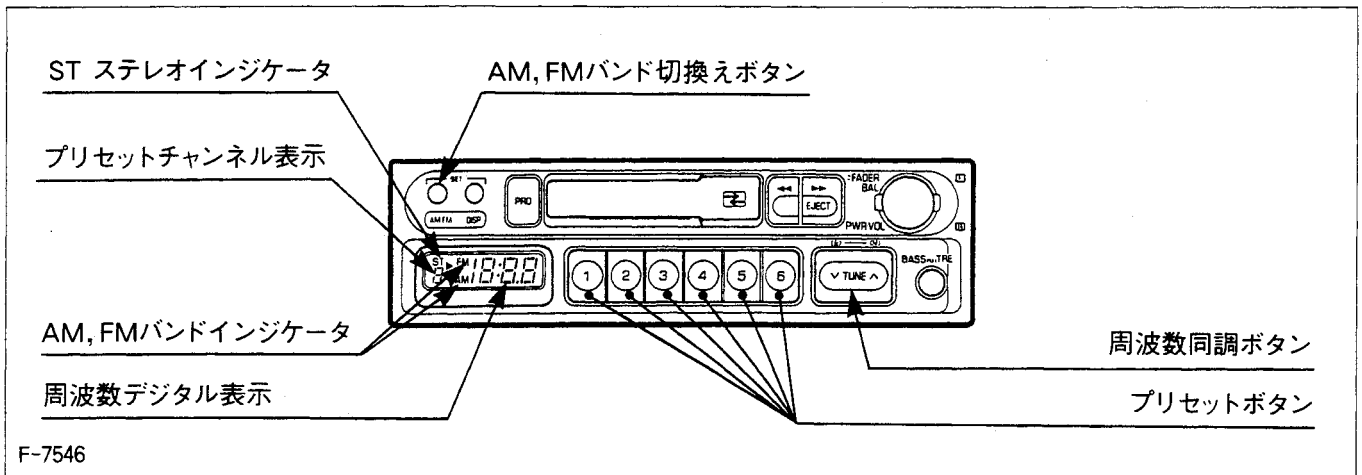
DISPボタンを押しながら(∨H)ボタンを押すと，時間表示が変わります。
DISPボタンを押しながら(∧M)ボタンを押すと，分表示が変わります。

■SET リセットボタン(2つ同時押し)

AM・FM，DISPのボタンを同時に押すことにより，時計の“分”の単位をゼロにリセットできます。
“分”が30～59のときリセットすると“時”の単位を1つ進めてゼロリセットし，00～29のときは“時”をそのままにゼロリセットします。

補足

＊本機はエンジンキーを「OFF」にしても時計表示をしていますが，電流消費量を少なくするため表示部の照明は点灯しません。

ラジオを聞くには

■AM，FM バンド切換えボタン

バンド切換えボタンを押すとAM，FMのバンドが切換えられ，受信バンドは各々“AM”“FM”とバンドインジケータに表示します。

■ST ステレオインジケータ

FMステレオ放送受信時に“ST”の文字を表示します。

■周波数デジタル表示

受信周波数をデジタル表示します。
AM放送受信時はkHz単位で，FM放送受信時はMHzで表示します。

次のいずれかのボタンを押して選局します

■周波数同調ボタン

[∧] ボタンを押すと，周波数のデジタル表示数が増加し，[∨] ボタンを押すと表示数が少なくなります。AM受信時は9kHzずつ移行し，FM受信時は，0.1MHzづつ移行します。

[∧] ボタンを0.5秒以上押し続けて離すと周波数のデジタル表示が増加し，自動的に選局，停止し，受信を継続します。

[∨] ボタンも同様に減少側を動作します。

■プリセットボタン

あらかじめ，このボタンにご希望の放送局をプリセットメモリしておきますと，ワンタッチで選局することができます。

プリセットメモリの方法

AM放送6局，FM放送6局をプリセットメモリすることができます。

◆プリセット手順

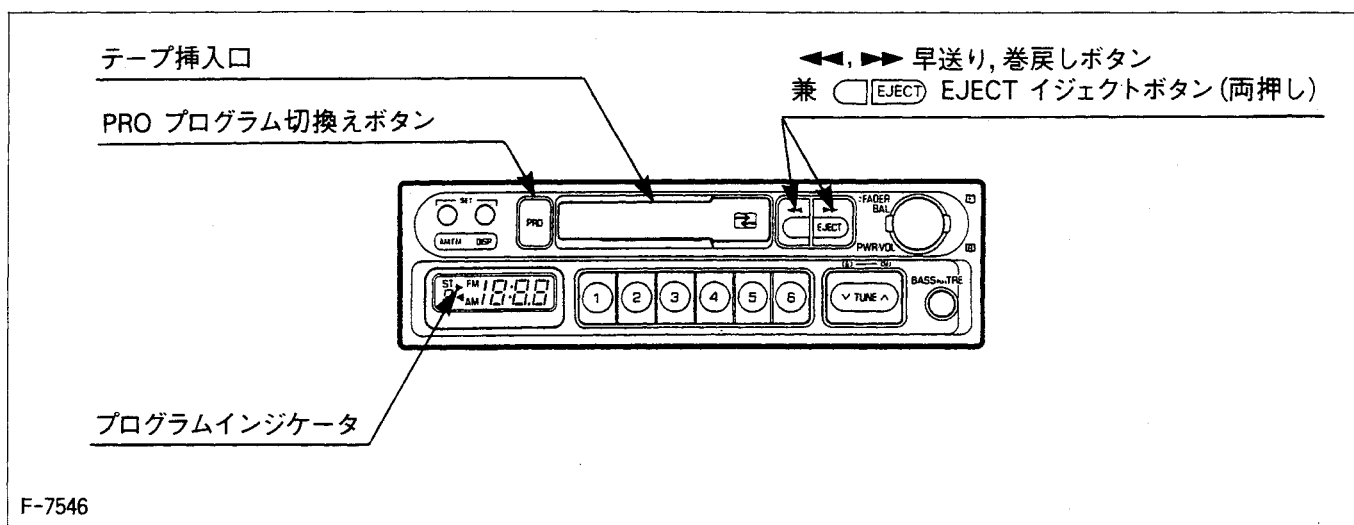
文章及び図中番号順に操作します

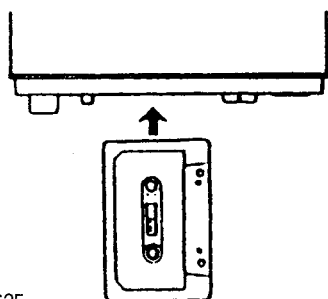
❶カセットテープを取出し，チューナ動作にした後，バンド切換えボタンを押し，AM放送かFM放送かを決めます。

❷周波数同調(マニュアル)ボタンで放送局を選局します。

❸メモリさせたいナンバのプリセットボタンを押し続けます。押すといったん音が消え，2秒後に再び音が出ます。
音が出ましたら完了です。
(このときチャンネル表示は押されたプリセット番号を表示します)

以上で完了です。

テープを聞くには

■テープ挿入口

電源スイッチをONにしテープの見える面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に再生を開始します。

■ ◁ ▷ プログラムインジケータ

テープの走行方向を2つのインジケータが表示します。

■ ◁◁, ▷▷ 早送り，巻戻しボタン

◆早送りの場合

プログラムインジケータが ◁ (左方向) 点灯時は，◁◁ (左側) ボタンを押します。▷ (右方向) 点灯時は，▷▷ (右側) ボタンを押します。
ボタンを押すと，テープは早送りされます。

◆巻戻しの場合

プログラムインジケータが ◁ (左方向) 点灯時は，▷▷ (右側) ボタンを押します。▷ (右方向) 点灯時は，◁◁ (左側) ボタンを押します。
ボタンを押すと，テープは巻戻しされます。
早送り，巻戻しを途中で解除する場合は，隣のボタンを軽く押します。

■PRO プログラム切換えボタン

◆自動プログラム切換え

テープが終端に達すると，自動プログラム切換え装置が働き自動的に次のプログラムに切換わり，連続再生することができます。

◆手動プログラム切換え

プログラム切換えボタンを押すと，プログラムインジケータの点灯方向が切換わり，再生途中でも自由にプログラムが切換えられます。

■EJECT イジェクトボタン

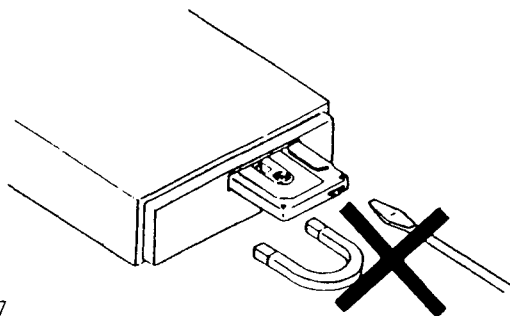
早送り，巻戻しボタンを同時に押してください。カセットテープが飛出します。

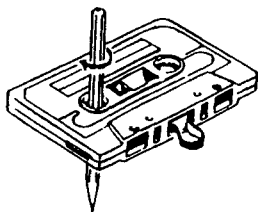
補 足

＊カセットテープを聞かないときは，必ずイジェクトボタンを押してテープを取出してください。

取扱い上の注意

(1)本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。

(2)ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。

F-6627

(3)カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。

F-6626

(4)カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押し挿入してください。

(5)C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。

(6)ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。

(7)ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。

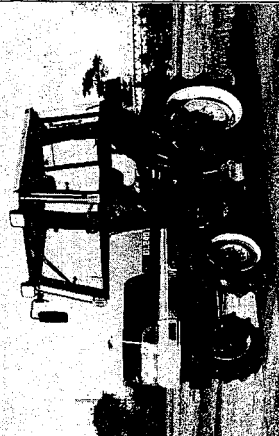
(8)車内の温度に気をつけてください。
極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。

(9)本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞える程度でお楽しみください。

(10)本機のお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。

(11)カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所(ダッシュボート上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成6年1月6日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GS0240

合格番号：93042

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型 式 名
   クボタ GL240　　クボタ GL220　　クボタ GL200

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型　式　名		： クボタ GL240	クボタ GL200
■種　　類		： 4輪駆動	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	： 1295	1256
■軸　　距	mm	： 1585	1585
■機関出力／回転数	kW(PS)/rpm	： 17.7(24)/2500	14.7(20)/2500

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着法
   供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部，後車軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2. 主な装備
   シートベルト（2点式），暖房装置，電動ワイパー（前・後）

3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		： 90.0	cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		： 133.0	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		： 100.0	cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		： 110.0	cm
■戸口の幅	（上部）	： 63.5	cm
	（中部）	： 80.0	cm
	（下部）	： 35.0	cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	： 122.5	cm
■最低位ステップの高さ		： 37.0	cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	： 199.0	cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	： 120.0	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		： 23.5	cm

※1. クボタ GL240（タイヤサイズ ： 前輪 6-14　後輪 9.5-24）に装着時。
　2. トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，N94850
　3. ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4. 主要材料
   ■主　フ　レ　ー　ム：STK 400，STKR 400，SS 400，SPHC，SPCC
   ■装着ブラケット：SS 400，SPHC
   ■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ 検査成績

1. 強度試験
 1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。
   ■基　準　質　量：1300 kg
   ■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.09 kJ {213 kgf･m}
   　　　　　　　　　　　側部負荷　2.92 kJ {298 kgf･m}
   ■圧　壊　力：19.12 kN {1950 kgf}
 2）試験後のキャブの永久変位
   ■後　部（前方へ）：右側　1.5 cm　左側　4.5 cm
   ■前　部（後方へ）：右側　−2.0 cm　左側　−7.5 cm
   ■側　部（左側方へ）：前側　4.5 cm　後側　14.5 cm
   ■上　部（下方へ）：前部 右側　0.5 cm　左側　0 cm
   　　　　　　　　　　後部 右側　1.5 cm　左側　2.0 cm
 3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 9.0 cm

2. 騒　音 ※
   ■ 84 dBA 〔クボタ GL240〕　　82 dBA 〔クボタ GL200〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付　記

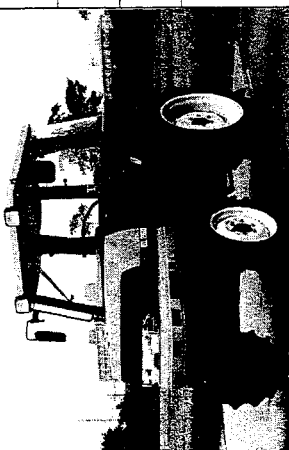
強度試験は、コードⅡにより実施した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ GSO260

合格番号：9 3 0 0 8

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

I　装着可能トラクター

1．型　式　名
　クボタ GL260

2．主要諸元
- ■型　式　名　：　クボタ GL260
- ■種　類　：　4輪駆動
- ■質量（キャブ付き）　kg　：　1357
- ■軸　距　mm　：　1645
- ■機関出力／回転数　kW(PS)/rpm　：　19.1(26)/2600

II　構造の概要

1．構造及び装着法
　供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部，後車軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
　シートベルト（2点式），暖房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法　※

項目			寸法
■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	90.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	132.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		：	100.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	110.0 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.5 cm
	（中部）	：	80.0 cm
	（下部）	：	35.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	123.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	36.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	199.5 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	120.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	25.0 cm

※1．クボタ GL260（タイヤサイズ：前輪 7-16　後輪 11.2-24）に装着時。
　2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
　3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
- ■主　フ　レ　ー　ム：STK 400, STKR 400, SS 400, SPHC, SPCC
- ■装着ブラケット：SS 400, SPHC
- ■組立・装着ボルト：S40～45C

III　検査成績

1．強度試験
　1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。
- ■基　準　質　量：1370 kg
- ■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.21 kJ {225 kgf･m}
　　　　　　　　　　　　側部負荷　3.02 kJ {308 kgf･m}
- ■圧　壊　力：20.15 kN {2055 kgf}

　2）試験後のキャブの永久変位
- ■後　部（前 方 へ）：右側　2.0 cm　左側　8.5 cm
- ■前　部（後 方 へ）：右側　1.0 cm　左側　−10.0 cm
- ■側　部（左側方へ）：前側　4.0 cm　後側　19.5 cm
- ■上　部（下 方 へ）：前部 右側　1.0 cm　左側　3.0 cm
　　　　　　　　　　　　後部 右側　4.0 cm　左側　6.0 cm

　3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：10.0 cm

2．騒　音 ※
- ■83 dBA〔クボタ GL260〕

※　7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

IV　付　記

強度試験は、コードIIにより実施した。

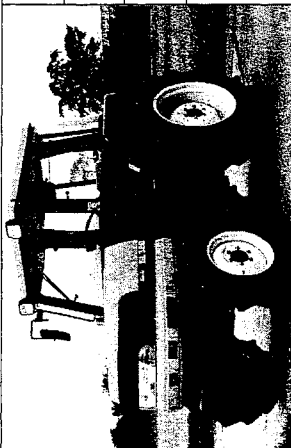
農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成6年8月3日
生物系特定産業技術研究推進機構

型 式 名：クボタ GL320

合格番号：９３００９

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型 式 名
クボタ ＧＬ320　　クボタ ＧＬ300　　クボタ ＧＬ280

2．主 要 諸 元（最大及び最小トラクター）

■型　式　名		：	クボタ ＧＬ320	クボタ ＧＬ280
■種　　類		：	４輪駆動	４輪駆動
■質 量（キャブ付き）	kg	：	1426	1395
■軸　　距	mm	：	1750	1700
■機 関 出 力 / 回 転 数	kW(PS)/rpm	：	23.5(32)/2800	20.6(28)/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法
　供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部，後車軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主 な 装 備
シートベルト（２点式），暖房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主 要 寸 法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	89.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	132.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		：	99.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	110.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.5 cm
	（中部）	：	80.0 cm
	（下部）	：	34.5 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	120.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	37.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	199.5 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	120.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	24.5 cm

※1．クボタ ＧＬ320（タイヤサイズ ： 前輪 8-16　後輪 13.6-24 ）に装着時。
　2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，N94850
　3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主　フ　レ　ー　ム：STK 400, STKR 400, SS 400, SPHC, SPCC
■装 着 ブ ラ ケ ッ ト：SS 400, SPHC
■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。
■基　準　質　量：1430 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.30 kJ〔235 kgf･m〕
　　　　　　　　　　側部負荷　3.10 kJ〔316 kgf･m〕
■圧　　壊　　力：21.04 kN〔2145 kgf〕
2）試験後のキャブの永久変位
■後　部（前 方 へ）：右側　1.5 cm　左側　7.5 cm
■前　部（後 方 へ）：右側　1.5 cm　左側　－8.0 cm
■側　部（左側方へ）：前側　5.0 cm　後側　19.0 cm
■上　部（下 方 へ）：前部 右側　0.5 cm　左側　1.5 cm
　　　　　　　　　　後部 右側　4.0 cm　左側　6.0 cm
3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 10.0 cm

2．騒　音 ※
■ 83 dBA〔クボタ ＧＬ320〕　　83 dBA〔クボタ ＧＬ280〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付　記

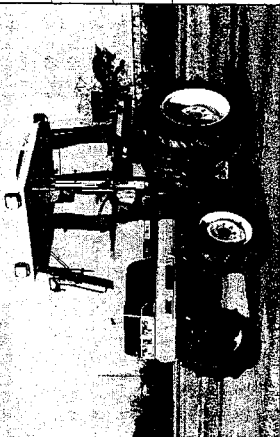
強度試験は、コードⅡにより実施した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名	クボタ GS0338
合格番号	93043
種類	安全キャブ
依頼者名	株式会社 クボタ
住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

I 装着可能トラクター

1. 型式名
   クボタ GL338　　クボタ GL268

2. 主要諸元

■型式名		クボタ GL338	クボタ GL268
■種類		4輪駆動	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	1460	1384
■軸距	mm	1750	1645
■機関出力／回転数	kW(PS)/rpm	24.3(33)/2700	19.1(26)/2600

II 構造の概要

1. 構造及び装着法
   供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部，後車軸ケース部及びブレーキハウジング部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。
2. 主な装備
   シートベルト（2点式），暖房装置，電動ワイパー（前・後）
3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		101.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		143.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		102.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		110.5 cm
■戸口の幅	（上部）	63.5 cm
	（中部）	82.0 cm
	（下部）	34.5 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	136.5 cm
■最低位ステップの高さ		37.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	224.0 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	120.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		27.0 cm

※1. クボタ GL338（タイヤサイズ：前輪 8-16 後輪 13.6-24）に装着時。
2. トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
3. ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4. 主要材料
   ■主フレーム：STK 400，STKR 400，SS 400，SPHC，SPCC
   ■装着ブラケット：SS 400，SPHC
   ■組立・装着ボルト：S40～45C

III 検査成績

1. 強度試験
   1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。
   ■基準質量：1470 kg
   ■所要吸収エネルギー：後部負荷 2.37 kJ (241 kgf・m)
   　側部負荷 3.16 kJ (322 kgf・m)
   ■圧壊力：21.62 kN (2205 kgf)
   2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	右側	2.0 cm	左側	7.5 cm
■前部（後方へ）	右側	1.0 cm	左側	−8.5 cm
■側部（左側方へ）	前側	5.5 cm	後側	18.5 cm
■上部（下方へ）	前部 右側	0.5 cm	左側	1.0 cm
	後部 右側	4.0 cm	左側	5.5 cm

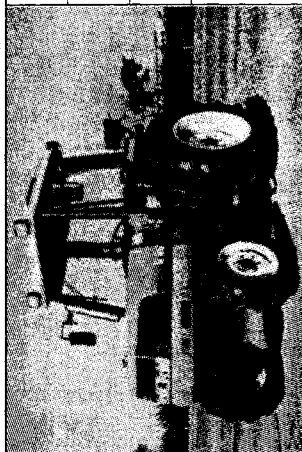
   3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：10.5 cm
2. 騒音 ※
   ■ 82 dBA（クボタ GL338）　　82 dBA（クボタ GL268）

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

IV 付記

強度試験は，コードIIにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成7年1月10日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ GSQ418

合格番号：９４０６７

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型　式　名
　クボタ ＧＬ418　　クボタ ＧＬ368

2．主要諸元

		クボタ ＧＬ418	クボタ ＧＬ368
■型　　式　　名		クボタ ＧＬ418	クボタ ＧＬ368
■種　　　　類		４輪駆動	４輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	1634	1635
■軸　　　　距	mm	1830	1830
■機関出力／回転数	kW(PS)/rpm	30.9(42)/2600	26.5(36)/2800

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
　供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
　暖房装置，電動ワイパー（前・後），シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		101.0	cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		146.5	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		102.5	cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		111.5	cm
■戸口の幅	（上部）	66.0	cm
	（中部）	81.0	cm
	（下部）	36.0	cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	136.5	cm
■最低位ステップの高さ		38.5	cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	227.5	cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	120.5	cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		26.5	cm

※1．クボタ ＧＬ418（タイヤサイズ：前輪 8-16 後輪 13.6-26）に装着時。
　2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
　3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
　■主　フ　レ　ー　ム：STK 400, STKR 400, SPHC, SS400, SPCC
　■装着ブラケット：SPHC, SS 400
　■組立・装着ボルト：S40～45C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。
　■基　準　質　量：1640 kg
　■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.64 kJ (269 kgf・m)
　　　　　　　　　　　　側部負荷　3.39 kJ (346 kgf・m)
　■圧　　壊　　力：24.12 kN (2460 kgf)

2）試験後のキャブの永久変位
　■後　部（前 方 へ）：右側　4.0 cm　　左側　12.0 cm
　■前　部（後 方 へ）：右側　0.5 cm　　左側　−11.5 cm
　■側　部（左側方へ）：前側　7.5 cm　　後側　21.0 cm
　■上　部（下 方 へ）：前部 右側　1.0 cm　　左側　1.0 cm
　　　　　　　　　　　　後部 右側　5.0 cm　　左側　7.0 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：10.0 cm

2．騒　音 ※
　■ 85 dBA〔クボタ ＧＬ418〕　　85 dBA〔クボタ ＧＬ368〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付　記

強度試験はコードⅡにより実施した。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

GLシリーズ①
AA. △. 3-4. 22. K

株式会社クボタ

本　　　　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東　京　本　社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北 海 道 支 社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東　北　支　社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中　部　支　社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九　州　支　社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札　幌　支　店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙　台　支　店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東　京　支　店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大　阪　支　店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡　山　支　店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福　岡　支　店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺　製　造　所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工 場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑　波　工　場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚 方 製 造 所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋　田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙　台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東　京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新　潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金　沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大　阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米　子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡　山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高　松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福　岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊　本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　T0070—1920—1